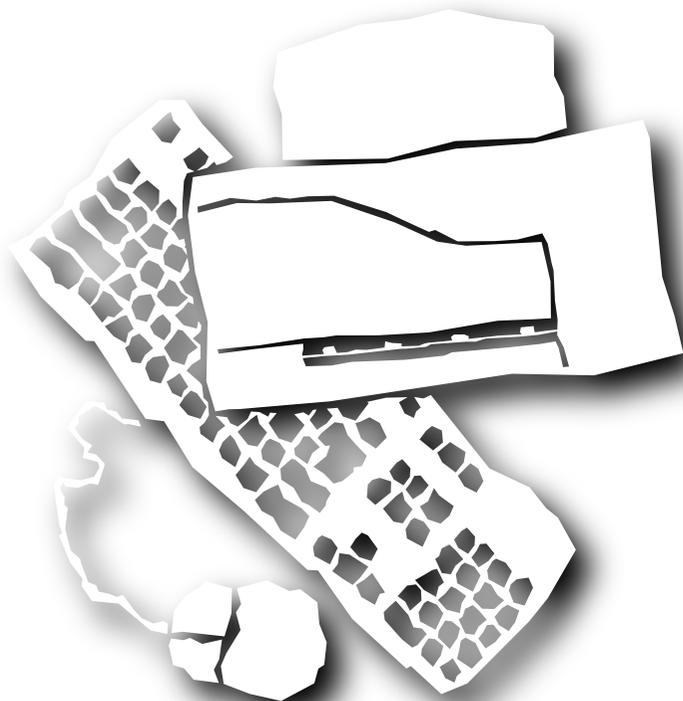


FMV SERIES

FMV-DESKPOWER MIX36L/MIX367/MIX365



B3FH-4921-01

- ▶ 本パソコンの取り扱い
- ▶ オプション機器を使うには
- ▶ BIOSセットアップ
- ▶ 仕様一覧
- ▶ 付録
- ▶ 索引

FMV 本体 & オプションガイド

パソコン本体の取り扱い方法や
オプション機器の接続方法を説明しています。
プリンタやメモリを接続するときなど、
必要なときにお読みください。

5

FUJITSU



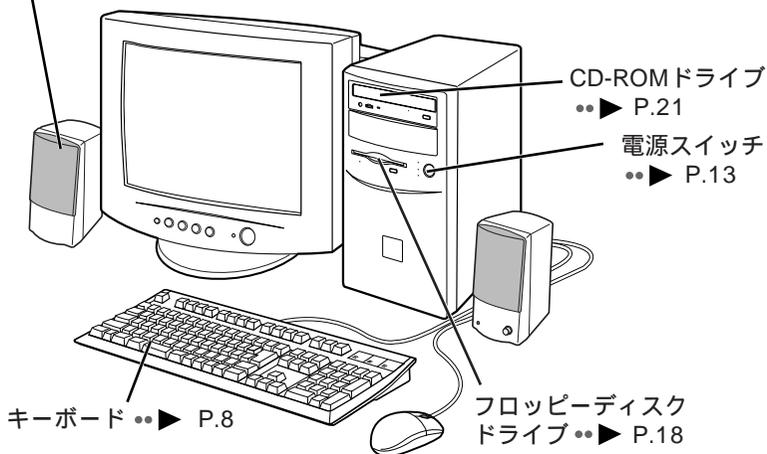
『FMV 本体&オプションガイド』は、本パソコンの取り扱い方法や、別売りのオプション機器の取り付け方法について説明しています。

ここでは、本書の各章の内容を説明します。

第1章 本パソコンの取り扱い

本パソコンの各部の名称と働きや、取り扱い方法について説明しています。●▶ P.1

スピーカー ●▶ P.14



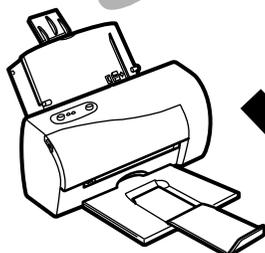
お手入れのしかた ●▶ P.24

(イラストはMIX367です)

第2章 オプション機器を使うには

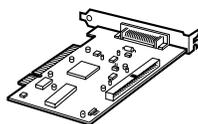
別売りのオプション機器の取り付け方法や設定方法について説明しています。●▶P.29

プリンタを接続するには



プリンタ●▶P.33

パソコンの機能を
増やすには



拡張カード●▶P.49

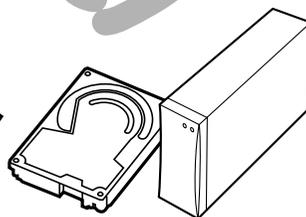
パソコンの処理速度を
上げるには



メモリ●▶P.43

* その他のオプション機器を使う ●▶P.87

パソコンの記憶容量を
増やすには



内蔵ハードディスク
外付けハードディスク ●▶P.60

第3章 BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や設定をご購入時の状態に戻す方法、パスワードの設定方法などについて説明しています。●▶P.93

日常的にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。●▶P.129

付 録

その他の注意事項などについて説明しています。●▶P.141

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いのモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上に■をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

- FMV-DESKPOWER MIX367 を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。
- 本来接続されているケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。  の中に番号がある場合は、マニュアルの表紙の番号を示しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version 4.0	WindowsNT4.0
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

機種名	本書での表記
FMV-DESKPOWER MIX36L/MIX367/MIX365	本パソコン
FMV-DESKPOWER MIX36L	MIX36L
FMV-DESKPOWER MIX367	MIX367
FMV-DESKPOWER MIX365	MIX365

目次

本書のご案内

本書の表記について

第 1 章 本パソコンの取り扱い

1. 各部の名称と働き	2
● パソコン本体前面	2
● パソコン本体背面	4
● パソコン本体内部	6
● キーボード	8
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
● 電源を入れる	10
● 電源を切る	11
● 電源スイッチについて	13
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	14
● スピーカーの各部の名称と働き	14
● スピーカー取り扱い上の注意	14
● スピーカーの音量を調節する	14
● ヘッドホンを使う	17
4. フロッピーディスクを使う	18
● お使いになれるフロッピーディスク	18
● フロッピーディスク取り扱い上の注意	19
● フロッピーディスクをセットする / 取り出す	20
● フロッピーディスクのデータを守るには	20
5. CD-ROM を使う	21
● お使いになれる CD-ROM や音楽 CD	21
● CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意	21
● CD-ROM や音楽 CD をセットする / 取り出す	22
6. お手入れのしかた	24
● パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ	24
● マウスのお手入れ	24
● フロッピーディスクドライブのお手入れ	26
● CD-ROM ドライブのお手入れ	27

第2章 オプション機器を使うには

1. オプション機器を増設する前に	30
● 取り付けられるオプション機器	30
● オプション機器の接続にあたって	31
2. プリンタを接続する	33
● プリンタを接続するまで	33
● 必要なものを用意する	34
● プリンタを接続する	35
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	38
● 本体カバーを取り外す	39
● 本体カバーを取り付ける	40
● フロントパネルを取り外す	41
● フロントパネルを取り付ける	42
4. メモリを増やす	43
● メモリを増やすまで	43
● 必要なものを用意する	44
● メモリを取り付ける	45
5. 拡張カードを増設する	49
● 拡張カードを増設するまで	49
● 拡張カードを取り付ける前に	50

コラム

代表的な拡張カードの種類	50
PCI 拡張カードと ISA 拡張カード	51
リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは	54

● 拡張カードを取り付ける	55
6. ハードディスクを増設する	60
● ハードディスクを増設するまで	60
● ハードディスクを取り付ける前に	61

コラム

終端抵抗 (ターミネータ)	64
---------------------	----

● 内蔵ハードディスクを取り付ける	64
-------------------------	----

コラム

マスター / スレーブとは	69
ケーブルセレクトとは	69

● 外付けハードディスクを取り付ける	70
● 領域を設定する	72

コラム

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て	78
-----------------------------	----

● フォーマットする	79
------------------	----

7. ファイルスロットにオプション機器を取り付ける	83
● 内蔵オプション機器を取り付ける	84
8. その他のオプション機器を使う	87
● MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	87
● スキャナを使う	88
● ターミナルアダプタを接続する	89
● USB 機器を接続する	90
● マルチモニタ機能を使う	91

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ	92
-------------------------	----

第 3 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	94
2. BIOS セットアップの操作のしかた	95
● BIOS セットアップを起動する	95
● 設定を変更する	96
● BIOS セットアップを終了する	98
3. ご購入時の設定に戻す	99
4. BIOS セットアップメニューの詳細	101
● STANDARD CMOS SETUP	101
● BIOS FEATURES SETUP	105
● CHIPSET FEATURES SETUP	109
● POWER MANAGEMENT SETUP	112
● PNP/PCI CONFIGURATION	116
● LOAD BIOS DEFAULTS	117
● LOAD PERFORMANCE DEFAULTS	118
● INTEGRATED PERIPHERALS	118
● SUPERVISOR PASSWORD	121
● USER PASSWORD	121
● IDE HDD AUTO DETECTION	121
● SAVE & EXIT SETUP	122
● EXIT WITHOUT SAVING	122
5. パスワードを使う	123
● パスワードの種類	123
● パスワードを設定する	123
● パスワードを変更 / 削除する	124
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	126
● メッセージが表示されたときは	126
● メッセージ一覧	126

仕様一覧

1. 仕様一覧	130
● パソコン本体	130
● FAX/ ボイスモデムカード	131
● サウンド機能	131
● CD-ROM ドライブ	132
● スピーカー	132
● 表示できる解像度と発色数	133
2. 本パソコンのリソースについて	134
● リソース一覧	134
● リソースを解放する	135
3. コネクタのピン配列と信号名	138
● 本体のコネクタ仕様	138
● 本体のコネクタ/ジャックで使用できるケーブル	140

付録

1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール	142
● インストールのときに気を付けること	142
● ディスプレイドライバをインストールする	143
● サウンドドライバをインストールする	145
2. その他の注意事項	149
● グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意	149
● IDE デバイスを取り付けるときの注意	149
● 市販の MIDI 機器を接続するには	150
● 液晶ディスプレイの廃棄について (MIX36L をお使いの方)	150
● 液晶ディスプレイの特性について (MIX36L をお使いの方)	150
● ACPI について	150

索引	155
----------	-----

1

本パソコンの取り扱い

パソコン本体やキーボードなどの取り扱い方法やお手入れのしかた、各部の名称などについて説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	14
4. フロッピーディスクを使う	18
5. CD-ROM を使う	21
6. お手入れのしかた	24

1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面

イラストはMIX367です。

BUSYランプ

CD-ROMからデータを読み込んでいるときや音楽CDを再生しているときに点灯します。

ヘッドホンボリューム（音楽CDのみ）

ヘッドホン端子（音楽CDのみ）にヘッドホンを接続したときに、音量を調整します。

ヘッドホン端子（音楽CDのみ）

市販のヘッドホンで音楽CDを聴くときに、ヘッドホンを接続します。ヘッドホンでは、CD-ROMの音声は聞こえません。

フロッピーディスクドライブ（●▶ P.18）

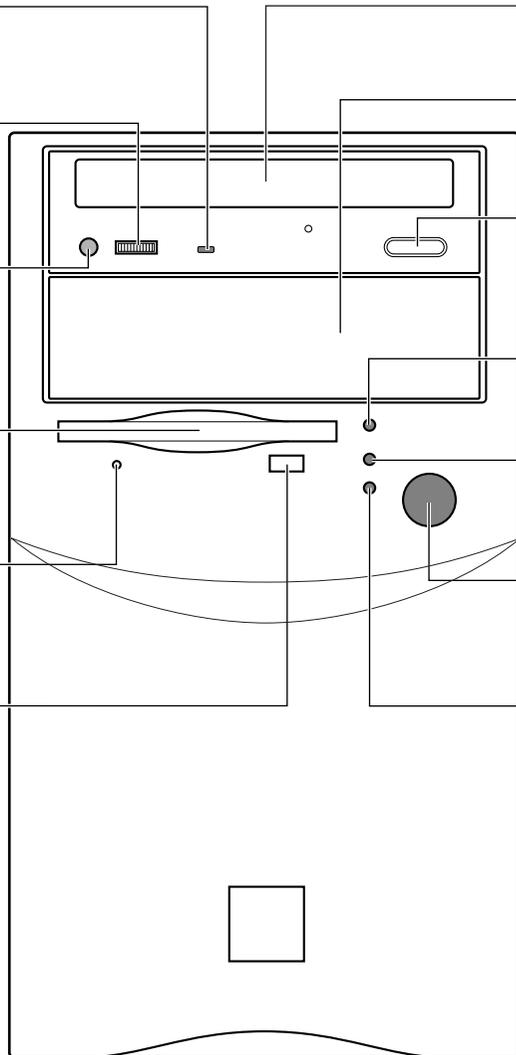
フロッピーディスクをセットしデータを読み書きします。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。

フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。



CD-ROMドライブ（●▶P.21）

CD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

ファイルスロット（●▶P.83）

内蔵ハードディスクやMO（光磁気ディスク）ドライブなどのファイルスロットオプションを取り付けます。

EJECTボタン

CD-ROMドライブに、CD-ROMや音楽CDをセット、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

電源スイッチ（●▶P.13）

パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイにするとき、またはスタンバイから復帰させるときに押します。

スリープランプ

スタンバイ（●▶P.13）のときに、オレンジ色に点灯します。

マウスコネクタ

マウスを接続します (MⅩ36Lを除く)。

キーボードコネクタ

キーボード (●▶ P.8) を接続します (MⅩ36Lを除く)。

USBコネクタ

USB機器を接続します。

MⅩ36LはディスプレイのUSBケーブルを接続します。

シリアルコネクタ

ターミナルアダプタ (●▶ P.89)、デジタルカメラ、IRコマンドなどRS-232C規格に対応した機器 (D-SUB9ピン) のケーブルを接続します。シリアルポートともいいます。

LINE OUT端子

添付されているスピーカーを接続します。

LINE IN端子

オーディオ機器の出力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

マイク端子

市販のコンデンサマイクを接続します。

LINE端子

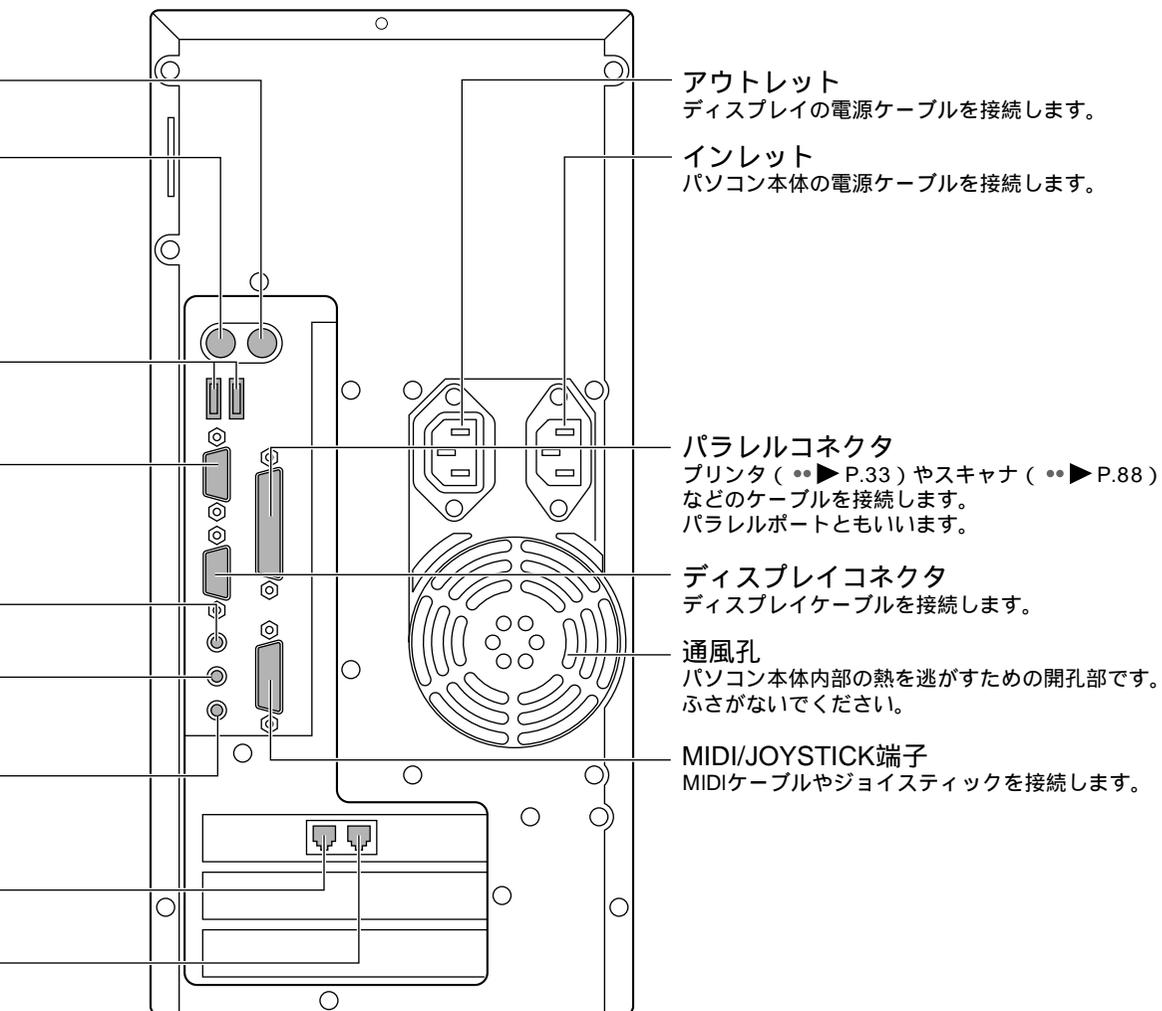
電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

PHONE端子

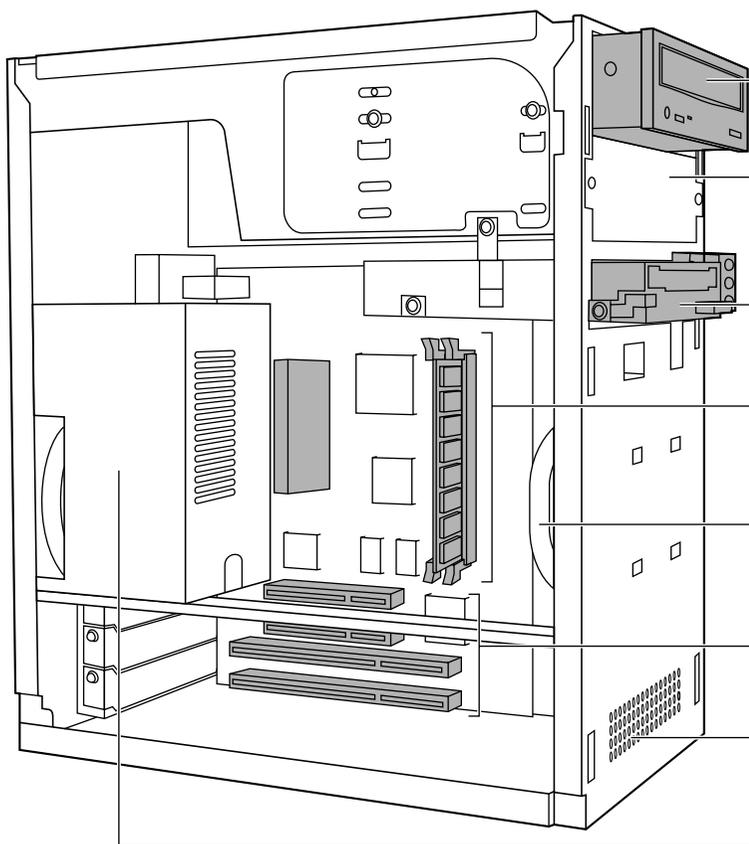
電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

用語 USB (ユーエスビー)

Universal Serial Bus の略で、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、ターミナルアダプタ、スピーカーなどの機器を接続するための規格です。



パソコン本体内部



CD-ROMドライブ（ ●▶ P.21 ）

ATAPI規格のCD-ROMドライブが取り付けられています。

ファイルスロット

内蔵ハードディスク（ ●▶ P.64 ）や、内蔵MOドライブなどのファイルスロットオプション（ ●▶ P.83 ）を取り付けるところです。

フロッピーディスクドライブ（ ●▶ P.18 ）

3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

メモリスロット（ ●▶ P.44 ）

増設するメモリを取り付けます。本パソコンには、あらかじめ64MBのメモリが1枚取り付けられています。

内蔵ハードディスク

IDE規格のハードディスクが取り付けられています。容量は6.4GBです。

拡張スロット（ ●▶ P.55 ）

本パソコンの機能を増やすための拡張カードを取り付けるところです。

通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないでください。

電源ユニット**用語** IDE（アイディーイー）

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

用語 ATAPI（アタピー）

CD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。

本パソコンには、ATAPI規格のCD-ROMドライブが内蔵されています。

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

本パソコンのキーボードは「109キーボード」というタイプのキーボードです。

MIX36Lは、ディスプレイのUSBコネクタ（●▶『取扱説明書』）に接続します。

MIX367/MIX365ではパソコン本体背面のキーボードコネクタ（●▶P.4）に接続します。

F（ファンクション）キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー

作業を取り消すときに使います。

Caps Lock（キャプスロック）

英数キー

アルファベットを入力するときに、**(Shift)**を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

Shift（シフト）キー

他のキーと組み合わせて使います。**(Shift)**を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

Scroll Lock（スクロールロック）キー

画面がスクロールしないようにするときに押します。

Print Screen（プリントスクリーン）キー

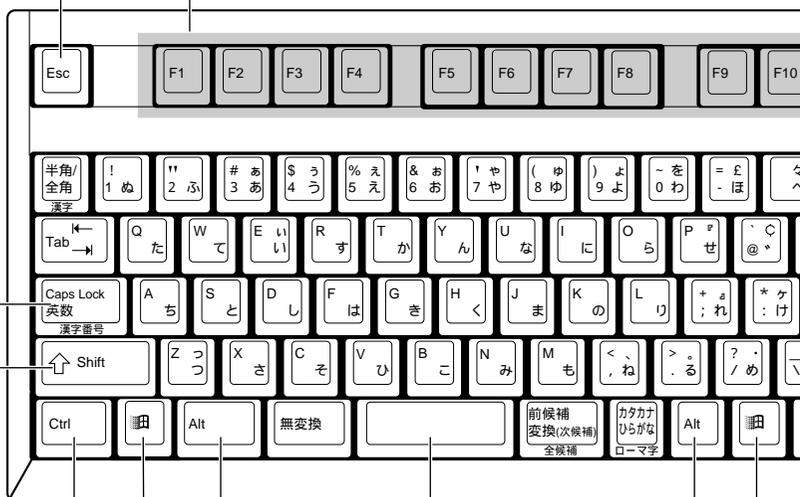
画面表示をビットマップファイルにするときに押します。詳しくは④『困ったときのQ&A』の「気に入った画面を保存しておきたい」をご覧ください。

Insert（インサート）キー

入力する文字の挿入/上書きを切り替えるときに押します。

Back space（バックスペース）キー

カーソルの左側の文字を削除するときに押します。



空白（スペース）キー

空白を入力するときに押します。

Alt（オルト）キー

他のキーと組み合わせて使います。

Windows（ウィンドウズ）キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

Application（アプリケーション）キー

右クリックと同じ役割をします。

Ctrl（コントロール）キー

他のキーと組み合わせて使います。

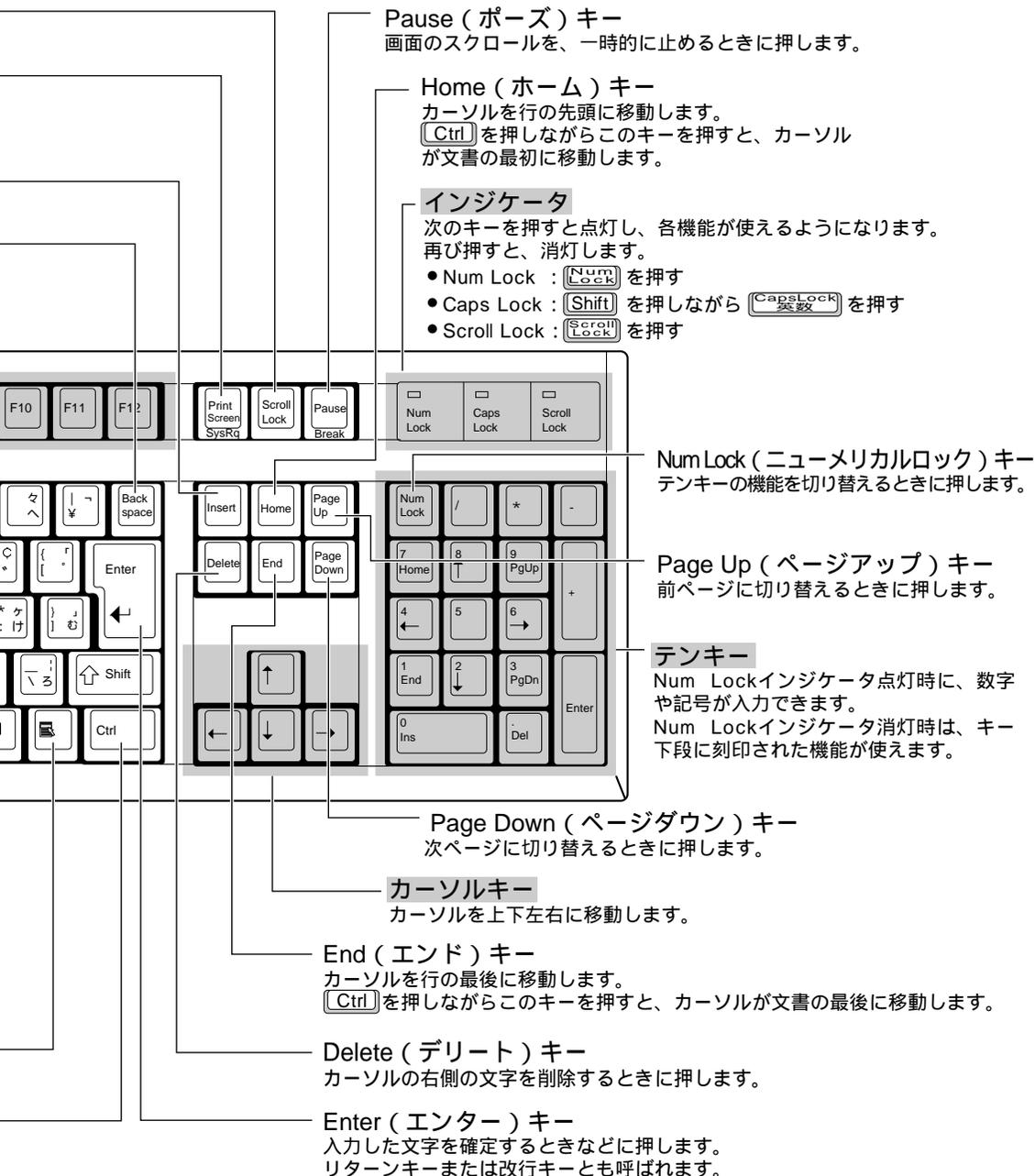
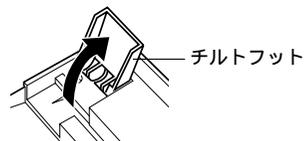
アドバイス

キー動作は異なることがあります

アプリケーションによって、キー動作が異なることがあります。
ここでは一般的なキー動作を説明しています。

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。



2

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、本パソコンの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

△注意



けが

- フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れる

重要

電源を入れるときの注意

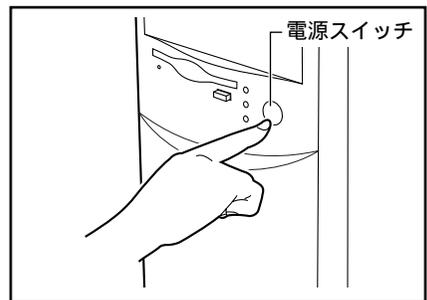
電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。10秒以内に再び電源を入れると、本パソコンが正常に起動しないことがあります。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
セットされているときは、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、フロッピーディスクを取り出してください。



3 本体前面にある電源スイッチを押します。
ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器の電源を入れる前にパソコン本体の電源を入れてしまうと、Windows98が正常に機器を認識できない場合があります。Windows98が完全に起動するのを待って、以下の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

ディスプレイの電源を入れる必要はありません

『取扱説明書』に記載されているとおり、ディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れてください。

電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

パソコン本体の電源スイッチを押してもWindows98が起動せず、英語のメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(▶▶P.126)をご覧ください。

- 4 右スピーカーの背面にある電源スイッチをON側にスライドさせて、スピーカーの電源を入れます。

電源を切る

重要

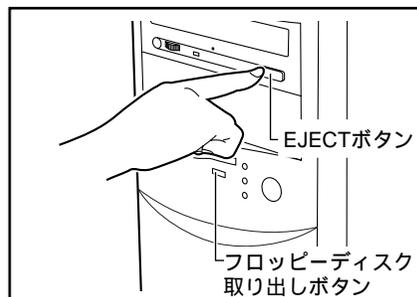
電源スイッチは押さないでください

本パソコンの電源を切るときは、Windows98上で操作します。パソコン本体前面の電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

アプリケーションを起動したままWindows98を終了すると、本パソコンが正常に終了できなかったり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

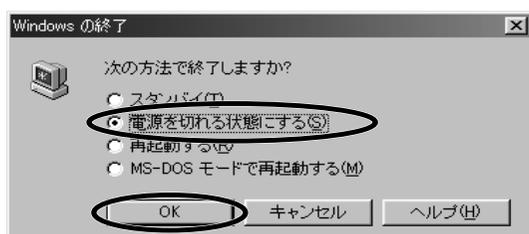
- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 スピーカーをお使いのときは、右スピーカー背面の電源スイッチをOFF側にスライドさせて、電源を切ります。スピーカーの電源を入れたままパソコン本体の電源を切ると、異音がすることがあります。
- 3 フロッピーディスクやCD-ROMなどがセットされているときは取り出します。フロッピーディスクアクセス表示ランプ、またはBUSYランプが消えていることを確認してから、取り出してください。



- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



- 5 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



アドバイス

フロッピーディスクがセットされていると終了できません

「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示された場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 4 から操作し直してください。

ディスプレイの電源を切る必要はありません

『取扱説明書』に記載されているとおりにディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入ると、そのあとはパソコン本体と連動するようになっています。従ってパソコン本体の電源を切ると、ディスプレイの電源も切れます。

ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源が切れたあと、ディスプレイの電源も切ってください。

- 6 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

電源スイッチについて

電源スイッチは、通常は次のときに使います。

- パソコンの電源を入れるとき（●▶P.10）
- パソコンをスタンバイ（電力消費を抑えて、画面の表示が消えた状態）にするとき
- パソコンを、スタンバイから元の状態に戻すとき

スタンバイ機能について

Windows98が起動したあと電源スイッチを押すと、スタンバイ（電力消費を抑えている状態）となり、画面が真っ暗になります（パソコン本体のスリープランプが点灯します）。

元の状態に戻すには、もう一度電源スイッチを押します。しばらくすると、パソコン本体のスリープランプが消えて、画面が再び表示されます。また、キーボードの□□□□や(Shift)を押しても、画面が再び表示されます。MIX36Lは、マウスを動かしても画面が再び表示されます。

Windows98から電源を切れない場合

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときなどは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。

なお、アプリケーションの強制終了のしかたについては、④『困ったときのQ&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ったあとは、パソコン本体の電源ランプとスリープランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。パソコン本体のスリープランプがオレンジ色に点灯している場合には、再び電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

再び電源を入れるときは、10秒ほど待ってから電源スイッチを押してください。

通常の場合は「電源を切る」（●▶P.11）の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。Windows98が動作している状態で、電源スイッチを4秒以上押し続けても電源は切れません。

重要

次の場合は電源スイッチを押さないでください

- 電源を入れたら、Windows98が完全に起動してデスクトップ画面が表示され、ハードディスクアクセス表示ランプが消えるまで、電源スイッチを押さないでください。Windows98の起動途中で電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、正しく動作しない場合があります。
- ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプが点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。
- 動画や音声・音楽データの再生中に電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。
動画や音声・音楽データの再生を終了させてから、電源スイッチを押してください。
- 通信中は電源スイッチを押さないでください。通信を終了させてから、電源スイッチを押してください。

電源スイッチを連続して押さないでください

連続して押すとスタンバイ機能が正しく動作しない場合があります。

アドバイス

画面が真っ暗になった場合

本パソコンの電源を入れた状態で約30分操作しないと、自動的にスタンバイ機能が働いて画面が真っ暗になり、パソコン本体のスリープランプがオレンジ色に点灯します。このときは、電源スイッチを押すか、キーボードの□□□□や(Shift)を押すと、画面が再び表示されます。MIX36Lは、マウスを動かしても画面が再び表示されます。

3

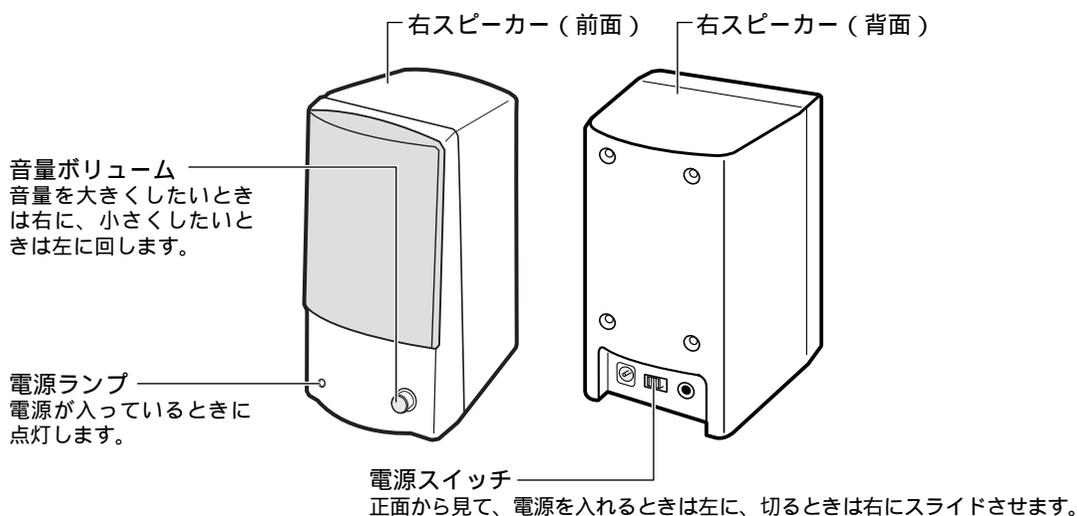
スピーカー / ヘッドホンを使う

スピーカーは、パソコン本体背面の LINE OUT 端子 (**▶P.4) に接続します。

接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

ここでは、スピーカーの各部の名称と働きや、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

スピーカーの各部の名称と働き



スピーカー取り扱い上の注意

スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーの上に重いものを載せないでください。
- 左スピーカーは、必ず右スピーカーの SP OUT 端子に接続してください。
左スピーカーを直接パソコン本体に接続すると、故障の原因になります。

スピーカーの音量を調節する

音量を調節するには、次の2つの方法があります。

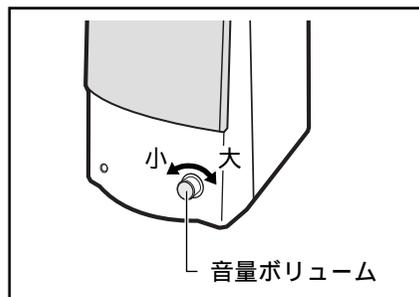
- スピーカーの音量ボリュームを使う
- 画面の音量つまみを使う

2つのボリュームの組み合わせで、スピーカーの音量が決まります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたについて説明します。

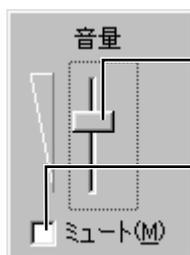
スピーカーの音量ボリュームを使う

- 1 スピーカーの電源を入れ、スピーカーの音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。



画面の音量つまみを使う

- 1 タスクバーの  (音量) をクリックします。音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート

ここをクリックして にすると音が消え、タスクバーの表示が  に変わります。もう1度クリックして にすると元の音量に戻ります。

- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。音量つまみが閉じます。閉じなかったときは、音量つまみを一度クリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

アドバイス

その他の音量調節のしかた

「ボリュームコントロール」ウィンドウのボリュームコントロールのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

ボリュームコントロールウィンドウの表示方法は次の2つです。

- タスクバーの  (音量) をダブルクリックする
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックする

アドバイス

「ボリュームコントロール」ウィンドウでできる音量調節

「ボリュームコントロール」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- ボリュームコントロール : パソコン全体の音量
- Wave アウト : Wave ファイルの音量
- MIDI アウト : MIDI の音量
- CD オーディオ : 音楽 CD の音量
- ライン : ライン入力の音量 (表示されない場合があります)
- マイクロフォン : マイクの音量 (表示されない場合があります)
- 3D ワイド : 本パソコンではお使いになれません。

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切るとご購入時の状態に戻ることがあります。

スピーカーから音が聞こえないときは

スピーカーから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

スピーカーが正しく接続されているか

スピーカーは、パソコン本体背面の LINE OUT 端子 (●▶P.4) に接続します。

正しく接続されているか確認してください。また、左右のスピーカーが正しく接続されているか、スピーカーのACアダプタがコンセントに正しく接続されているかも確認してください。スピーカーの接続方法について詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

スピーカーの電源が入っているか

スピーカーの電源ランプ (●▶P.14) が点灯しているか確認してください。

点灯していないときは、スピーカーの電源スイッチ (●▶P.14) を ON 側にスライドさせてスピーカーの電源を入れてください。

適切な音量になっているか

スピーカーの音量ボリューム (●▶P.15)、または画面の音量つまみ (●▶P.15) が、適切な音量に調節されているか確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートが になっている (タスクバーに  と表示されている) と音は聞こえません。 をクリックして にしてください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンでは、音楽CDのみ聞くことができます。CD-ROMなどの音声データ（Waveファイルなど）の再生音を聞くことはできません。

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子（音楽CD用●▶P.2）に接続します。

▲注意

聴力障害



ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

重要

LINE OUT 端子には接続しないでください

ヘッドホンはパソコン本体背面のLINE OUT 端子（●▶P.4）には接続しないでください。LINE OUT 端子に接続してお使いになると、本パソコンが故障する原因となることがあります。

- 1 スピーカーの音量ボリューム（●▶P.15）を左に回して、音量を最小にします。
- 2 ヘッドホンボリューム（●▶P.2）を左に回して、音量を最小にします。
- 3 ヘッドホンのプラグをパソコン本体前面のヘッドホン端子（●▶P.2）に差し込みます。
- 4 ヘッドホンボリュームで適切な音量に調節します。

ヘッドホンから音が聞こえないときは

ヘッドホンから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

適切な音量になっているか

ヘッドホンボリューム（●▶P.2）の音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。

ヘッドホンは正しく接続されているか

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子（●▶P.2）に接続します。正しく接続されているかを確認してください。

4

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたについて説明します。

お使いになれるフロッピーディスク

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの各記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクがお使いになれるます。ただし、1.2MBにフォーマットすることはできません。

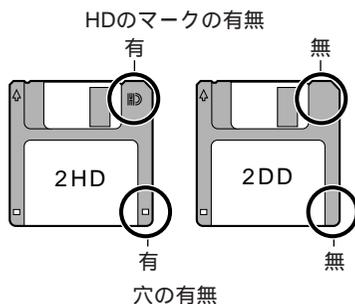
2HD フロッピーディスク

1.44MB（メガバイト）、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD フロッピーディスク

2HD フロッピーディスク（1.44MB）の半分の720KB（キロバイト）の記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下の図のような違いがあります。



なお、フロッピーディスクのフォーマット方法については、[1](#)『かるがるパソコン入門』の「フロッピーディスクを使うには」をご覧ください。

用語 MB（メガバイト）

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで扱われる単位には、他にKB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。

1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないことがあります

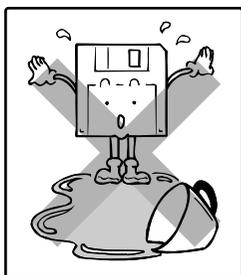
同じ記憶容量のフロッピーディスクでも、フォーマットした環境(機種、ソフトウェア)が違くと、フロッピーディスクのデータを読み出せないことがあります。
また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクは、お使いになれないことがあります。

フォーマット済のフロッピーディスクをご購入の場合は

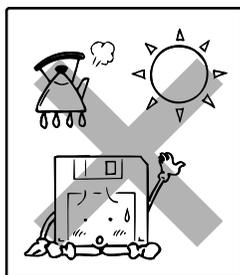
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。
他の形式(Macintoshフォーマットなど)でフォーマットされたフロッピーディスクをご購入されたときは、本パソコンで再フォーマットしてください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

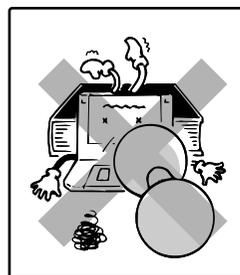
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



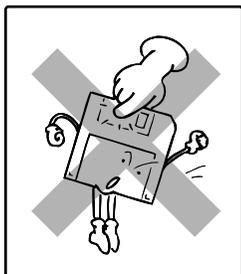
コーヒーなどの液体をかけないでください。



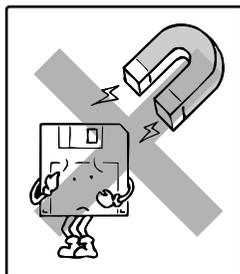
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



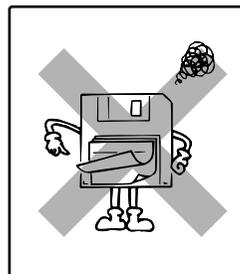
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

⚠ 注意



けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 矢印のある面を上にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



取り出す

重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが壊れるおそれがあります。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。フロッピーディスクが出てきます。

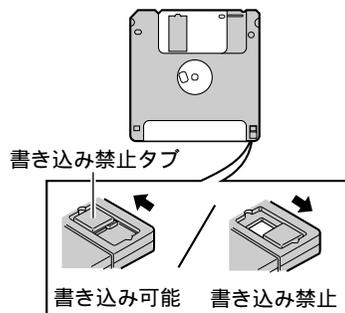


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、フロッピーディスクに強い磁気を帯びたものを近づけると、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。磁石など、強い磁気を帯びたものを近づけないでください。



5

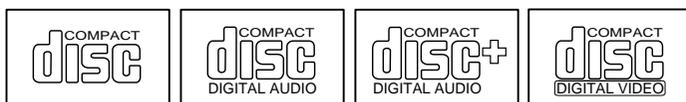
CD-ROM を使う

CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

ここでは、CD-ROMドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROMドライブの使いかたを説明します。

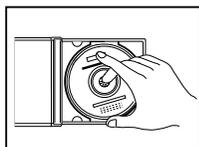
お使いになれる CD-ROM や音楽CD

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM や音楽 CD(12cm、8cm)がお使いになれます。

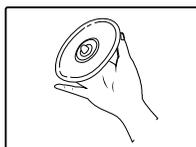


CD-ROM や音楽CD 取り扱い上の注意

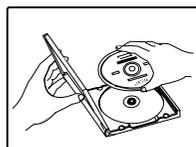
CD-ROM や音楽 CD をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



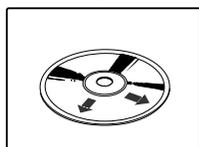
ケースからCD-ROMや音楽CDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



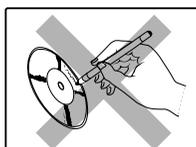
データ面(裏面)に触れないように、CD-ROMや音楽CDのふちを持つようにしてください。



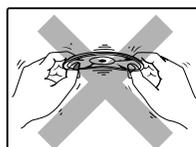
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



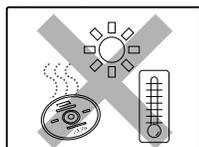
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側に向かって拭いてください。



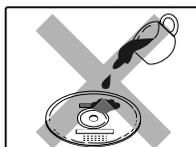
ラベルを貼ったりボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また傷をつけたりしないでください。



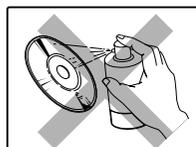
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

アドバイス

CD-ROM が結露したときは

CD-ROMの表面に水滴が付いて、CD-ROMドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布でキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。

CD-ROM や音楽CD をセットする / 取り出す

CD-ROM や音楽CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。

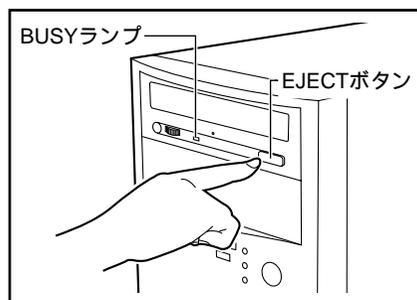
⚠ 注意



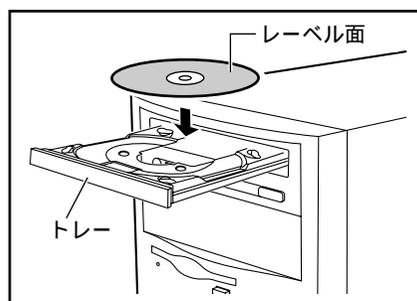
けが CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

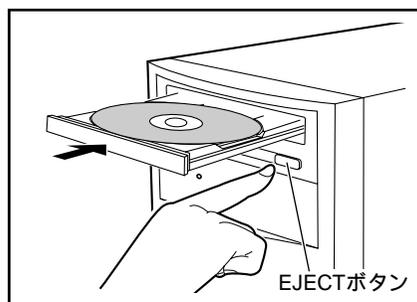
- 1 EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽CD をセットするトレーが出てきます。



- 2 CD-ROM や音楽CD のレーベル面（印刷側）を上にして、トレーの中央に置きます。
トレーにしっかり収まるように置いてください。



- 3 EJECT ボタンを押します。
トレーがパソコン本体に戻ります。CD-ROM や音楽CD がセットされ、BUSYランプが点灯します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



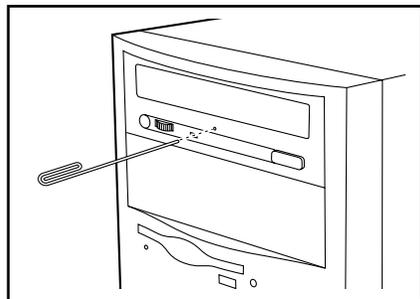
取り出す

- 1 CD-ROM を使っているアプリケーションがあれば終了します。
- 2 BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽 CD がセットされたトレイが出てきます。
- 3 CD-ROM や音楽 CD を取り出します。
- 4 EJECT ボタンを押します。
トレイがパソコン本体に戻ります。

CD-ROM や音楽 CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）をご用意のうえ、以下の手順で CD-ROM や音楽 CD を取り出してください。

- 1 本パソコンの電源を切ります。
- 2 用意した針金を、CD-ROM ドライブの中央にある穴に差し込みます。
まっすぐに、少し力を込めて差し込んでください。
トレイが少し飛び出します。



- 3 トレイを手前に引き出して、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。

6

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、パソコン本体とディスプレイの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボードに水が入らないよう十分に注意してください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、パソコン本体の通風孔（●▶P.5、7）にほこりが溜まらないように、定期的に清掃してください。

マウスのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

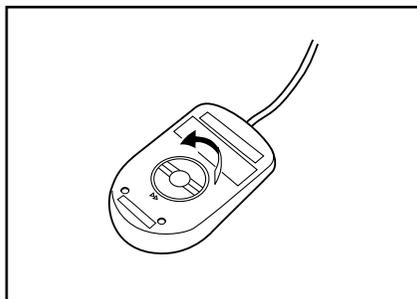
感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

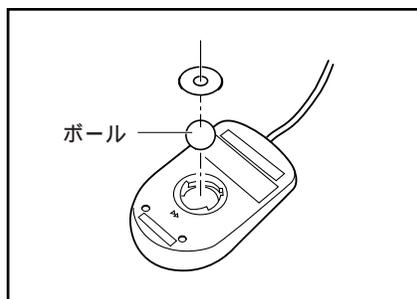
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。

また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1 マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

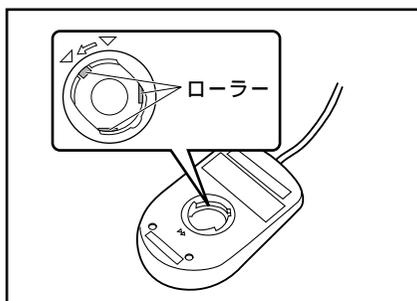


- 2 ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。



- 3 ボールは洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かします。

- 4 ボールを乾かしている間に、マウス内部の汚れを拭き取ります。
水に浸して固く絞った布で、マウス内部、および裏ボタンを拭きます。
ローラー部分は、水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

- 5 ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03 - 3434 - 0147)

お手入れのしかた

⚠注意



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
c:¥fjuty¥cldnsk 0
「cldnsk」と「0」の間は を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exitと入力し、**[Enter]**を押してください。

CD-ROM ドライブのお手入れ

CD-ROM ドライブは長い期間使っていると、レンズ（データを読み出す部分）が汚れてきます。レンズが汚れると、データを正常に読み出せなくなります。別売りのCD-ROM クリーニングディスクをご購入になり、1ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : CD-ROM クリーニングディスク

商品番号 : 0632410

（富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03 - 3434 - 0147）

重要

お手入れには乾式のCD-ROM クリーニングディスクをお使いください
湿式のCD-ROM クリーニングディスクを使うと、故障の原因となることがあります。

お手入れのしかた

本パソコンの電源が入っている状態で行ってください。

⚠ 注意



けが CD-ROM クリーニングディスクをセットまたは取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 CD-ROM クリーニングディスクの固定用のリングを取り除きます。
- 2 CD-ROM クリーニングディスクケースに付いている小型のブラシで、CD-ROM クリーニングディスク裏面の特殊清掃刷毛をそろえます。
- 3 EJECT ボタンを押して、CD-ROM クリーニングディスクの赤い三角マークを手前にしてトレイにセットします。
- 4 EJECT ボタンを押してトレイを戻します。
クリーニングが始まります。このときコツコツと軽い音がしたり、ディスクの回転音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- 5 トレーを戻して、約 20 秒間たったら、CD-ROM クリーニングディスクを取り出します。
- 6 CD-ROM クリーニングディスクの特殊清掃刷毛を、保管ケースのパッド面の穴に合わせて、正しく収納します。
- 7 EJECT ボタンを押してトレイを戻します。

2

オプション機器を使うには

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

- 1. オプション機器を増設する前に 30
- 2. プリンタを接続する 33
- 3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける 38
- 4. メモリを増やす 43
- 5. 拡張カードを増設する 49
- 6. ハードディスクを増設する 60
- 7. ファイルスロットにオプション機器を取り付ける 83
- 8. その他のオプション機器を使う 87

1

オプション機器を増設する前に

別売りのオプション機器を取り付けると、本パソコンの性能を上げたり、機能を付け加えたりできます。ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

取り付けられる主なオプション機器の種類と場所は以下のとおりです。

メモリ(●▶ P.43)

メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理速度が上がります。



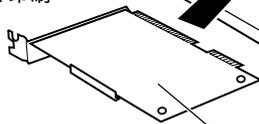
RS-232C規格の機器
デジタルカメラなど

内蔵ハードディスク(●▶ P.64)
各種ファイルスロットオプション
(●▶ P.83)

内蔵ハードディスク、内蔵SCSIオプション、内蔵MO(光磁気ディスク)ドライブなどを取り付けることができます。

USB機器
(●▶ P.90)
キーボード、
マウス、
プリンタなど

プリンタ
(●▶ P.33)
プリンタを接続
すると、文書や
画像などを印刷
できます。



各種拡張カード(●▶ P.49)
本パソコンの機能を拡張します。

外付けハードディスク(●▶ P.70)など
ハードディスクを増設すると、本パソコンの
記憶容量が増えます。

この他に、スキャナやターミナルアダプタなども取り付けられます。詳しくは、「その他のオプション機器を使う」(●▶ P.87)をご覧ください。

オプション機器の接続にあたって

ここでは、オプション機器を取り付ける前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな規格のがあります。本パソコンは、「PC/AT(ピーシーエーティー)互換機」と呼ばれる規格のパソコンです。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴にそって説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは使えないものがあります。このようなオプション機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタや拡張カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という設定作業が必要です。また、ハードディスクを増設したときは、取り付けたあとに「領域の設定」と「フォーマット」という設定作業が必要です。ただし、メモリなどのように、設定作業が必要ないオプション機器もあります。

用語 ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

用語 インストール

インストールとは、ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にする作業です。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するときを使うケーブルは、パソコンの規格に合わせた専用のものをお使いください。

本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」などと表示されたものです。さらに、プリンタをつなぐにはプリンタケーブルを使うというように用途も定まっています。

形状が同じように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。また、ケーブルに使用されているコネクタの大きさによっても使えない場合があります。よく確かめてご用意ください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。オプション機器によっては、取り付け方法や設定作業などが異なる場合があります。オプション機器を取り付けるときは、本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

取り付けるときの注意

オプション機器を取り付けるときは、次の点に注意してください。

- オプション機器は、Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。
- 一度に複数のオプション機器を取り付けしないでください。ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- 作業を行う前に、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット(●▶P.7)は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分に触れないように、金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- 本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。

必要な工具

パソコン本体にハードディスクなどを取り付けるために、プラスのドライバーが必要です。

本パソコンで使われているネジは「M3 ネジ」と「インチネジ」という規格のものです。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

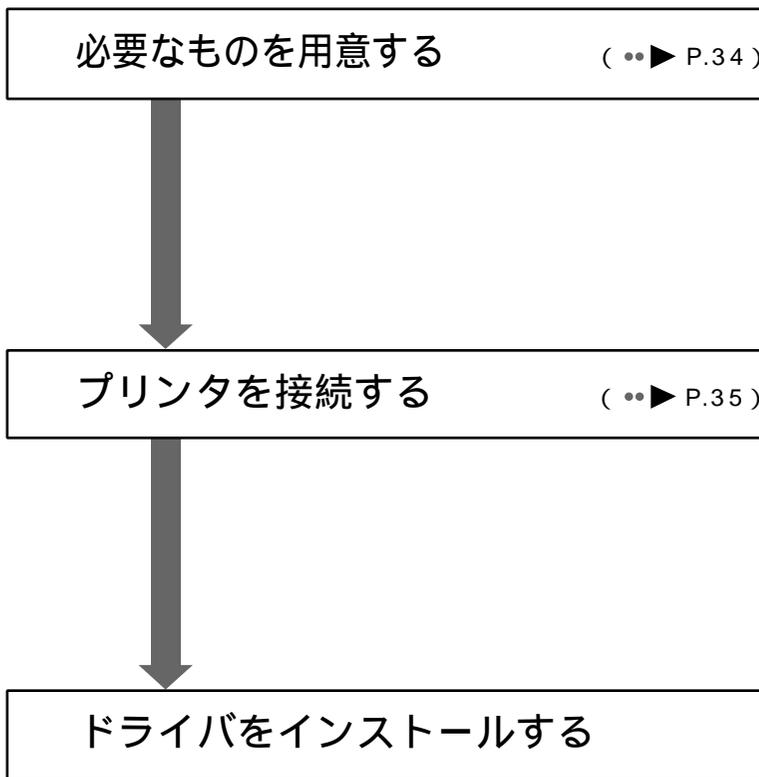
2

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、文書や画像などを印刷できます。

プリンタを接続するまで

プリンタを接続するための作業の流れを説明します。

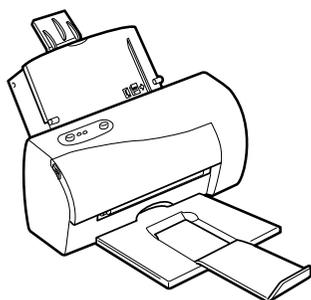


接続したプリンタを使えるように設定します (プリンタドライバをインストールします)。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



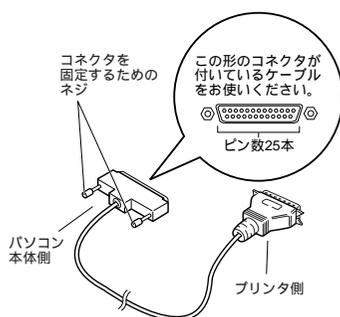
必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ

Windows98 で動作可能なプリンタをご購入ください。



プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。

「PC / AT 互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25 ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USB ケーブルで接続するプリンタもあります。



フロッピーディスク

プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。対応機種をご確認のうえ、弊社純正品をお使いください。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。
USB コネクタに接続するプリンタについては、「USB 機器を接続する」(●▶P.90)をご覧ください。

⚠ 警告



プリンタの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- プリンタケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。
- プリンタ、およびプリンタケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

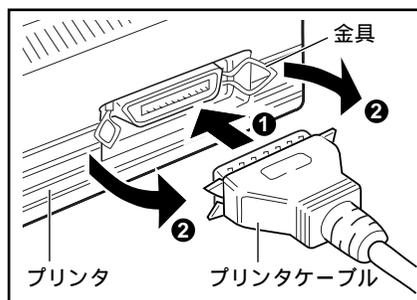
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

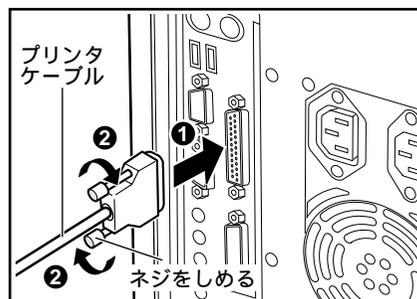
接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 プリンタ側のコネクタに、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。
プリンタ側のコネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。
プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面の平行コネクタ(昌)に、プリンタケーブルのネジが付いているコネクタを接続します。
平行コネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて、差し込んでください。
プリンタケーブルのコネクタの上下のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 4 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 5 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタの設定（プリンタドライバのインストール）を行う必要があります。

プリンタのマニュアルをご覧ください。プリンタの設定を行ってください。

プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない場合は、次の「プリンタドライバのインストール時の注意」をご覧ください。

アドバイス

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。

「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時の CD-ROM ドライブは E です

CD-ROM からプリンタのドライバをインストールする場合に、CD-ROM ドライブ名を指定するときは `e:` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

弊社製 FMLBP シリーズのプリンタをお使いの場合

プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われず場合があります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
プリンタのウィンドウが表示されます。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」タブをクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードが ESC/P モードの場合は「ESC/P モード」を、FM モードの場合は「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイ(**▶ P.52)でプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年1月現在)
 - プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
 - 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
-



本体カバーを取り外す / 取り付ける

パソコン本体内部にオプション機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外す必要があります。

⚠ 警告



本体カバーを取り外すとき、または取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



本体カバーを取り外すとき、または取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因になることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

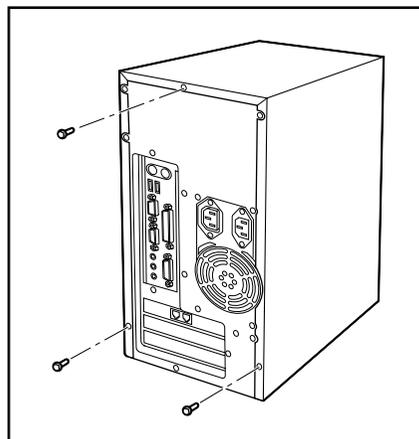
本体カバーを取り外す

本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

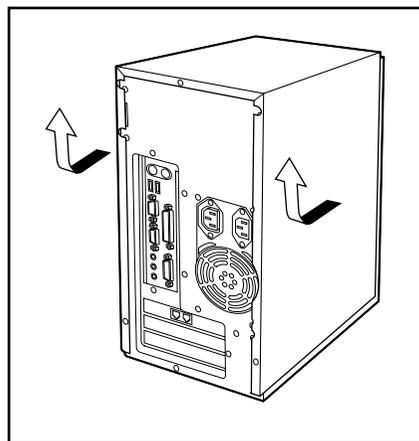
- メモリを取り付けるとき
- 拡張カードを取り付けるとき
- 内蔵ハードディスクなどを取り付けるとき
- ファイルスロットオプションを取り付けるとき

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体背面のネジ（3カ所）を外します。



3 本体カバーを矢印の方向に取り外します。パソコン本体背面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。



メモリを取り付ける場合

●▶ P.46 手順 2へ

メモリを交換する場合

●▶ P.48 手順 2へ

拡張カードを取り付ける場合

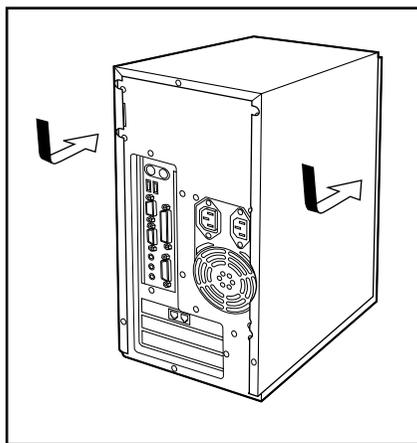
●▶ P.56 手順 2へ

内蔵ハードディスクを取り付ける場合 ●▶ P.41の「フロントパネルを取り外す」へ

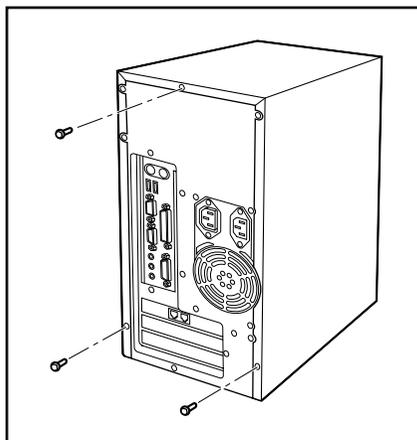
ファイルスロットオプションを取り付ける場合 ●▶ P.41の「フロントパネルを取り外す」へ

本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向けてスライドさせるようにすると取り付けられます。



- 2** パソコン本体背面のネジ(3カ所)を取り付けます。
ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 3** 本パソコンおよび接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。



メモリを取り付けた場合

▶▶ P.47 アドバイス「メモリ容量を確認してください」へ



メモリを交換した場合

▶▶ P.47 アドバイス「メモリ容量を確認してください」へ



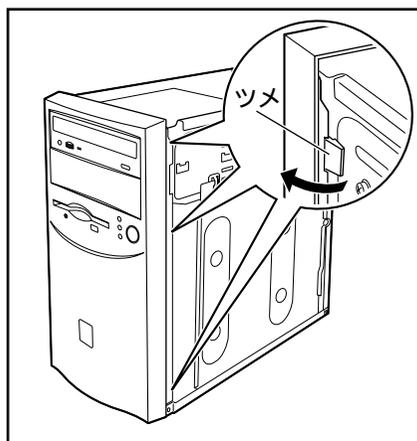
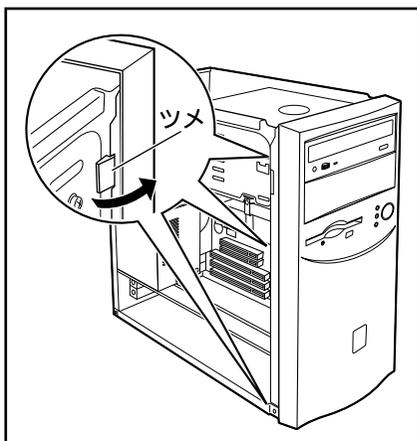
内蔵ハードディスクを増設した場合

▶▶ P.72 「領域を設定する」へ

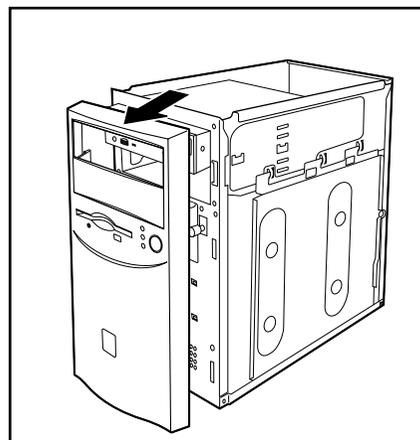
フロントパネルを取り外す

フロントパネルは、内蔵ハードディスク（**▶P.64）やファイルスロットオプション（**▶P.83）を取り付けるときに取り外します。

- 1 フロントパネルの両側にあるツメ（片側3カ所ずつ計6カ所）を外します。
下のツメから外すと、フロントパネルが取り外しやすくなります。



- 2 フロントパネルを取り外します。



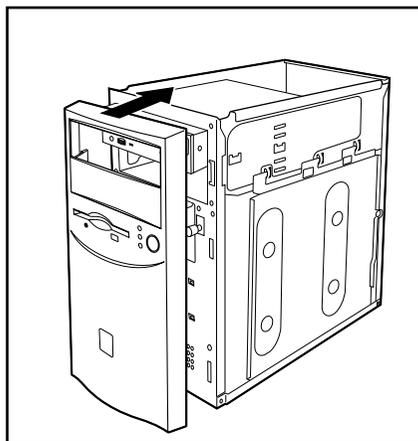
IDE規格の内蔵ハードディスクを取り付ける場合 **▶ P.65 手順3へ

SCSI規格の内蔵ハードディスクを取り付ける場合 **▶ P.68 手順4へ

ファイルスロットオプションを取り付ける場合 **▶ P.84 手順3へ

フロントパネルを取り付ける

- 1 フロントパネルを取り付けます。
両側にあるツメ(片側3カ所ずつ計6カ所)をパチンと音がするまではめ込みます。



4

メモリを増やす

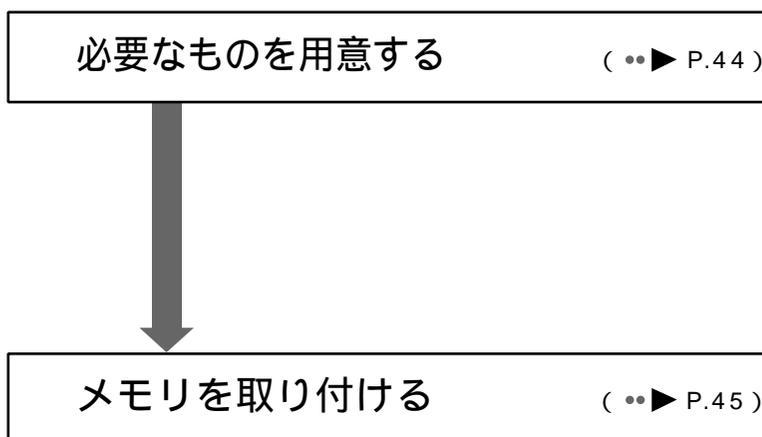
メモリを増やすと、一度に大きなデータを扱えるようになり、複数のアプリケーションを同時に起動するときなどにパソコンの処理が快適になります。

用語 メモリ

メモリは、CPUが処理するデータを一時的に記憶する装置です。パソコン本体に内蔵されています。

メモリを増やすまで

メモリを増やすための作業の流れを説明します。



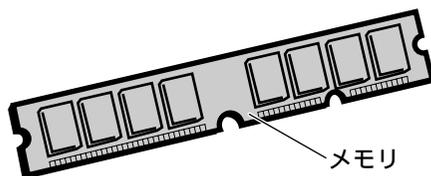
メモリを取り付けたあと、取り付けたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください (●▶ P.47)。



必要なものを用意する

お使いになれるメモリは、次のようなものです。

- 種類…………… SDRAM (エスディーラム)
DIMM (ディム)(SPD付き)
- ピン数…………… 168ピン
- 容量…………… 32MB、64MB、128MB
- ECC…………… なし
- システムバスクロック …… 66MHz



重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。対応機種をご確認のうえ、弊社純正品をお使いください。

用語 SPD (エスピーディー)

SPDは、Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

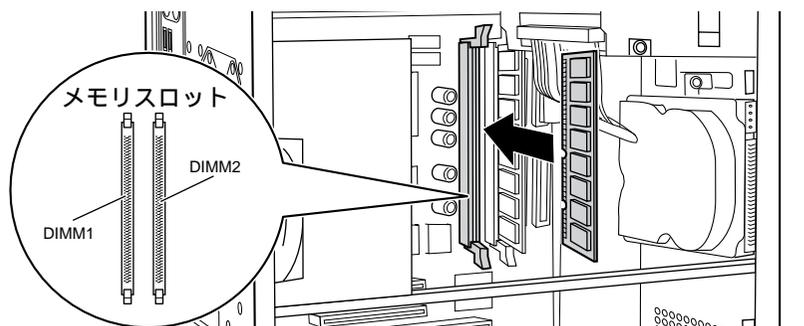
必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

用語 ECC (イーシーシー)

ECCは、Error Correcting Codeの略で、データ中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。本パソコンではこの機能は使いません。

メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。



本パソコンのご購入時は、DIMM2スロットに64MBのメモリがあらかじめ取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、DIMM1スロットに新たにメモリを取り付けます。

さらに容量を増やしたいときは、DIMM2スロットに取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換します。

メモリは256MB (128MB × 2枚) まで増やせます。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリ容量とメモリスロット（DIMM1、DIMM2）の組み合わせを確認してください。表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	DIMM1	DIMM2
64MB（ご購入時）	なし	64MB
96MB	32MB	64MB
128MB	64MB	64MB
192MB	128MB	64MB
256MB（最大）	128MB	128MB

のついている組み合わせでは、本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリを交換する必要があります。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。
あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」（●▶P.48）をご覧ください。

警告

感電  メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意

けが  メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

けが  基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障  ● メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
● メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

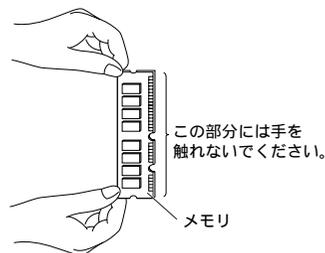
故障の原因となることがあります。

アドバイス

メモリの持ちかた

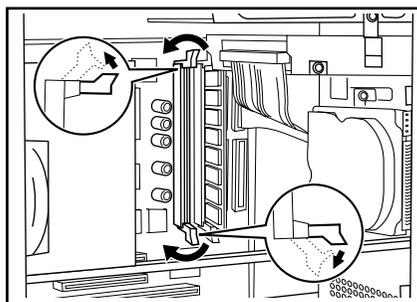
メモリは右図のようにふちを持ってください。

金色の線が入っている部分(端子)には絶対に手を触れないでください。

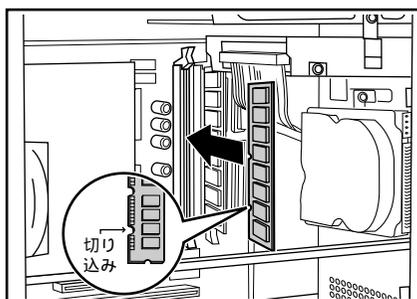


1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.39) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 メモリを取り付けるメモリスロット両側のレバーを外側に開きます。
メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」(●▶P.44) と「メモリの組み合わせ表」(●▶P.45) をご覧ください。



3 メモリをスロットに差し込みます。
端子の切り込みを下側にして、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。
メモリがスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

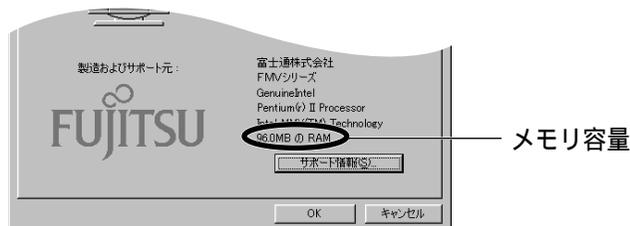
4 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.40) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

アドバイス

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず本体カバーを取り付けてから、確認作業を行ってください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4  で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

数値が増えていないときは

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか
●▶「必要なものを用意する」(P.44)
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
●▶「メモリを取り付ける」(P.45)
- 正しいスロットに取り付けているか
●▶「メモリの取り付け場所」(P.44)
- メモリを正しく組み合わせているか
●▶「メモリの組み合わせ表」(P.45)

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

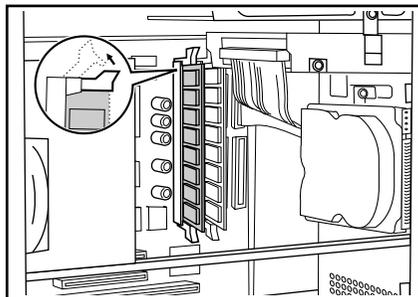
メモリの取り外しかたについては、次ページの「メモリを交換する」をご覧ください。

メモ리를交換する

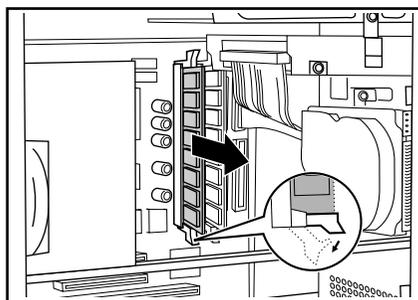
本パソコンに取り付けられているメモ리를取り外し、より大容量のメモりに交換することができます。

1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.39) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

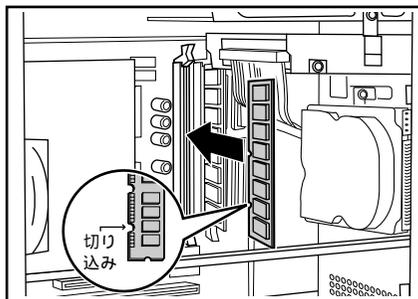
2 取り外したいメモ리의メモリスロットの上側のレバーを外側へ開きます。
メモ리의上側半分が外れて、メモリスロットに斜めに差し込まれている状態になります。



3 메모리가落ちないように手で押さえながら、スロット下側のレバーを外側へ開き、メモ리를抜きます。



4 新しいメモ리를スロットに差し込みます。
端子に切り込みが入っている方を下側にして、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。
メモ리가スロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが閉じて、メモ리가ロックされます。
必ず、メモ리가ロックされたことを確認してください。



重要

メモ리의方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

5 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.40) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

このあと、「アドバイス」(●▶P.47) をご覧になり、交換したメモ리가使える状態になっているかを確認してください。

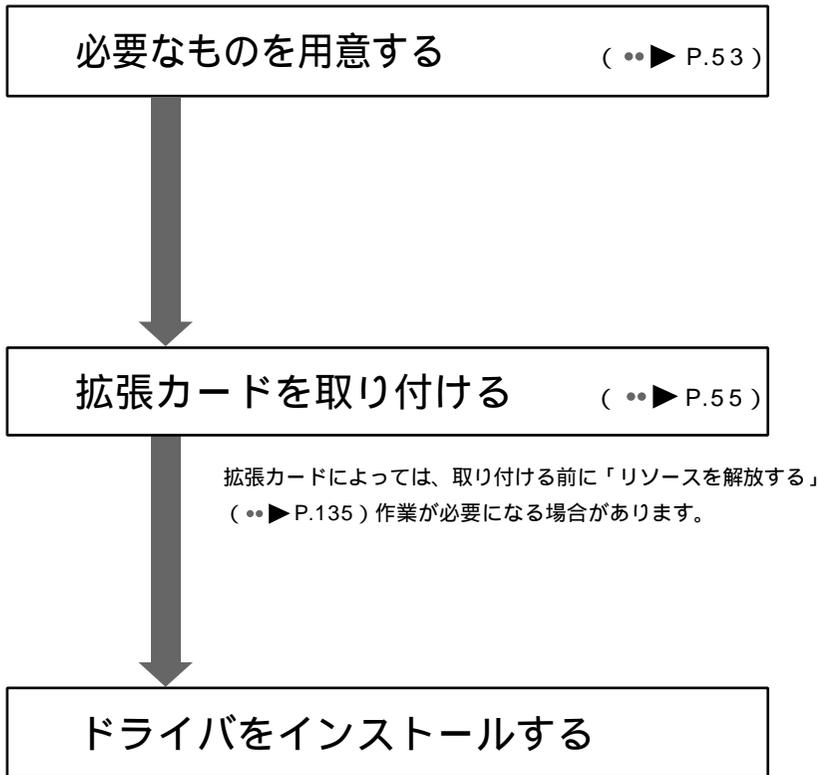
5

拡張カードを増設する

拡張カードを使うと、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

拡張カードを増設するまで

拡張カードを増設するための作業の流れを説明します。



拡張カードによっては、自動的にドライバのインストールが行われます。

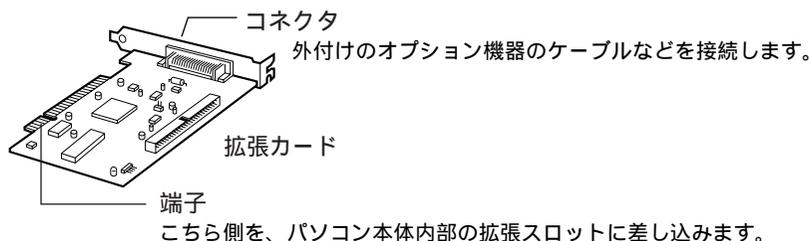


拡張カードを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なもの、必要な作業について説明します。

拡張カードとは

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。



コラム

代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- SCSI カード
SCSI規格のハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI規格のハードディスクについては「ハードディスクを増設する」(●▶P.60)をご覧ください。
- モデムカード
パソコン通信、インターネット、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます(専用のソフトウェアが必要です)。
本パソコンには、ご購入時にあらかじめFAX/ボイスモデムカードが取り付けられています。
- LAN カード
複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。
LANカードでパソコンやプリンタを接続するには、LANケーブルなどのLAN機材も必要となります。
- ビデオキャプチャカード
ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりするために必要な拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI（ピーシーアイ）」と「ISA（アイサ）」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の「拡張スロット」に取り付けます。拡張スロットには、PCI規格のスロットとISA規格のスロットがあります。PCI規格のスロットにはPCI規格の拡張カードを、ISA規格のスロットにはISA規格の拡張カードを取り付けます。

拡張カードは本パソコンの空いている拡張スロットに増設できます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」があります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみお使いになれます。

スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	FAX/ ボイスモデムカードを搭載済み	ハーフサイズ ²
ISA2/PCI2 ¹	空き	ハーフサイズ ²
ISA1	空き	ハーフサイズ ²

- 1 ISA2とPCI2のスロットは、取り付けスペースを共有しているため、2枚同時に取り付けることはできません。
- 2 各スロットとも取り付け可能な拡張カードの長さは最大 10inch（約 25.4cm）です。

コラム

PCI 拡張カードと ISA 拡張カード

拡張カードには、さまざまな種類があります（「コラム」**▶P.50をご覧ください）。同じ機能の拡張カードでも、ISA 拡張カードと PCI 拡張カードの両方があることがあります。たとえば、SCSI カードは、PCI 規格のものと ISA 規格のものが市販されています。PCI 拡張カードは、ISA 拡張カードに比べ、データを速く転送できます。本パソコンの空いている拡張スロットを確認のうえ、拡張カードをご購入ください。

拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。それぞれで拡張カードを増設する手順が異なります。PCI拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。ISA拡張カードには対応しているものと対応していないものがあります。拡張カードを増設するときは、プラグアンドプレイに対応しているものをお使いになることをお勧めします。

ここでは、プラグアンドプレイに対応している拡張カードを増設する手順について説明します。プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを増設するときは、「アドバイス」(●▶P.57)をご覧ください。

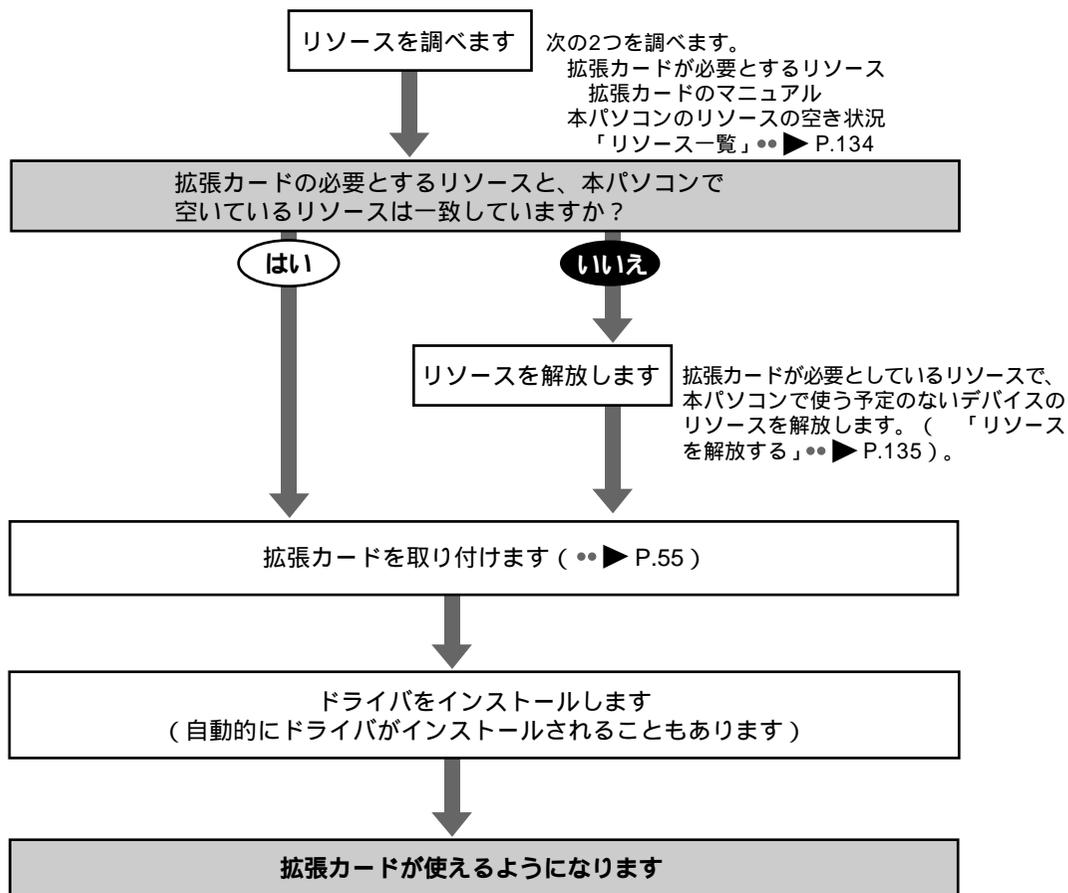
プラグアンドプレイに対応している拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」(●▶P.135)をご覧ください。

用語 プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

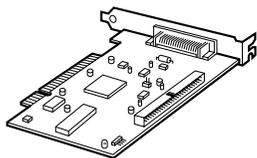
プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

拡張カードを増設するときは、次の手順で作業を行います。



必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

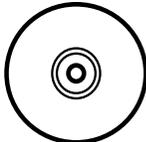


PCI 拡張カード、または ISA 拡張カード

フロッピーディスク



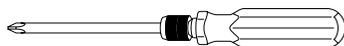
CD-ROM



拡張カードのドライバ
拡張カードによっては添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。対応機種をご確認のうえ、弊社純正品をお使いください。

リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは

リソース

本パソコンの各周辺機器(キーボード、マウスなど)や、拡張カードなどに割り当てられているIRQ、DRQ、I/O ポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。

IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request)

周辺装置が要求する処理はすべてCPUが行いますが、CPUはどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPUが常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPUに実行してほしいことが発生したときに、IRQの番号を使って現在CPUが行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPUは、どの装置から要求が来たのかをIRQから判断して、処理を行います。それが終われば、CPUはふたたび元の処理に戻ります。

DRQ (DMA 要求 : Direct Memory Access Request)

CPUがひんばんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。DMA (Direct Memory Access) とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業をCPUが行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ(制御回路)が行うというしくみのことです。その間、CPUは他の処理を行えるために、CPUの作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことをDMAコントローラと呼びます。

DRQとはDMAコントローラが、どの周辺装置からDMA要求が出されたかを認識するための番号のことです。

I/O (Input/Output) ポートアドレス

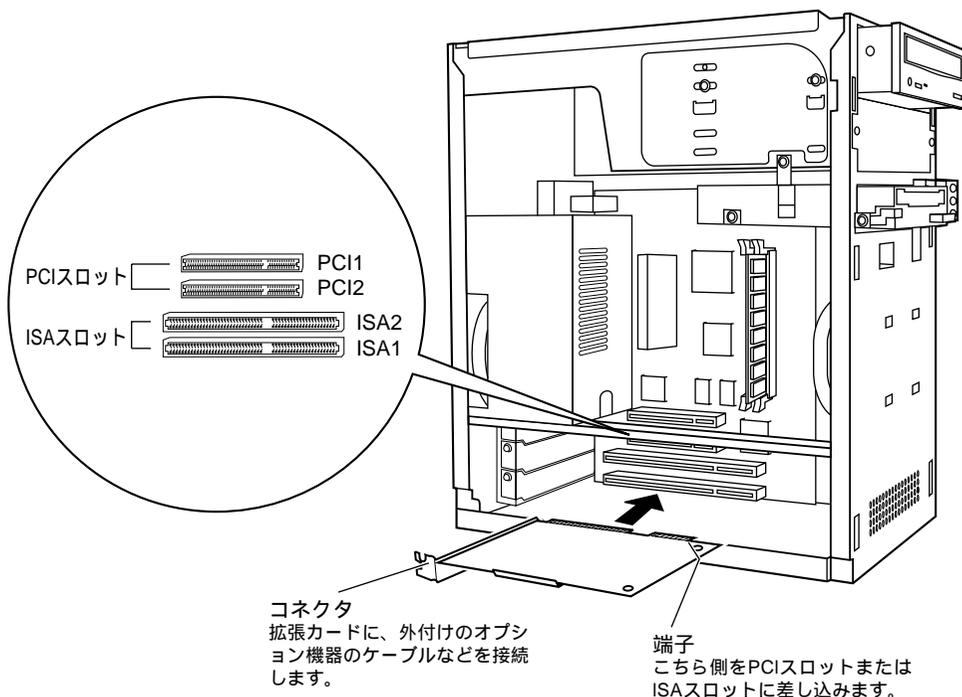
CPUと個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやり取りする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号が「I/O ポートアドレス」です。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける位置と取り付け方法について説明します。

拡張スロットの位置

拡張カードは、パソコン本体内部の拡張スロットに取り付けます。



本パソコンではISA1と、PCI2またはISA2に拡張カードを取り付けられます。

取り付ける

警告



感電

拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

2

オプション機器を使うには（拡張カードを増設する）

⚠注意



けが 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。

また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

拡張カードは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。拡張カードを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから作業を始めてください。

拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

確認

SCSIカードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI ID(●▶P.70)は7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

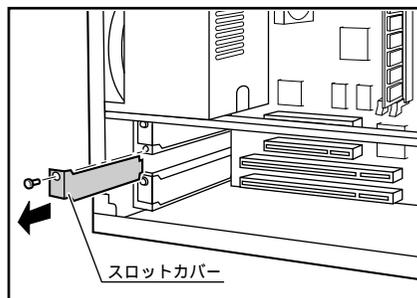
グラフィックスカードを取り付けるときは

PCI規格のグラフィックスカードを取り付けるときは、取り付ける前に「ATI mach64 ディスプレイドライバ」を削除する必要があります。詳しくは「グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意」(●▶P.149)をご覧ください。

ただし、マルチモニタ機能を使う場合は、「マルチモニタ機能を使う」(●▶P.91)をご覧ください。

1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.39)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

2 ネジ(1カ所)を外して、スロットカバーを取り外します。



アドバイス

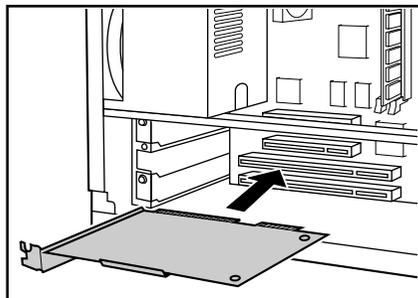
スロットカバーは保管してください

取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。
拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。

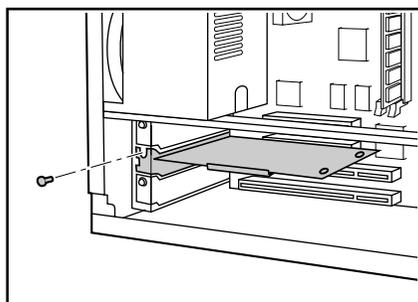


スロットカバー

- 3** 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



- 4** 手順2で外したスロットカバーのネジ（1カ所）で、拡張カードを固定します。
ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 5** 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.40) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

- 6** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。または、自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

アドバイス

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを増設するときは

リソースの設定や、ドライバのインストールをお客様自身で行う必要があります。

以下の流れにそって拡張カードを増設してください。

- 1 本パソコンで空いているリソースと、拡張カードが必要としているリソースが一致しているかを確認します。
「リソース一覧」(●▶P.134) および拡張カードのマニュアルをご覧ください。
- 2 リソースが一致していない場合は、「リソースを解放する」(●▶P.135) をご覧になり、本パソコンのリソースを解放または変更します。
- 3 拡張カードのマニュアルをご覧になり、拡張カードのリソースを設定します。
- 4 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.55) をご覧になり、拡張カードを取り付けます。
- 5 次ページの「拡張カードのドライバをインストールする」をご覧になり、ドライバをインストールします。

拡張カードのドライバをインストールする

以下の手順で拡張カードのドライバをインストールしてください。

インストールの途中で、以下のメッセージが表示されることがあります。そのときは、以下の指示に従ってください。

- Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示された場合
「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」にC:\¥windows¥options¥cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合
メッセージの内容をよくお読みになり、新しいほうのファイルをインストールしてください。
 - 1 パソコン本体の電源を入れます。
 - 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
 - 3  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 - 4 「次へ」をクリックします。
 - 5 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックしてください。
 - 6 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら「いいえ(一覧から選択する)」を選び、「次へ」をクリックします。
 - 7 「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というメッセージが表示されたら、「ハードウェアの種類」の一覧から、取り付けた拡張カードの種類をクリックし、「次へ」をクリックします。
たとえば、SCSIカードを取り付けた場合は、「SCSIコントローラ」をクリックします。
 - 8 「ハードウェアの製造元とモデルを選んでください。」というメッセージが表示されたら、



拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合

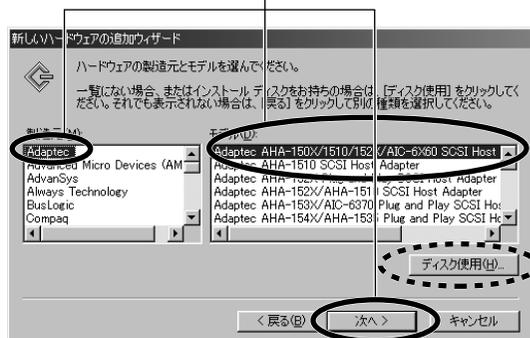
「ディスク使用」をクリックします。拡張カードのマニュアルをご覧になり、拡張カードに添付されているフロッピーディスクやCD-ROMから、ドライバをインストールしてください。



拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されていない場合

「製造元」の一覧から取り付けた拡張カードの製造元をクリックし、「モデル」の一覧から拡張カードのモデル名をクリックして、「次へ」をクリックします。手順9へ進みます。

フロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されていない場合



フロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合

(画面は一例です)

- 9 画面の指示に従って、「次へ」をクリックします。

- 10 「新しいハードウェアに必要なソフトウェアのインストールが完了しました。」というメッセージが表示されたら、「完了」をクリックします。
これで、ドライバがインストールされ、拡張カードが使えるようになります。
「完了」をクリックしたあとに、再起動または終了するメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動または終了してください。
- 11 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

リソースが一致していないときは

「デバイスがインストールされましたが、このデバイスはほかのデバイスと競合しています。」というメッセージが表示されたときは、拡張カードが必要としているリソースが、本パソコンの空いているリソースと一致していません。以下の手順に従ってリソースを設定してください。

- 1 「完了」をクリックします。
- 2 「デバイスを使用可能にする」をクリックします。
- 3 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 4 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 5 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 6 取り付けた拡張カードが該当する、ハードウェアの種類  をクリックします。
取り付けた拡張カードのモデル名に ? が表示されています。
- 7 ? が表示されている拡張カードのモデル名をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 8 「リソース」タブをクリックします。
- 9 「手動設定」をクリックし、リソースを設定してください。

拡張カードが必要とするリソースの値については、拡張カードのマニュアルをご覧ください。
リソースは不用意に設定すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(●▶ P.134) でよくご確認のうえ、リソースを設定してください。

「コンピュータを終了しますか？」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。

10秒ほど待ってから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。

.....

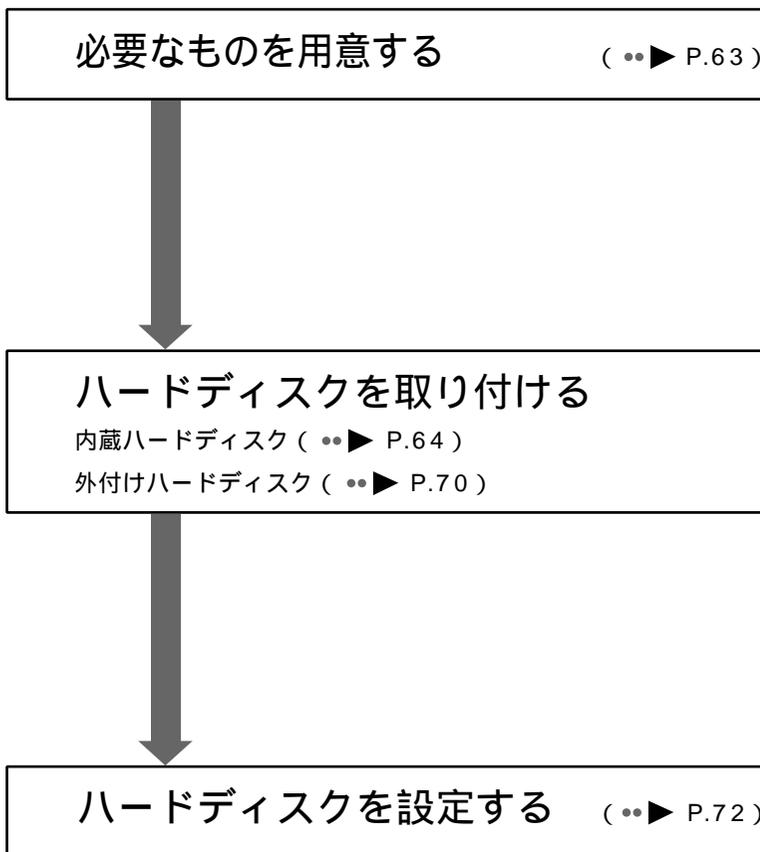
6

ハードディスクを増設する

本パソコンにはあらかじめ IDE 規格のハードディスクが 1 台内蔵されています。
さらに、内蔵ハードディスクをもう 1 台と、外付けのハードディスク (SCSI 規格) を増設できます。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するための作業の流れを説明します。



接続したハードディスクを本パソコンで使えるようにするための作業です。



ハードディスクを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるハードディスクにはどのようなものがあるか、ハードディスクを取り付けるために必要なもの、必要な作業について説明します。

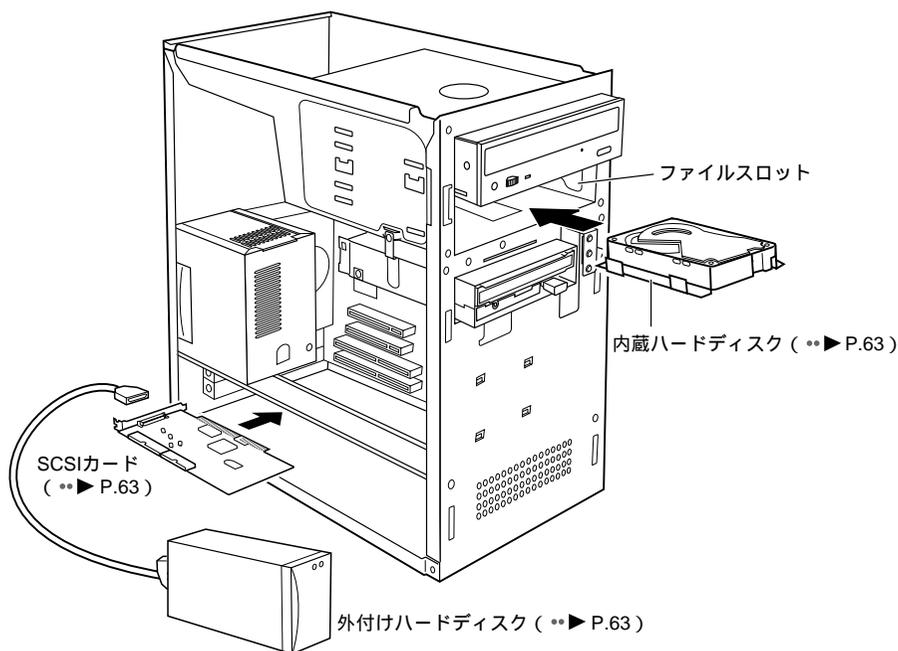
お使いになれるハードディスク

ハードディスクにはパソコン本体に内蔵するものと、外付けのものがあります。また、IDE（アイディーイー）とSCSI（スカジー）という2つの規格があります。本パソコンでは、IDE規格またはSCSI規格の内蔵ハードディスクを1台と、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。SCSI規格のハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードが必要です。

確認

ファイルスロットにオプション機器を増設済みの場合は

ファイルスロットにMO（光磁気ディスク）ドライブなどの内蔵オプション機器を増設済みの場合は、内蔵ハードディスクを増設できません。



内蔵ハードディスクは、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要とせず、省スペースというメリットがあります。

用語 IDE（アイディーイー）

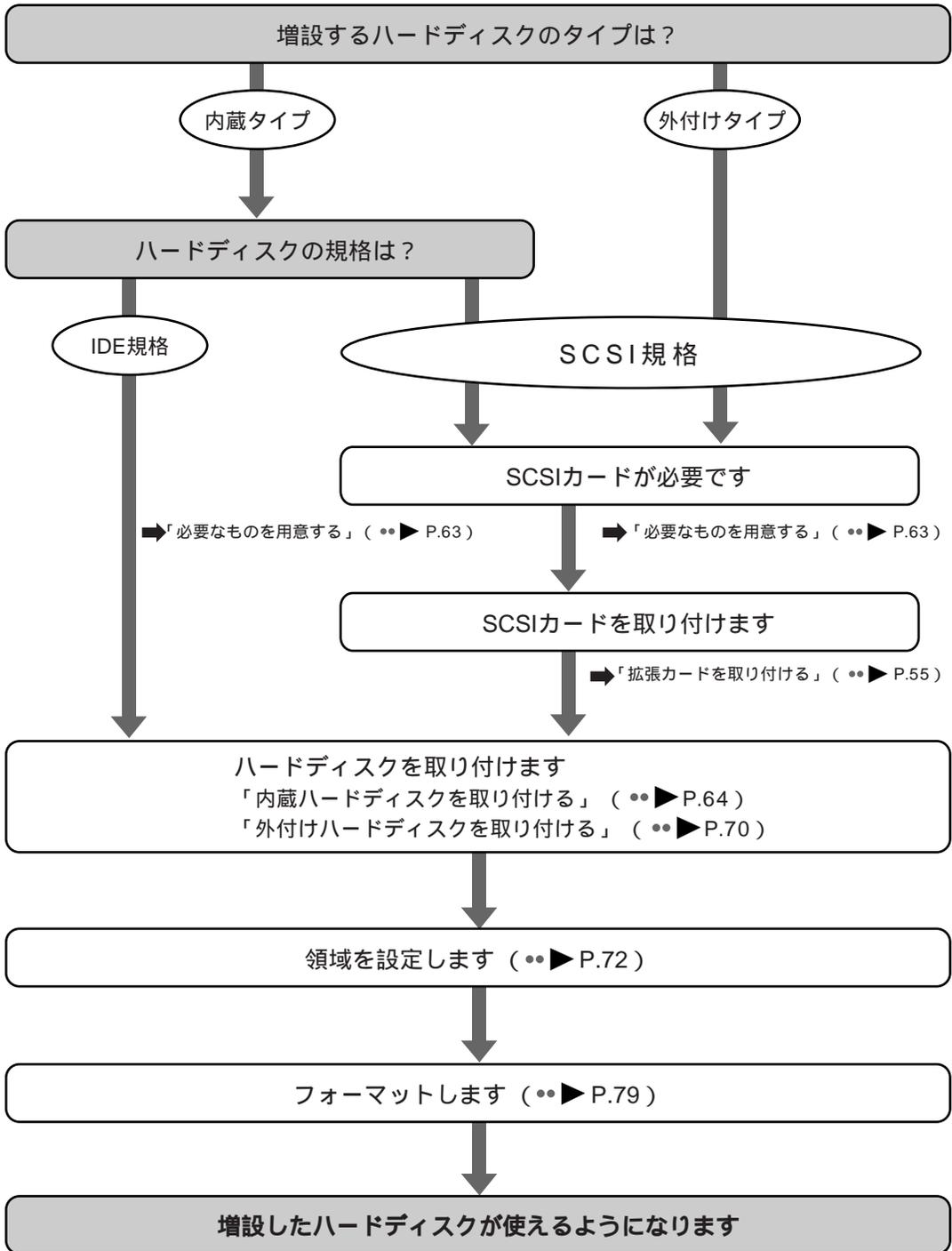
ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

用語 SCSI（スカジー）

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するときは、次の手順で作業を行います。
増設するハードディスクが内蔵か外付けか、また IDE 規格か SCSI 規格かによって、手順が異なります。



必要なものを用意する

IDE規格の内蔵ハードディスクと、SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクでは、必要なものが異なります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のハードディスク、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。対応機種をご確認のうえ、弊社純正品をお使いください。

■ IDE規格の内蔵ハードディスクを増設する場合 ■

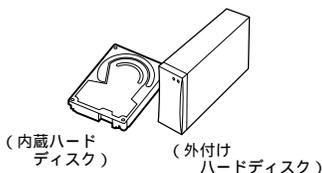


必要なものは増設するハードディスク本体のみです。ケーブル類は、本パソコンに内蔵されているものを使います。

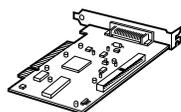
取り付け方法は、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶P.64)をご覧ください。

■ SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合 ■

SCSI規格のハードディスクをお使いになる場合は、次のものがが必要です。

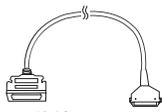


SCSI規格のハードディスク



SCSIカード(●▶P.50)

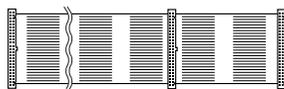
SCSI規格のハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。



(外付けハードディスク用)

SCSIケーブル

SCSIカードとハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。SCSI規格のコネクタには数種類あります。お使いになるSCSIカードとハードディスクに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



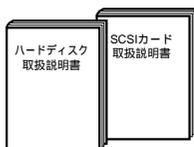
(内蔵ハードディスク用)



終端抵抗(ターミネータ)

電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。

終端抵抗は3つ以上、取り付けたり有効にしたりしないでください。



ハードディスクとSCSIカードのマニュアル

コラム

終端抵抗 (ターミネータ)

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けハードディスクを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

外付けハードディスクには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

また、SCSI規格の内蔵ハードディスクには終端抵抗が内蔵されています。内蔵ハードディスク上のディップスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

なお、SCSI規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクの両方を接続した場合は、SCSI規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクが、両端の機器となります。



内蔵ハードディスクを取り付ける場合

次の「内蔵ハードディスクを取り付ける」をご覧ください。



外付けハードディスクを取り付ける場合

「外付けハードディスクを取り付ける」(●▶P.70)をご覧ください。

内蔵ハードディスクを取り付ける

内蔵ハードディスクは、パソコン本体のファイルスロットに取り付けます。ここでは、IDE規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについて説明します。SCSI規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「アドバイス」(●▶P.68)をご覧ください。

警告

感電



ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。

誤飲



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。
- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

内蔵ハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ（●▶『取扱説明書』）を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

内蔵ハードディスクを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから作業を始めてください。

衝撃を与えないでください

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがあります。取り付けるときは、落としたり倒したりしないよう十分ご注意ください。

また、内蔵ハードディスクのマニュアルに記載されている取り扱い上の注意をよくご覧になってから、パソコン本体に取り付けてください。

確認

内蔵ハードディスクを取り付ける前に

「IDEデバイスを取り付けるときの注意」（●▶P.149）をご覧になり、必要な設定を行ってください。

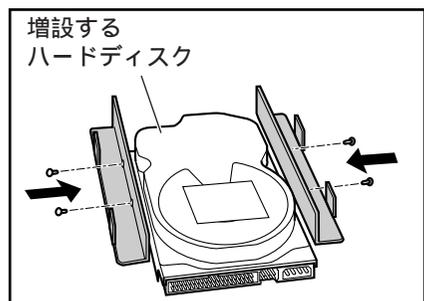
- 1 「本体カバーを取り外す」（●▶P.39）をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 「フロントパネルを取り外す」（●▶P.41）をご覧になり、フロントパネルを取り外します。
- 3 増設するハードディスクの両側に金具を取り付けます。

ハードディスクに添付されている金具を、添付されているネジ（4カ所）で固定します。

ハードディスクと金具を取り付ける場合は、インチネジ（青色のネジ）をお使いください。

ハードディスクによっては、この金具があらかじめ取り付けられているものもあります。

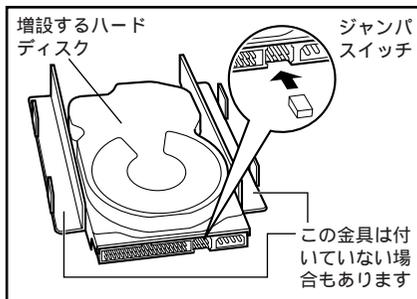
詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



4 増設するハードディスクのジャンプスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているか確認します。

弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」(●▶P.69)に設定されています。

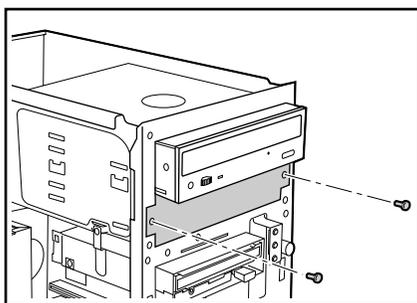
増設するハードディスクはセカンダリのマスターに接続するため、「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「マスター」(●▶P.69)に設定してください。ジャンプスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが本パソコンに正しく認識されないことがあります。設定方法について詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



(イラストは一例です)

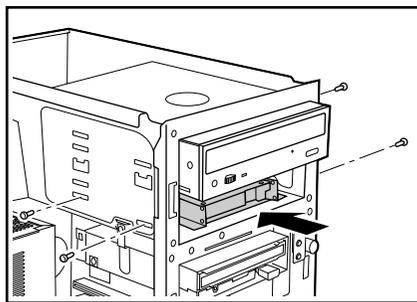
5 パソコン本体のかかし板を取り外します。

両側のネジ(2カ所)を取り外します。取り外したかかし板は、捨てずに保管してください。



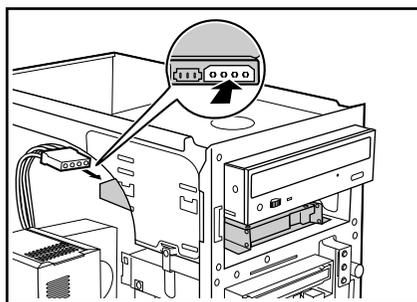
6 ハードディスクを取り付けます。

奥までスライドさせ、ハードディスクに添付されているネジ(4カ所)で固定します。



7 内蔵ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。

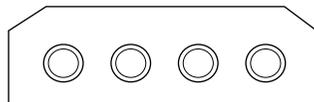
パソコン本体内部の電源ユニットから電源ケーブル(白いコネクタ)が分岐しています。その電源ケーブルを、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。



アドバイス

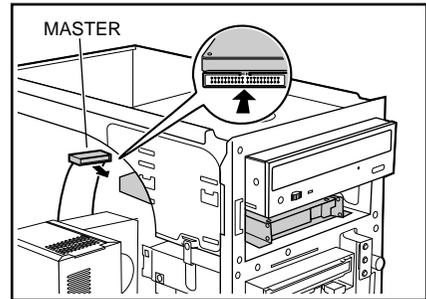
コネクタの形を合わせてください

電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



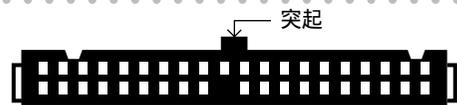
電源ケーブルのコネクタ(正面)

- 8 CD-ROMドライブに接続されているフラットケーブル(黒いコネクタ)をいったん取り外します。
- 9 手順8で取り外したフラットケーブルの黒いコネクタを、増設したハードディスクに接続します。「MASTER」と書かれたシールが貼られているコネクタです。



アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください
フラットケーブルのコネクタにある突起とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



フラットケーブルのコネクタ(正面)

- 10 手順9で接続したフラットケーブルの真ん中にある黒いコネクタを、CD-ROMドライブに接続します。「SLAVE」と書かれたシールが貼られているコネクタです。

アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください
フラットケーブルのコネクタにある突起部分とCD-ROMドライブのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。

- 11 「フロントパネルを取り付ける」(●▶P.42)をご覧になり、フロントパネルを取り付けます。
- 12 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.40)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(●▶P.72)をご覧ください。

アドバイス

Ultra DMA/33 モードではお使いになれません

本パソコンでは、増設する内蔵ハードディスクはセカンダリのマスターに接続するため、増設したハードディスクが Ultra DMA/33 対応であっても、Ultra DMA/33 モードではお使いになれません。

SCSI 規格の内蔵ハードディスクを増設するときは

以下の手順に従って取り付けてください。

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがありますので、取り付けるときは落としたり倒したりしないように十分ご注意ください。

- 1 SCSI 規格の内蔵ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID (●▶ P.70) を設定します。
終端抵抗(ターミネータ)の設定が必要な場合もあります。詳しくは、内蔵ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。
- 2 「本体カバーを取り外す」(●▶ P.39) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 3 「フロントパネルを取り外す」(●▶ P.41) をご覧になり、フロントパネルを取り外します。
- 4 SCSI カードを取り付けます。
詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶ P.49) をご覧ください。
- 5 「内蔵ハードディスクを取り付ける」の手順 3、5、6 (●▶ P.65) をご覧になり、内蔵ハードディスクを取り付けます。
- 6 SCSI カードに添付されているフラットケーブルで、増設した内蔵ハードディスクと SCSI カードを接続します。
- 7 「内蔵ハードディスクを取り付ける」の手順 7 (●▶ P.66) をご覧になり、増設した内蔵ハードディスクに電源ケーブルを接続します。
- 8 「フロントパネルを取り付ける」(●▶ P.42) をご覧になり、フロントパネルを取り付けます。
- 9 「本体カバーを取り付ける」(●▶ P.40) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(●▶ P.72) をご覧ください。

マスター / スレーブとは

IDE 規格では、規格に対応した内蔵ハードディスクや CD-ROM ドライブなどを 2 系統で各 2 台、合計 4 台まで接続できます。

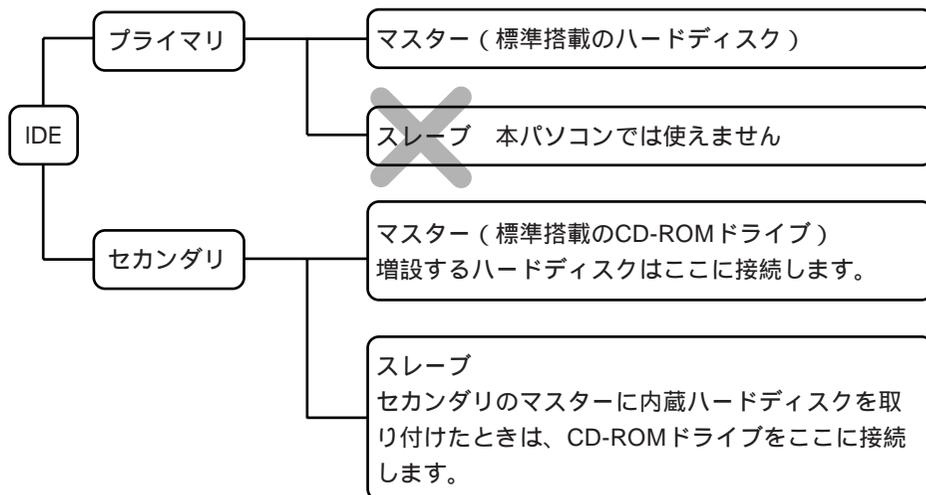
2 系統をそれぞれ、プライマリ、セカンダリと呼び、各系統の 1 台目をマスター、2 台目をスレーブとして区別します。

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクは、「ケーブルセレクト」(以下参照)に設定され、プライマリのマスターとして認識されています。

増設するハードディスクは、セカンダリのマスターとして取り付けます。

本パソコンにあらかじめ取り付けられている CD-ROM ドライブは、「ケーブルセレクト」に設定され、セカンダリのマスターとして認識されています。

本パソコンにハードディスクを増設するときは、CD-ROM ドライブをセカンダリのスレーブに接続し、増設ハードディスクをセカンダリのマスターに接続します。



ケーブルセレクトとは

本パソコンは「ケーブルセレクト」という機能を備えています。ケーブルセレクトとは、IDE 規格のハードディスクをケーブルの指定の場所に接続するだけで、取り付けられたハードディスクがマスターであるかスレーブであるかを、本パソコンが自動的に認識するというものです。

増設するハードディスクをジャンプスイッチでケーブルセレクトに設定し、本パソコンの内部にあるハードディスク用フラットケーブルの指定されたコネクタに接続するだけで、そのハードディスクをマスター、またはスレーブとして使うことができます。

外付けハードディスクを取り付ける

警告



ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



● ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。

● ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

SCSI カードと外付けハードディスクは、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

1

ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID を設定します。

SCSI 規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI ID は 0 から 7 番までの番号があります。

SCSI カードの SCSI ID は 7 番に設定してください(通常、SCSI カードはあらかじめ 7 番に設定されています)。

ハードディスクの SCSI ID は、それ以外の番号(0 ~ 6 番)を設定してください。

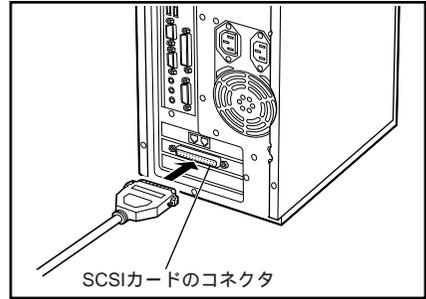
設定のしかたについては、SCSI カードとハードディスクのマニュアルをご覧ください。

2

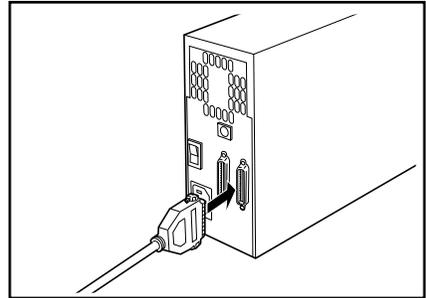
SCSI カードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.49)をご覧ください。

- 3** SCSIカードのコネクタにSCSIケーブルを接続します。
SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。



- 4** ハードディスクのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。

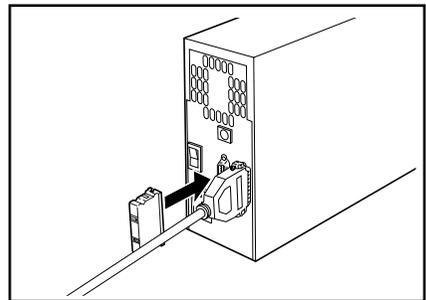


アドバイス

コネクタにIN/OUTの指示がないもの

ハードディスクによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。その場合は、どちら側に接続してもかまいません。

- 5** ハードディスクに終端抵抗を取り付けます。
ハードディスクのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



重要

終端抵抗は3つ以上取り付けないでください

終端抵抗は、SCSIカードおよび末端となる機器にのみ取り付けてください（SCSIカードには通常、終端抵抗が内蔵されています）。

すでにSCSI規格の内蔵オプション機器を増設していた場合は、SCSIカードの終端抵抗を無効にする必要がある場合があります。詳しくは、SCSIカードのマニュアルをご覧ください。

終端抵抗を3つ以上取り付けたり、3つ以上有効にしたりすると、故障の原因となることがあります。

- 6** ハードディスクに電源ケーブルを接続します。
ハードディスクに電源ケーブルがつながっている場合もあります。
詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

- 7 本パソコンと、接続されている機器、接続したハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて、領域の設定を行います。次の「領域を設定する」をご覧ください。

領域を設定する

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。領域を分けると、それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、「アドバイス」(●▶P.77)をご覧ください、領域を削除してから、領域の設定を行ってください。

重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設し、本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。詳しくは、「コラム」(●▶P.78)をご覧ください。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

ハードディスクの領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

領域を設定する前に、常駐しているアプリケーション(「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。
外付けハードディスクを増設した場合は、パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 3 C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、**[Enter]** を押します。

```
Microsoft(R)Windows 98  
(C)Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
```

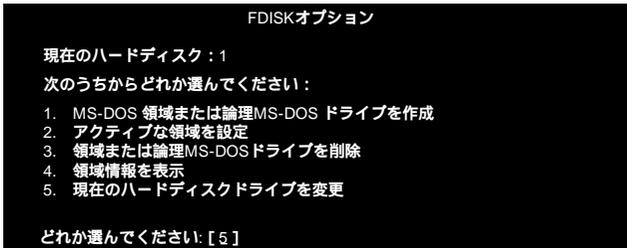
```
C:¥WINDOWS>fdisk
```

4 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)? [Y]

5 **[5]** を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。**アドバイス**

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。領域の設定を中断するには、手順 16、18、19（**▶P.76）を行ったあと、「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

- ハードディスクが正しく接続されているか
- 外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか

確認したあと、再び手順 1（**▶P.72）から操作し直してください。

SCSI規格のハードディスクを増設した場合で、上記のことを確認しても「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設したハードディスクをWindows 98が認識していない可能性があります。

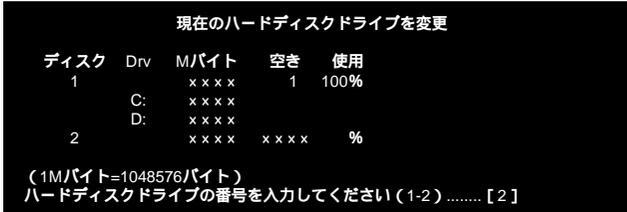
以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のもが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。 になっているときは、クリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 再び手順 2（**▶P.72）から操作し直します。

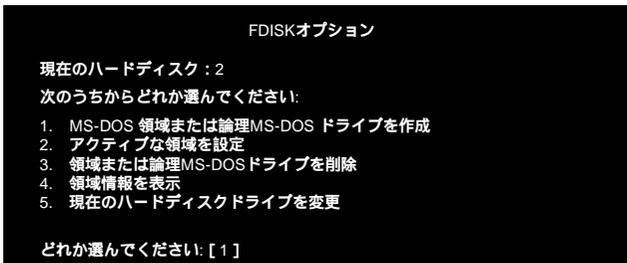
ドライブ名やハードディスクの番号は異なる場合があります

ハードディスクなどのオプション機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

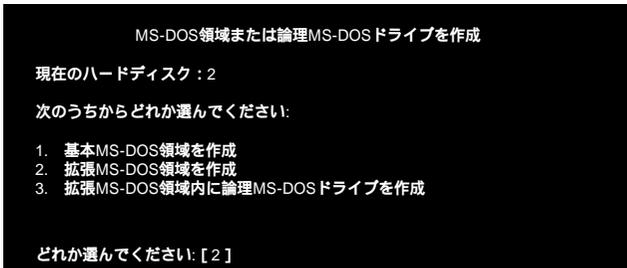
- 6 ②を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]**を押します。
 ディスク1は、ご購入時に内蔵されているハードディスクです。
 ディスク2が増設したハードディスクです。



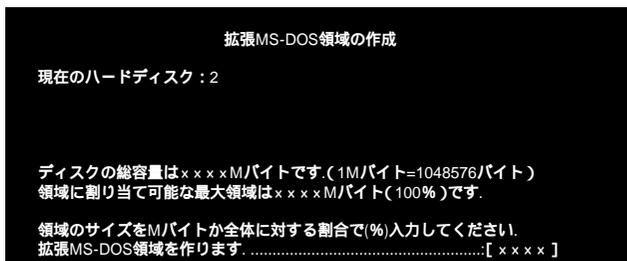
- 7 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、①を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。



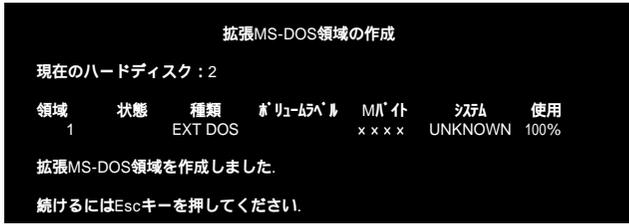
- 8 ②を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。



- 9 「ディスクの総容量は...拡張MS-DOS領域を作ります。」というメッセージが表示されたら、そのまま**[Enter]**を押します。
 増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。



10 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



11 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。



領域を分けない場合

手順 12 へ進みます。

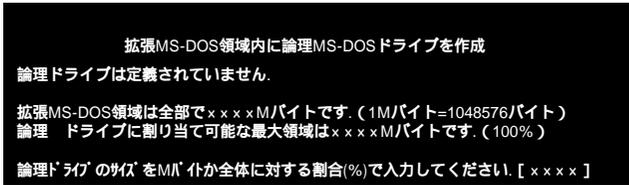


領域を分ける場合

手順 13 へ進みます。

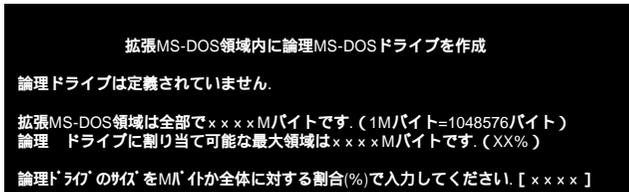
■ 領域を分けない場合 ■

12 そのまま **[Enter]** を押して、手順 15 へ進みます。



■ 領域を分ける場合 ■

13 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。



アドバイス

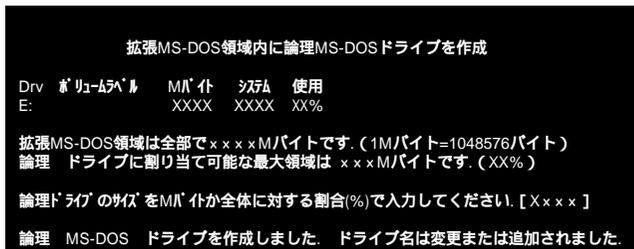
容量を入力するときに

単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力します。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

- 14 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けられます。

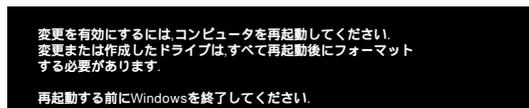
表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。



- 15 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

- 16 **[Esc]**を押します。

- 17 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



- 18 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 20 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(●▶P.79)をご覧ください。

アドバイス

領域を削除する

増設したハードディスクの領域は分け直すことができます。

たとえば、本書の手順に従って増設したハードディスクの領域を分けなくて使っていた場合、領域の設定をし直して領域を分けることができます。ただし、領域の設定をし直すと、増設したハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

- 1 「領域を設定する」の手順 1 ~ 6 (●▶ P.72) の作業を行います。
- 2 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 3 **[3]**を押して「3.拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 4 「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット1文字)を入力し、**[Enter]**を押します。領域を削除する増設ハードディスクの領域が2つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名(アルファベット)が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。
- 5 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合
そのまま**[Enter]**を押します。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合
表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]**を押します。

- 6 「よろしいですか(Y/N)」というメッセージが表示されたら、**[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました..」というメッセージが表示されます。
- 7 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。



領域が分かれていない場合

画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]**を押します。



領域が分かれている場合

手順4 ~ 6を繰り返して、ドライブを削除します。

「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました」というメッセージが表示され、画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されたことを確認します。そのあと、**[Esc]**を押します。

- 8 「論理ドライブは定義されていません..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。
- 9 **[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 10 **[2]**を押して「2.拡張MS-DOS領域を削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 11 **[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。
- 12 「拡張MS-DOS領域を削除しました..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

基本MS-DOS領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本MS-DOS領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順7 (●▶ P.74) から作業を行ってください。

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名が変更されます。

本パソコンにハードディスクを1台増設した場合、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスク、増設したハードディスク、CD-ROMドライブには、以下の表のとりの順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名 (ア)	ドライブ名 (イ)	備考 (FDISKとの対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	CD-ROMドライブ	F	G	-

- 増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に、増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にCD-ROMドライブが割り当てられます。
- 増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

新しくハードディスクを取り付けたときは、領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられているハードディスクを、誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 デスクトップの （マイコンピュータ）をクリックします。
- 2 増設したハードディスクのドライブにマウスポインタを合わせます。
マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ

ここに何も表示されていないことを確認してください。

増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を2つに分けた場合です。

重要

どのドライブが増設したハードディスクのものが調べてください

本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域を設定すると、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成した場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。増設したハードディスクがどのドライブに割り当てられているかを調べてください。

増設したハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させたときに、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄には何も表示されません。

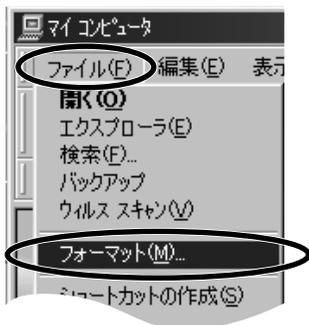
あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

アドバイス

「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

- 3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。

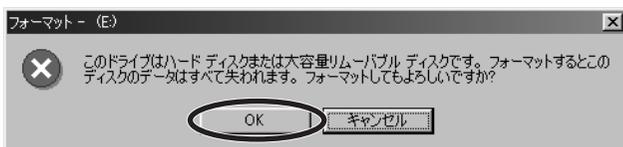


- 4 「フォーマットの種類」欄の「通常のフォーマット」をクリックし、「開始」をクリックします。



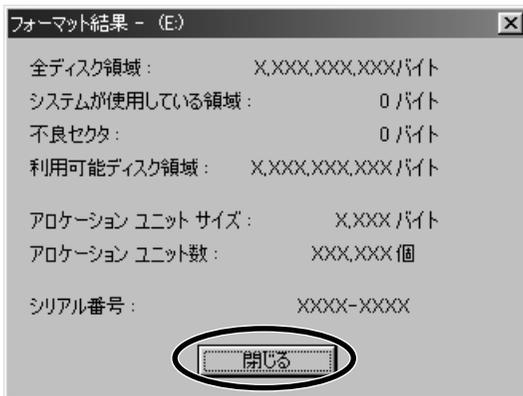
増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。

- 5 「OK」をクリックします。

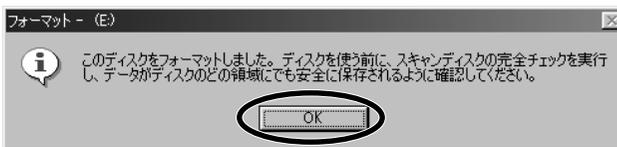


フォーマットが始まります。

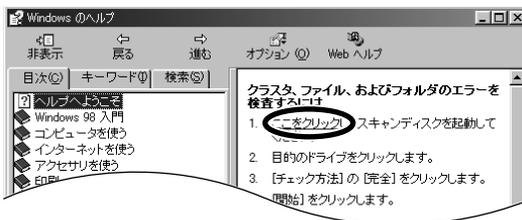
- 6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。



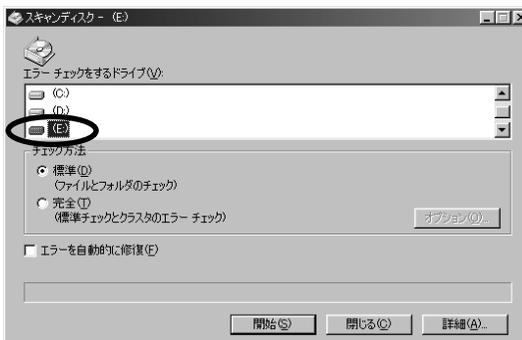
- 7 「OK」をクリックします。



- 8 増設したハードディスクでスキャンディスクを実行します。
スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10 「チェック方法」で「完全」を選びます。

- 11 「開始」をクリックします。

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

- 12 スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 13 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 15 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

アドバイス

領域を 2 つ以上に分けたときは

手順 2 ~ 15 (●▶ P.79) を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

長いファイル名をつけたファイルをコピーするには

Windows98 で作成した長いファイル名(半角で 8 文字の基本名と 3 文字の拡張子より長いファイル名)をつけたファイルは、ハードディスクをフォーマットした直後はコピーできません。

長いファイル名をつけたファイルをコピーするには、フォーマット後に本パソコンを再起動してください。SCSI 規格のハードディスクを増設した場合は、再起動しなくても長いファイル名をつけたファイルをコピーできます。

- 16 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

7

ファイルスロットにオプション機器を取り付ける

パソコン本体のファイルスロット(●▶P.3)に内蔵SCSIオプション機器(MOドライブ、CD-ROMドライブなど)や内蔵ハードディスクなどの内蔵オプション機器を取り付けられます。ここでは、3.5インチの内蔵オプション機器の取り付けかたを例にして説明します。

確認

ファイルスロットに内蔵ハードディスクを増設済みの場合は
内蔵オプション機器を増設できません。

警告



内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- 内蔵オプション機器は、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の内蔵オプション機器をお使いになると、故障の原因となる場合があります。



内蔵オプション機器の取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因になる場合があります。

重要

内蔵オプション機器は、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けたら、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
内蔵オプション機器を取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから作業を始めてください。

内蔵オプション機器を取り付ける

本パソコンのファイルスロットには、ハードディスク、MO(光磁気ディスク)ドライブなどの内蔵オプション機器を取り付けることができます。内蔵フロッピーディスクドライブを取り付けることはできません。

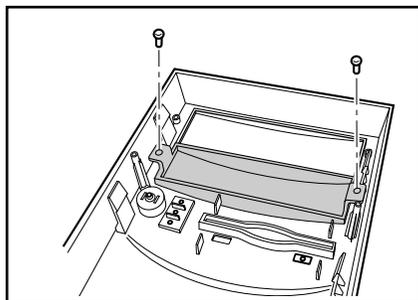
ここでは、SCSI規格の内蔵MOドライブを例に、取り付けかたを説明します。

アドバイス

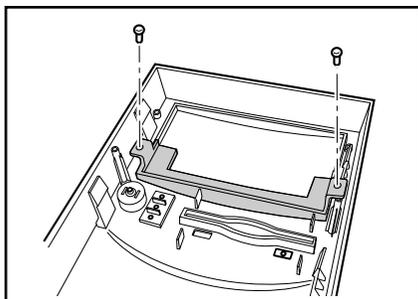
内蔵ハードディスクを取り付ける場合

内蔵ハードディスクを取り付けるときは、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶P.64)をご覧ください。

- 1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.39)をご覧ください、本体カバーを取り外します。
- 2 「フロントパネルを取り外す」(●▶P.41)をご覧ください、フロントパネルを取り外します。
- 3 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.55)をご覧ください、SCSIカードを取り付けます。
- 4 SCSI規格の内蔵MOドライブのSCSI ID(●▶P.70)と終端抵抗を設定します。
SCSI IDは内蔵MOドライブのマニュアルをご覧ください、0～6番の間で任意の番号を設定します。
他のSCSI機器を取り付けている場合は、その機器のSCSI IDと重複しない番号を設定してください。
終端抵抗は、内蔵MOドライブのマニュアルをご覧ください、設定してください。
- 5 手順2で取り外したフロントパネルの裏面から、かくし板を取り外します。
かくし板の両端にあるネジ(2カ所)を取り外します。
取り外したかくし板は捨てずに保管してください。



- 6 フロントパネルに、ファイルスロットパネルを取り付けます。
本パソコンに添付されているファイルスロットパネルを、手順5で取り外したネジでフロントパネルに取り付けます。

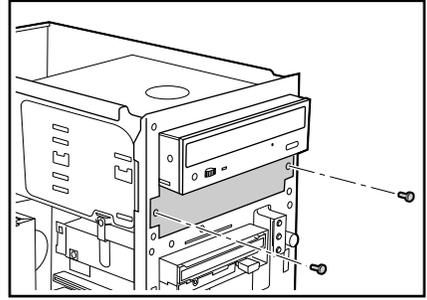


アドバイス

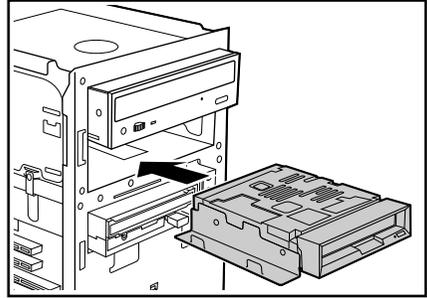
CD-ROMドライブを取り付ける場合

CD-ROMドライブを取り付ける場合には、この作業は必要ありません。

- 7** パソコン本体からかくし板を取り外します。
ネジ（2カ所）を外して取り外します。取り外したかくし板は捨てずに保管してください。

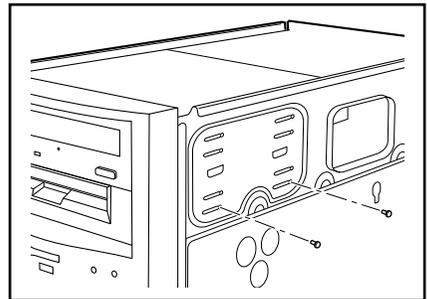
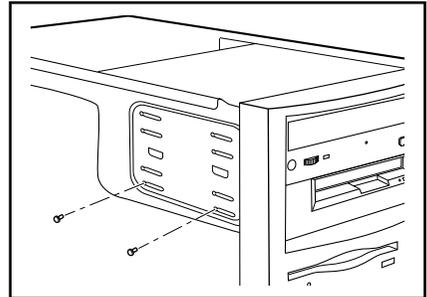


- 8** 増設する内蔵MOドライブを、ファイルスロットに取り付けます。
パソコン本体前面側から取り付けてください。

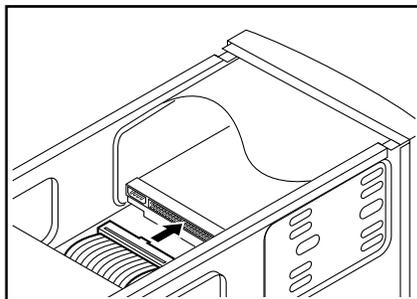


- 9** 「フロントパネルを取り付ける」（**▶P.42）をご覧になり、フロントパネルを取り付けます。

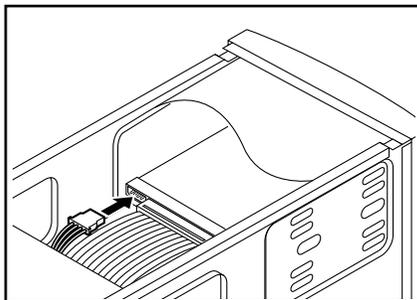
- 10** 取り付けした内蔵MOドライブをネジ（片側2カ所ずつ計4カ所）で固定します。
ドライブの前面が、取り付けしたファイルスロットパネルの面とそろった位置を探します。
位置が決まったらドライブに添付されているネジ（4カ所）で固定します。



- 11** フラットケーブルを接続します。
SCSIカード用のフラットケーブルの片方のコネクタを、MOドライブのコネクタに接続します。もう片方のコネクタを拡張スロットに取り付けたSCSIカードのコネクタに接続します。



- 12** 電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部の電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使っていない1本を内蔵MOドライブのコネクタに接続します。



- 13** 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.40) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

その他のオプション機器を使う

MO（光磁気ディスク）ドライブを使う

MO（エムオー）ドライブとは、レーザーと磁気でMO（光磁気ディスク）にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

必要なものを用意する

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

MOドライブ

MOドライブには、パソコン本体に内蔵するものと、外付けするものがあります。また、ATAPIとSCSIという二つの規格があります。

ATAPI規格のMOドライブは、パソコン本体のファイルスロットに取り付けます。SCSI規格のMOドライブは、外付けのものと内蔵のものがあります。SCSI規格のMOドライブを使うには、MOドライブ本体のほかに、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗などが必要です。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格の機器を使うために必要なものです。

終端抵抗（ターミネータ）は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合」（**▶P.63）をご覧ください。

MO

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応しているMOをご購入ください。

用語 SCSI（スカジー）

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。

MOドライブを使うには

ATAPI規格MOドライブとSCSI規格のMOドライブとは、取り付け手順が異なります。ATAPI規格のMOドライブをお使いになる場合は、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶P.64)を参考にしてください。また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

SCSI規格のMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを増設する」(●▶P.49)をご覧ください。SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードとMOドライブをつなぎます。外付けのMOドライブには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。内蔵のMOドライブは、ディップスイッチなどで終端抵抗を設定する必要があるものもあります。内蔵MOドライブの接続について詳しくは、「ファイルスロットにオプション機器を取り付ける」(●▶P.83)をご覧ください。外付けのMOドライブの接続方法については、「外付けハードディスクを取り付ける」(●▶P.70)を参考にしてください。また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

スキャナを使う

スキャナは、イラストや写真などを画像データとして取り込むための装置です。

必要なものを用意する

スキャナを使うには、次のものがが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにハンドイスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。

パソコン本体の平行コネクタ(●▶P.5)に接続するものや、SCSIカードという拡張カードを使うもの(SCSI規格)などがあります。

スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合」(●▶P.63)をご覧ください。

用語 TWAIN(トゥウエイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能が使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの ■

ケーブルで、スキャナとパソコン本体(平行コネクタ●▶P.5)をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。
接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

■ SCSIカードに接続するもの ■

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを増設する」(●▶P.49)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ターミナルアダプタを接続する

本パソコンには、ターミナルアダプタ(TA:ティーエー)を接続できます。

ターミナルアダプタは、ISDN回線に接続するために必要な機器です。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ(●▶P.4)に接続するものや、USBコネクタ(●▶P.4)に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するものは、専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体をつなぎます。

USBコネクタに接続するものは、「USB機器を接続する」(●▶P.90)をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

USB 機器を接続する

本パソコンには、USB 機器を接続できます。

必要なものを用意する

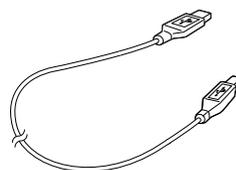
USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

USB 機器

マウス、キーボード、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

USB ケーブル

USB 機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB 機器に添付されている場合もあります。



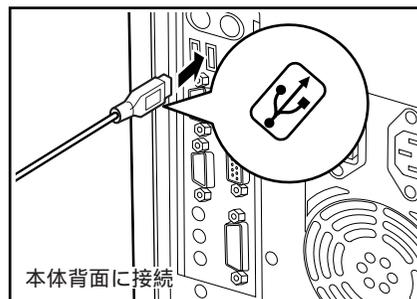
USB 機器のドライバ

通常はUSB 機器に添付されています。

USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

- 1 パソコン本体背面のUSBコネクタに、USB機器のケーブルを接続します。
コネクタのマークを右に向けて接続してください。



アドバイス

MIX 36L をお使いの場合

MIX 36L をお使いの場合は、ディスプレイのUSBコネクタに接続することもできます。
接続のしかたについて詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使えるUSB機器もあります。詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。

マルチモニタ機能を使う

Windows98には、1台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものを行う作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものがが必要です。

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- 用意したグラフィックスカード用のディスプレイドライバ
(マルチモニタ機能対応のもの)
- ディスプレイ

重要

グラフィックスカードを選ぶときの注意

- 本パソコンには AGP スロットが無いため、AGP 規格のグラフィックスカードはお使いになれません。
- ISA 規格のグラフィックスカードではマルチモニタ機能をお使いになれません。
- Windows98に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能に対応していない場合があります。
マルチモニタ機能に対応しているかを製造元のメーカーにご確認ください。

グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.55)をご覧ください、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。
- 2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。
接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。
- 3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れると、新たに接続したディスプレイのほうに起動画面が表示されます。
- 5 ディスプレイドライバをインストールします。
グラフィックスカードのマニュアルをご覧ください、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。

マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあとに、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。
「このモニタを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
- 6 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。
解像度と発色数の設定のしかたについて詳しくは、『困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。
「互換性の警告」ウィンドウが表示された場合は、「新しい色の設定で再起動する」を選び、「OK」をクリックしてください。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ

本パソコンでは、増設したグラフィックスカードがプライマリアダプタになり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがプライマリモニタになります。

一方、本パソコンのご購入時に搭載されているグラフィックスカード（オンボード）はセカンダリアダプタとなり、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイがセカンダリモニタになります。

パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリモニタに表示されます。

プライマリアダプタは「画面のプロパティ」の「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリアダプタは「2」と表示されます。

また、複数のPCIグラフィックスカードを取り付けた場合、PCIスロット（**▶P.55）の番号の小さい順に、モニタが割り当てられます。

3

BIOS セットアップ

BIOSセットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOSセットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常にお使いになる範囲では、BIOSセットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみお読みください。

また、BIOSセットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 1 . BIOS セットアップとは 94
- 2 . BIOS セットアップの操作のしかた 95
- 3 . ご購入時の設定に戻す 99
- 4 . BIOS セットアップメニューの詳細 101
- 5 . パスワードを使う 123
- 6 . BIOS が表示するメッセージ一覧 126

1

BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- フロッピーディスクドライブや内蔵ハードディスク (IDE 規格)、CD-ROM ドライブなどの装置を取り外したとき、または取り付けるとき
- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード (暗証番号) を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- 省電力モード (電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態) を解除、または変更するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- 他の OS をお使いになるとき

アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

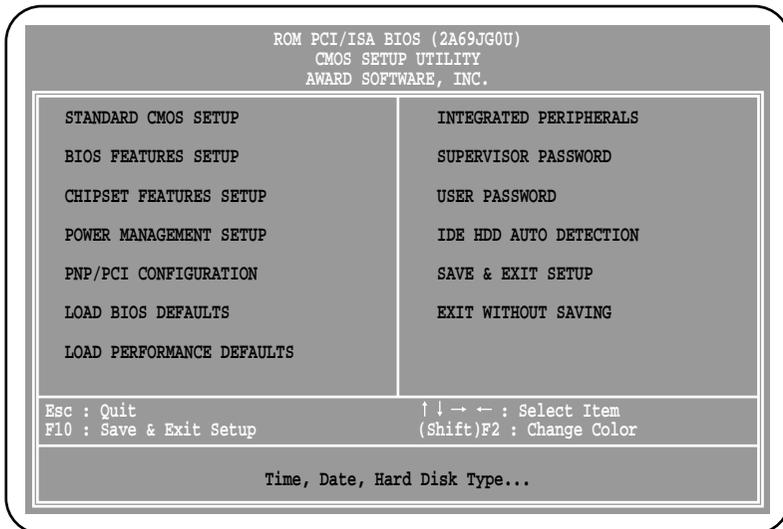
パーソナルエコーセンターのご利用については、「パソコン FM シリーズ サポート & サービス 富士通パソコン ポート ご案内」をご覧ください。

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックして、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンの電源が切れます。
- 4 10 秒ほど待ってから、再び電源を入れます。
- 5 画面左下に「Press [TAB] to show POST screen,[DEL] to enter SETUP」と表示されている間に、**[Delete]** を押します。
BIOS セットアップのメインメニューが表示されます。



アドバイス

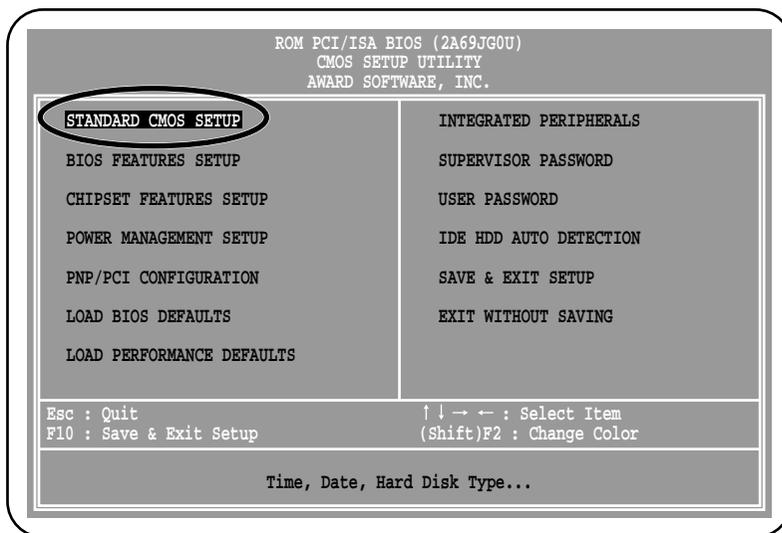
BIOS セットアップを始められなかったら

Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。

Windows98 が起動してしまったときは、Windows98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 5 の操作を行ってください。

設定を変更する

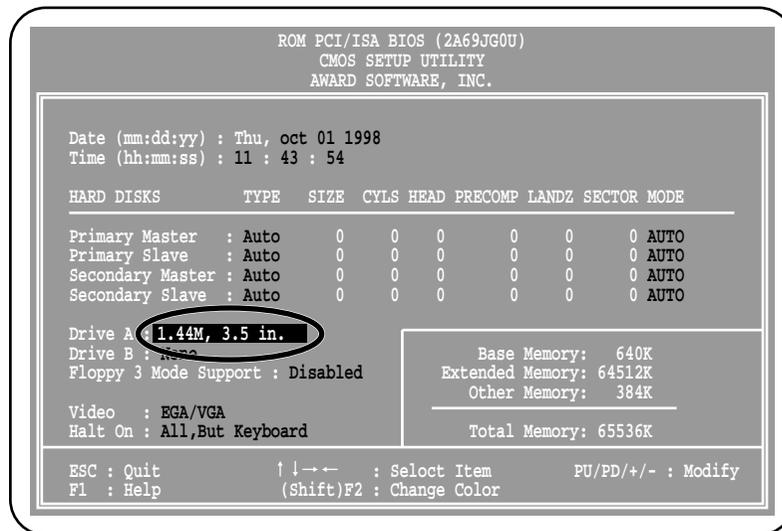
- 1 □□□□を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



(画面は一例です)

- 2 設定を変更したいメニューが反転表示されていることを確認し、**[Enter]**を押します。

- 3 □□□□を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。



(画面は一例です)

- 4 **[+]** または **[Page Up]** または **[Page Down]** を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、**[Esc]**を押してメインメニュー画面に戻り、手順1から繰り返します。

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは「BIOS セットアップメニューの詳細」(●▶P.101)をご覧ください。

誤って変更してしまった設定を前回保存したときの設定に戻すには

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

また、STANDARD CMOS SETUPメニュー(●▶P.101)内では、**[F5]**を押しても前回保存した設定には戻りません。

- 1 **[] [] [] []**を押して、変更を取り消したい項目を選びます。
- 2 **[F5]**を押します。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.99)をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、次ページの「BIOS セットアップを終了する」をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- **[F1]** : カーソルをあわせている項目のヘルプを表示します。ヘルプを閉じるにはもう一度**[F1]**を押すか、**[Esc]**を押します。
- **[F2]** : BIOS セットアップ画面の色を変更します。
- **[F5]** : 各項目の設定を、前回保存した値に戻します。
- **[F6]** : 表示しているメニューの設定を、ご購入時の状態(初期値)に戻します。
- **[F7]** : システムが高速に動作する状態に設定します。
- **[F10]** : 変更した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。
- **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。
メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- **[Enter]** : 各メニューを表示します。
- **[] [] [] []** : 設定するメニューや項目にカーソルを移動します。
- **[+] [] [Page Up] [Page Down]** : 設定を変更します。

BIOS セットアップを終了する

1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]**を押してメインメニューを表示します。

2



設定を保存して BIOS セットアップを終了する場合

[] [] [] []を押して、SAVE & EXIT SETUP にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。次のウィンドウが表示されます。

SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ?



設定を保存しないで BIOS セットアップを終了する場合

[] [] [] []を押して、EXIT WITHOUT SAVING にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。次のウィンドウが表示されます。

Quit Without Saving (Y/N) ?

3

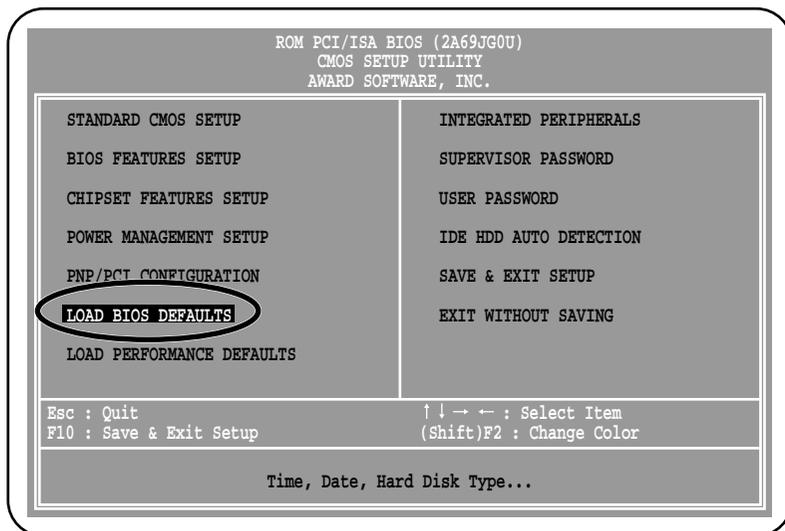
[Y] を押し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

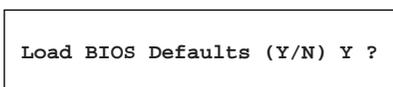
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1 メインメニューが表示されていないときは、**[Esc]**を押してメインメニューを表示します。
- 2 を押して、LOAD BIOS DEFAULTSにカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。



- 3 を押し、**[Enter]**を押します。



設定をご購入時の状態に戻ります。

- 4 を押して、POWER MANAGEMENT SETUPにカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
- 5 を押して、「ModemRingOn/WakeOnLan」(●▶P.114)にカーソルを合わせます。
- 6 または **[Page Up]** **[Page Down]**を押して、設定を「Disabled」にします。
- 7 **[Esc]**を押します。
メインメニューに戻ります。
- 8 を押してSAVE & EXIT SETUPにカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

9

(Y) を押し、 (Enter) を押します。

```
SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) Y ?
```

BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

設定項目の詳細

Date (mm:dd:yy)

月 / 日 / 年を設定します。年は西暦で2桁ずつ入力します。曜日は設定できません。

Time (hh:mm:ss)

時 : 分 : 秒を設定します。時間は24時間形式で入力します。

アドバイス

日時の設定は一度だけです

DateとTimeは一度合わせれば、電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Primary Master / Primary Slave / Secondary Master / Secondary Slave
プライマリIDEとセカンダリIDEに取り付けられたハードディスクのタイプ(容量 / シリンダ数など)を設定します。

TYPE (初期値 : Auto)

IDEドライブの認識方法を選びます。通常はAutoのままでお使いください。

- Auto
本パソコンがIDE内蔵ドライブのタイプを自動的に設定します。
- User
CYLS, HEAD, PRECOMP, LANDZ, SECTORの各設定値をキーボードから入力できます。
設定値は正しく入力してください。
- None
内蔵ハードディスクを使わない場合に選びます。

CYLS

TYPEでAutoに設定した場合は、0を表示し設定できません。

TYPEでUserに設定した場合は、ハードディスクのシリンダ数を、0から65535の範囲で入力します。

HEAD

TYPEでAutoに設定した場合は、0を表示し設定できません。

TYPEでUserに設定した場合は、ハードディスクのヘッド数を、0から255の範囲で入力します。

PRECOMP

ハードディスクヘータを書き込んでいるときに、データの保護を行うためBIOSがシリンダのどこへ仮書き込みを行うかを設定します。これは、古いハードディスク用に設けられた設定です。あらかじめ取り付けられているハードディスクは、ハードディスクの内部で制御を行っているため、設定する必要はありません。

TYPEでAutoに設定した場合は、0を表示し設定できません。

TYPEでUserに設定した場合は、ハードディスクのシリンダ数を、0から65535の範囲で入力します。ここで入力する値は、65535もしくは0を設定してください。

LANDZ

システムの電源が切断されたときに、ハードディスクのヘッドをどこのシリンダに退避させるかを設定します (Landing Zone)。これは、古いハードディスク用に設けられた設定です。あらかじめ取り付けられているハードディスクは、ハードディスクの内部で制御を行っているため、設定する必要はありません。

TYPE で Auto に設定した場合は、0 を表示し設定できません。

TYPE で User に設定した場合は、ハードディスクのシリンダ数を、0 から 65535 の範囲で入力します。ここで入力する値は、物理シリンダ数 (CYLS に表示される値) の最大値 - 1 の値を設定してください。

例) 物理シリンダ数 (CYLS に表示される値): 9042 の場合、

9042 (物理シリンダ数) - 1 = 9041 (Landing Zone) を設定してください。

SECTOR

TYPE で Auto に設定した場合は、0 を表示し設定できません。

TYPE で User に設定した場合は、ハードディスクのセクタ数を、0 から 255 の範囲で入力します。

MODE (初期値: Auto)

ハードディスクにアクセスする方式を設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- AUTO
ハードディスクがサポートしているアクセス方式を自動的に検出します。
- NORMAL
通常のシリンダ番号 / ヘッド番号 / セクタ番号によるアクセスを行います。
- LBA
LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) を行います。
- LARGE
拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換 (大容量のディスクにアクセスするためのパラメータ変換) によるアクセスを行います。

Drive A (初期値: 1.44M, 3.5in.)

フロッピーディスクドライブのタイプ (サイズと記録密度) を設定します。

- None
あらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブを取り外したときに選んでください。
- 360K, 5.25in. / 1.2M, 5.25in. / 720K, 3.5in. / 1.44M, 3.5in. / 2.88M, 3.5in.
本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブは、1.44M, 3.5in. です。設定は変更しないでください。

Drive B

本パソコンにはオプション機器の内蔵フロッピーディスクドライブを取り付けることはできません。設定値は None のままでお使いください。

Floppy 3 Mode Support (初期値: Disabled)

他社製の 3 モードドライブで、1.2MB のフロッピーディスクを使う場合に設定します。通常は Disabled のままでお使いください。

- Disabled
1.2MB 制御を行いません。
- Drive A
Drive A のみ 1.2MB 制御を行います。
- Drive B
Drive B のみ 1.2MB 制御を行います。
- Both
Drive A, Drive B とともに 1.2MB 制御を行います。

アドバイス

他社製の3モードドライバは使わないでください

本パソコンに添付されている3モードドライバは、本設定に関わらず動作するよう開発されています。また、他社製の3モードドライバを使った場合の動作保証は一切いたしません。他社製の3モードドライバは、使わないでください。

Video (初期値: EGA/VGA)

画面表示の規格を設定します。本パソコンは自動的にグラフィックカードの画面表示規格を判別しているため、他のモードに変更しても設定値が自動的に変更されます。

通常は EGA/VGA のままでお使いください。

- EGA/VGA
通常のカラーグラフィックアダプタを選択します。
- CGA 40
電源投入後画面に 40 行表示できるカラーグラフィックアダプタを選択します。
- CGA 80
電源投入後画面に 80 行表示できるカラーグラフィックアダプタを選択します。
- MONO
モノクロのグラフィックアダプタを選択します。

Halt On (初期値: All, But Keyboard)

POST 時にエラーを検出したときに、どのエラーで POST を止めるかを設定します。

- No Errors
POST 時にエラーを検出しても、OS を起動します。
- All, But Keyboard
キーボード以外のエラーを検出した場合、POST を止めます。
- All, But Diskette
フロッピーディスクドライブ以外のエラーを検出した場合、POST を止めます。
- All, But Disk/Key
キーボード、フロッピーディスク以外のエラーを検出した場合、POST を止めます。
- All Errors
エラーを検出した場合、POST を止めます。

用語 POST

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「POST (Power On Self Test: 起動時の自己診断テスト)」といいます。

Base Memory

ベースメモリ容量を表示します。

Extended Memory

拡張メモリ容量を表示します。

Other Memory

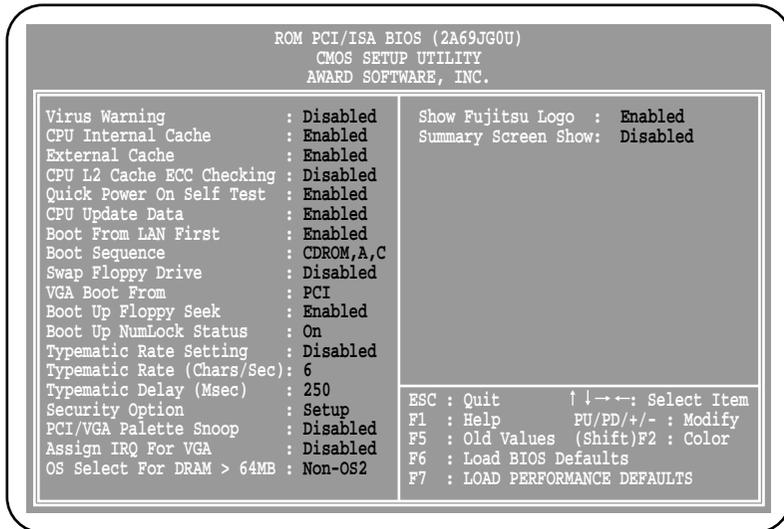
1024Kbyte 以下のメモリ領域で Base Memory を引いた容量を表示します。

Total Memory

本パソコンに搭載されている全メモリ容量を表示します。

BIOS FEATURES SETUP

CPUのキャッシュメモリに関する設定やシステムが起動する順番、VGAに関する設定などを行います。



設定項目の詳細

Virus Warning (初期値 : Disabled)

ハードディスクのブートセクタへの書き込みについて設定します。通常はDisabledのままお使いください。

- Enabled
ブートセクタへの書き込みを禁止します。ブートセクタへデータを書き込もうとすると警告メッセージが表示されます。
- Disabled
通常どおり書き込みができます。

アドバイス

Disabled に設定してください

ウイルス検出用のアプリケーションをインストールする場合やOSをインストールする場合は、必ずDisabledに設定してください。

CPU Internal Cache (初期値 : Enabled)

CPU内の1次キャッシュメモリについて設定します。通常はEnabledのままお使いください。

- Enabled
1次キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled
1次キャッシュメモリを無効にします。

External Cache (初期値 : Enabled)

CPU内の2次キャッシュメモリについて設定します。通常はEnabledのままお使いください。

- Enabled
2次キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled
2次キャッシュメモリを無効にします。

CPU L2 Cache ECC Checking (初期値 : Disabled)

CPU内の2次キャッシュメモリのECCチェックについて設定します。

- Enabled
2次キャッシュメモリに対してECCチェックを行います。
- Disabled
2次キャッシュメモリに対してECCチェックを行いません。

Quick Power On Self Test (初期値 : Enabled)

電源を入れてから、または再起動してからOSを読み込むまでの時間について設定します。

- Enabled
OSを読み込むまでの時間を短くします。
- Disabled
OSを読み込むまでの時間を短くしません。

CPU Update Data (初期値 : Enabled)

CPUの不具合を回避するためのプログラムについて設定します。通常はEnabledのままお使いください。

- Enabled
プログラムを使います。
- Disabled
プログラムを使いません。

Boot From LAN First (初期値 : Enabled)

LANカードのBoot ROMからの起動について設定します。Boot ROMが搭載されているLANカードをお使いの場合にのみ有効です。

- Enabled
Boot Sequenceで設定してあるデバイスより先にLANカードのBoot ROMから起動するようにします。
- Disabled
LANカードから起動しません。

Boot Sequence (初期値 : CDR0M,A,C)

OSをどのドライブから優先的に読み込むかを設定します。左から順番に起動します。左に記述されているドライブでOSが見つからない場合は中央に記述されているドライブから、中央に記述されているドライブでOSが見つからない場合は右に記述されているドライブからOSを読み込みます。

- CDR0M,A,C/CDR0M,C,A/D,A,SCSI/E,A,SCSI/F,A,SCSI/SCSI,A,C/
SCSI,C,A/C only/LS/ZIP,C/A,C,SCSI/C,A,SCSI/A,CDR0M,C/C,CDR0M,A

Swap Floppy Drive (初期値 : Disabled)

MS-DOS上で、Drive AとDrive Bを入れ替えるかを設定します。通常はDisabledのままお使いください。

- Enabled
Drive AとDrive Bを入れ替えます。
- Disabled
Drive AとDrive Bを入れ替えません。

VGA Boot From (初期値 : PCI)

PCI規格のグラフィックスカードを増設したときに、マザーボード上のグラフィックコントローラとPCI規格のグラフィックスカードのどちらを使うかを選びます。

- PCI
PCI規格のグラフィックスカードを使います。
- AGP
マザーボード上のグラフィックコントローラを使います。

Boot Up Floppy Seek (初期値 : Enabled)

POST時に、フロッピーディスクドライブのタイプを調べるかを設定します。

- Enabled
フロッピーディスクドライブのタイプを調べます。
- Disabled
フロッピーディスクドライブのタイプを調べません。

Boot Up NumLock Status (初期値 : On)

本パソコンの起動、および再起動時のキーボードのテンキーの状態を選びます。キーボードをNumLock状態にするとテンキーから数字を入力できます。

- On
NumLock状態にします。
- Off
NumLock状態にしません。

Typematic Rate Setting (初期値 : Disabled)

キーボードのオートリピート(キーを押し続けると、連続してキー入力があったとみなす機能)の速度を設定します。

- Enabled
オートリピートの速度を任意に設定する場合に設定します。
- Disabled
オートリピートの速度を15文字/秒に設定します。

Typematic Rate (Chars/Sec) (初期値 : 6)

1秒当たり何文字分オートリピートするかを設定します。本設定は、Typematic Rate SettingをEnabledに設定したときに有効となります。

- 6/8/10/12/15/20/24/30

Typematic Delay (Msec) (初期値 : 250)

キーを押してからオートリピートするまでの時間を設定します。本設定は、Typematic Rate SettingをEnabledに設定したとき有効となります。

- 250/500/750/1000

Security Option (初期値 : Setup)

パスワードを入力するタイミングと、システムやBIOSセットアップのアクセス制限について設定します。

- Setup
BIOSセットアップに入るときにパスワードを要求します。またパスワードを正しく入力しても、一般管理者用のパスワードではBIOSセットアップの内容を変更することができません。本設定ではシステム起動時にパスワードを要求しません。
- System
システムが起動する前とBIOSセットアップに入るときにパスワードを要求します。またパスワードを正しく入力しても、一般管理者用のパスワードではBIOSセットアップの内容を変更することができません。

PCI/VGA Palette Snoop (初期値 : Disabled)

PCI規格のグラフィックスカードに搭載されているコントローラのパレット情報を、ISAグラフィックコントローラからも参照できるように設定します。通常は、Disabledのままお使いください。

- Enabled
パレット情報を参照します。
- Disabled
パレット情報を参照しません。

Assign IRQ For VGA (初期値 : Disabled)

マザーボード上のAGPグラフィックコントローラへの、IRQ(割り込み要求)の割り当てについて設定します。通常はDisabledのままお使いください。

- Enabled
IRQを割り当てます。
- Disabled
IRQを割り当てません。

OS Select For DRAM>64MB (初期値 : Non-OS2)

64MB以上のメモリを搭載したときに、他のOSで64MB以上のメモリを認識させるかを設定します。通常はNon-OS2のままお使いください。

- Non-OS2
他のOSで64MB以上のメモリを認識させません。
- OS2
他のOSで64MB以上のメモリを認識させます。

Show Fujitsu Logo (初期値 : Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、「FUJITSU」のロゴ表示について設定します。

- Enabled
本パソコンの起動および再起動時に「FUJITSU」のロゴを画面に表示します。
- Disabled
「FUJITSU」のロゴを画面に表示せずに、起動時のテスト結果を表示します。

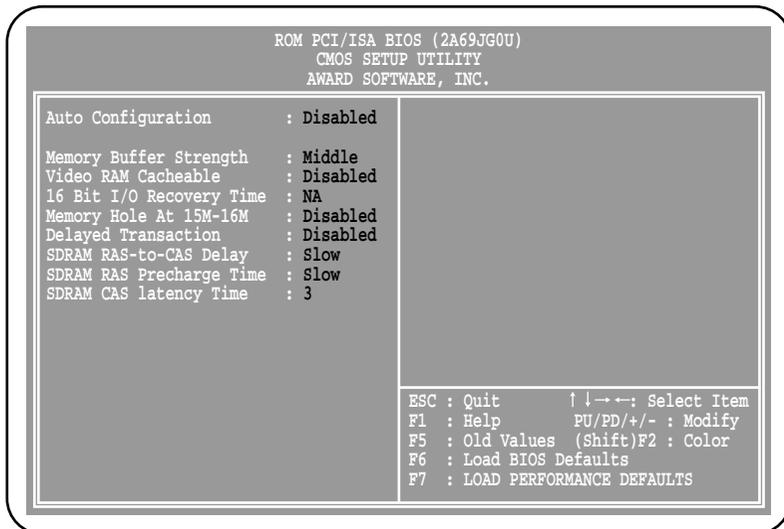
Summary Screen Show (初期値 : Disabled)

本パソコンの構成を示した一覧表 (Summary Screen) の画面表示について設定します。

- Enabled
OSを読み込む直前に、Summary Screen を表示します。
- Disabled
Summary Screen を表示しません。

CHIPSET FEATURES SETUP

SDRAM DIMM や EDO DIMM のメモリアイミングなどの設定を行います。



設定項目の詳細

Auto Configuration (初期値 : Disabled)

EDO DIMM の DRAM アクセススピードを設定します。本パソコンでは SDRAM DIMM を使っているため、設定しても無効となります。通常は Disabled のままでお使いください。

- Enabled
EDO DRAM のアクセスを選択できます。
- Disabled
EDO DRAM のアクセスが一番遅いモードに設定します。

DRAM Speed Selection (初期値 : Normal)

EDO DIMM の DRAM アクセススピードを手動で設定します。この設定は、Auto Configuration を Enabled に設定したときに表示されます。本パソコンでは SDRAM DIMM を使っているため、設定しても無効となります。通常は Normal のままでお使いください。

- Normal
MA ウェイトステートを 0, EDO DRAM リードバーストタイミングを “x333” に設定します。
- Fast
MA ウェイトステートを 1, EDO DRAM リードバーストタイミングを “x222” に設定します。

アドバイス

Fast に設定すると

この項目を Fast に設定すると、本パソコンの動作が不安定になる場合があります。そのときは、Normal に変更してください。

Memory Buffer Strength (初期値 : Middle)

メモリコントローラと DRAM との間にあるバッファの強さを設定します。この項目は本パソコンの最適値に設定してあります。設定は変更しないでください。

- Low
バッファの強さを 22mA に設定します。
- Middle
バッファの強さを 42mA に設定します。
- High
バッファの強さを 48mA に設定します。

Video RAM Cacheable (初期値 : Disabled)

RAM に複写した Video BIOS のキャッシュについて設定します。

- Enabled
Video BIOS をキャッシュします。
- Disabled
Video BIOS をキャッシュしません。

16 Bit I/O Recovery Time (初期値 : NA)

ISAバスに対して、CPU/PCIのI/Oサイクルから何クロックか遅らせてISAのデータリカバリを行うかを設定します。これはI/Oコマンド (IOR#またはIOW#) の立ち上がりから、次のI/Oコマンドが発行されるまでの遅延クロックです。通常はNAのままご使用ください。

- NA
標準の 3.5 クロックに設定します。
- 1
1 クロックに設定します。
- 2
2 クロックに設定します。
- 3
3 クロックに設定します。
- 4
4 クロックに設定します。

アドバイス

リカバリ時間を短く設定すると

リカバリ時間が短い (1/2/3) 設定にすると ISA カードの処理が速くなりますが、正常に動作しない場合があります。そのときは、NA もしくは 4 に設定してください。

Memory Hole At 15M-16M (初期値 : Disabled)

メモリが取り付けられている拡張カードを本パソコンに取り付けた場合、カードによっては拡張カード上のメモリ領域と、パソコンのメモリ領域が衝突してしまう場合があります。衝突しているメモリ領域を拡張カードが必要としている場合は、拡張カード側にメモリ領域を割り当てます。

- Enabled
15MB-16MB 間の 1MB を拡張カードに割り当てます。
- Disabled
15MB-16MB 間の 1MB を本パソコンに割り当てます。

Delayed Transaction (初期値 : Disabled)

動作の遅いPCIカードがPCIバスを長時間使用しないようにし、PCIバスを効率良く使用するように設定します。

- Enabled
PCIバスの効率を上げます。
- Disabled
PCIバスの効率を上げません。

SDRAM RAS-to-CAS Delay (初期値 : Slow)

SDRAMメモリでRAS信号を発行してからCAS信号を発行するまでのディレイクロック数を設定します。この項目は本パソコンの最適値に設定してあります。設定は変更しないでください。

- Slow
3クロックに設定します。
- Fast
2クロックに設定します。

SDRAM RAS Precharge Time (初期値 : Slow)

SDRAMメモリでデータ転送が終了してから次のRAS信号を発行するまでの時間を設定します。この項目は本パソコンの最適値に設定してあります。設定は変更しないでください。

- Slow
3クロックに設定します。
- Fast
2クロックに設定します。

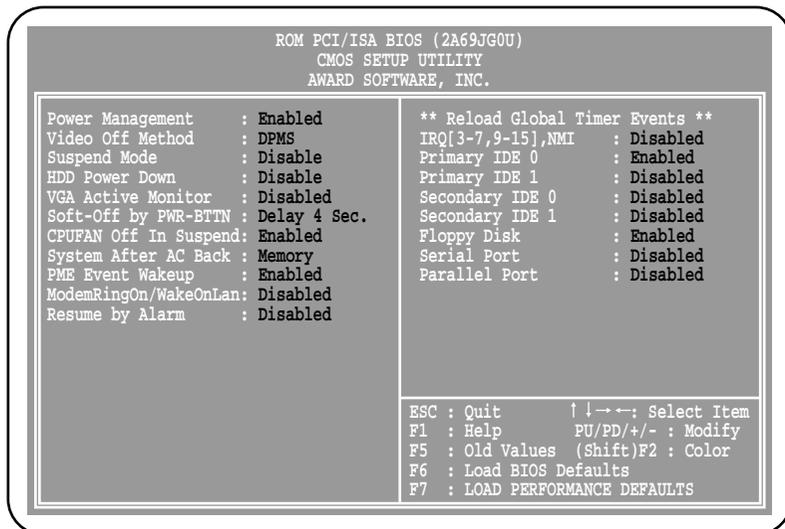
SDRAM CAS latency Time (初期値 : 3)

SDRAMメモリでデータのReadまたはWrite時にCAS方向のアドレスが入った後、何クロック後にデータを転送するか設定します。この項目は本パソコンの最適値に設定してあります。設定は変更しないでください。

- 3
3クロックに設定します。
- 2
2クロックに設定します。

POWER MANAGEMENT SETUP

省電力モードに関する設定を行います。



設定項目の詳細

Power Management (初期値: Enabled)

電源を入れた状態で一定時間パソコンを使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

- Enabled
省電力モードに移行するようにします。
- Disabled
省電力モードに移行しないようにします。

Video Off Method (初期値: DPMS)

ディスプレイをどのような方法で省電力モードに移行させるかを設定します。

- DPMS
Video 信号の Vsync と Hsync を止めてディスプレイを省電力モードに移行させます。
- Blank Screen
Video 信号の Red/Green/Blue を止めてディスプレイを省電力モードに移行させます。
- V/H SYNC+Blank
Video 信号の Vsync/Hsync/Red/Green/Blue を止めてディスプレイを省電力モードに移行させます。

Suspend Mode (初期値: Disable)

システム全体をサスペンドモード(一部の回路を停止させた状態)に移行させるまでの時間を設定します。このとき、CPU とディスプレイが省電力モードに移行します。

- Disable
サスペンドモードになりません。
- 1/2/4/8/12/20/30/40Min/1Hour
システムがサスペンドモードに移行するまでの時間を設定します。

HDD Power Down (初期値 : Disable)

内蔵ハードディスクを、サスペンドモード(一部の回路を停止させた状態)に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、サスペンドモードから通常の状態に数秒で戻ります。

- Disable
サスペンドモードになりません。
- 1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15 Min
ハードディスクがサスペンドモードに移行するまでの時間を設定します。

VGA Active Monitor (初期値 : Disabled)

ビデオメモリを監視して、Suspend Mode の設定時間による省電力モードへの移行を続けるかを設定します。

- Enabled
ビデオメモリを監視します。
- Disabled
ビデオメモリを監視しません。

Soft-Off by PWR-BTTN (初期値 : Delay 4 Sec.)

電源スイッチを押した場合に、省電力モードに移行するか、電源が切れるようにするかを選びます。

- Instant-Off
電源スイッチを押すと電源が切れます。
- Delay 4 Sec.
電源スイッチを押すと省電力モードになります。省電力モードになったあと、電源スイッチを4秒以上押し続けると、電源が切れます。ただし、Windows98が動作しているときは、4秒以上押し続けても電源は切れません。

CPUFAN Off In Suspend (初期値 : Enabled)

システムが省電力モードに移行したときに、CPUファンを止めるかを設定します。

- Enabled
CPUファンを止めます。
- Disabled
CPUファンを止めません。

System After AC Back (初期値 : Memory)

ACコンセントを差し込んだときに、システムの状態をどのモードにするかを設定します。

- Memory
ACコンセントが抜かれる前の状態を保持します。
- Soft-Off
ACコンセントを差し込んで自動的電源が入りません。
- Full-On
ACコンセントを差し込むとシステムが起動します。

PME Event Wakeup (初期値 : Enabled)

PME信号を監視して、PME信号が来たときに、本パソコンを省電力モードから復帰させるか、または電源を入れるかを設定します。

- Enabled
復帰します。
- Disabled
復帰しません。

ModemRingOn/WakeOnLan (初期値 : Disabled)

モデムと電話回線を接続している状態で、本パソコンが起動していないときに電話がかかってきた場合、自動的に本パソコンの電源を入れるかを設定します。

LOAD BIOS DEFAULTS (**▶P.117) を行った場合は、初期値が Enabled になります。

この機能を使わない場合は、Disabled に設定を変更してください。

- Enabled
電源を入れます。
- Disabled
電源を入れません。

Resume by Alarm (初期値 : Disabled)

あらかじめ設定した時間に、本パソコンを省電力モードから復帰させるか、または電源を入れるかを設定します。

- Enabled
復帰させる日と時刻を設定します。
- Disabled
復帰しません。

Date (of Month) Alarm

省電力モードから復帰させる日、または電源を入れる日を設定します (0 : 毎日、1 ~ 31 : 日付)。この設定は、Resume by Alarm を Enabled に設定したときに表示されます。

Time (hh:mm:ss) Alarm

省電力モードから復帰させる時刻、または電源を入れる時刻を設定します。[時間 : 分 : 秒] の順に設定します。この設定は、Resume by Alarm を Enabled に設定したときに表示されます。

Reload Global Timer Events

以下のデバイスから割り込みが発生したときに、割り込みを無視して省電力モードへ移行するか設定します。この設定は、電源スイッチによるスタンバイ時にも有効です。

IRQ[3-7,9-15],NMI (初期値 : Disabled)

IRQ[3-7,9-15],NMIが発生した場合のSuspend Modeの設定時間のカウントについて設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Primary IDE 0 (初期値 : Enabled)

IDE プライマリマスタに接続されている IDE デバイスにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Primary IDE 1 (初期値 : Disabled)

IDE プライマリスレーブに接続されている IDE デバイスにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Secondary IDE 0 (初期値 : Disabled)

IDE セカンダリマスタに接続されている IDE デバイスにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Secondary IDE 1 (初期値 : Disabled)

IDE セカンダリスレーブに接続されている IDE デバイスにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Floppy Disk (初期値 : Enabled)

フロッピーディスクにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

Serial Port (初期値 : Disabled)

シリアルポートにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

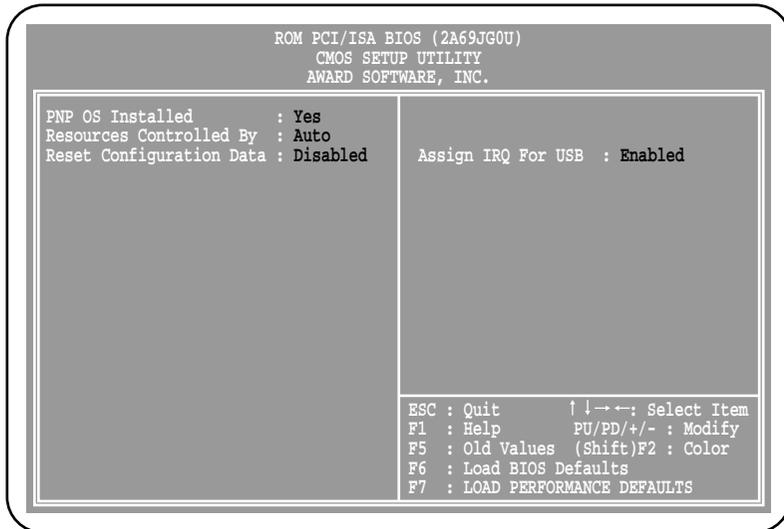
Parallel Port (初期値 : Disabled)

パラレルポートにアクセスしたら Suspend Mode の設定時間をカウントし直すかを設定します。

- Enabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直します。
- Disabled
Suspend Mode の設定時間をカウントし直しません。

PNP/PCI CONFIGURATION

プラグアンドプレイに関する設定を行います。



設定項目の詳細

PNP OS Installed (初期値 : Yes)

Windows98などのプラグアンドプレイに対応したOSを使うか設定します。Yesに設定すると、プラグアンドプレイ対応ISA拡張カードの設定は、OSで行うようになります。

- Yes
プラグアンドプレイに対応したOSを使います。
- No
他のプラグアンドプレイに対応していないOSを使うときに設定します。

Resources Controlled By (初期値 : Auto)

本パソコンのリソースの割り当てについて設定します。

- Auto
リソースの割り当てを自動的に行います。
- Manual
リソースの割り当てを手動で行います。

Reset Configuration Data (初期値 : Disabled)

ESCDの内容のクリアについて設定します。

- Enabled
再起動時にESCDの内容をクリアします。
- Disabled
ESCDの内容をクリアしません。

IRQ-3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 assigned to

(初期値 : IRQ-5/9/10/11 : PCI/ISA PnP、IRQ-3/4/7/12/14/15 : Legacy ISA)

プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードの割り込み要求を設定します。本設定は、Resources Controlled By 設定を Manual に設定したときに表示されます。

- PCI/ISA PnP
プラグアンドプレイに対応してる PCI、ISA 拡張カードが割り込み要求を使用します。
- Legacy ISA
プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードが割り込み要求を使用します。

DMA-0/1/3/5/6/7 assigned to (初期値 : PCI/ISA PnP)

プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードのDMAを設定します。本設定は、Resources Controlled By 設定を Manual に設定したときに表示されます。

- PCI/ISA PnP
プラグアンドプレイに対応してる PCI/PnP ISA が割り込みを使用します。
- Legacy ISA
プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードが割り込みを使用します。

Used MEM base addr (初期値 : N/A)

プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードのメモリブロックを設定します。本設定は、Resources Controlled By 設定を Manual に設定したときに表示されます。

- N/A
メモリブロックを使用しません。
- C800/CC00/D000/D400/D800/DC00
メモリブロックのベースアドレスを設定します。

Used MEM Length (初期値 : N/A)

プラグアンドプレイに対応していないISA 拡張カードのメモリブロックのサイズを設定します。本設定は、Used MEM base addr 設定を N/A 以外に設定したときに表示されます。

- N/A
メモリブロックのサイズを設定しません。
- 8K/16K/32K/64K
メモリブロックのサイズを設定します。

Assign IRQ For USB (初期値 : Enabled)

マザーボード上のUSB ホストコントローラにIRQを割り当てるかを設定します。

- Enabled
IRQを割り当てます。
- Disabled
IRQを割り当てません。

LOAD BIOS DEFAULTS

BIOS セットアップの設定を購入時の状態 (初期値) に戻します。

この項目にカーソルを合わせ **[Enter]** を押すと、「Load BIOS Defaults (Y/N)?」というメッセージが表示されます。**[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。設定が購入時の状態に戻ります。

詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.99)をご覧ください。

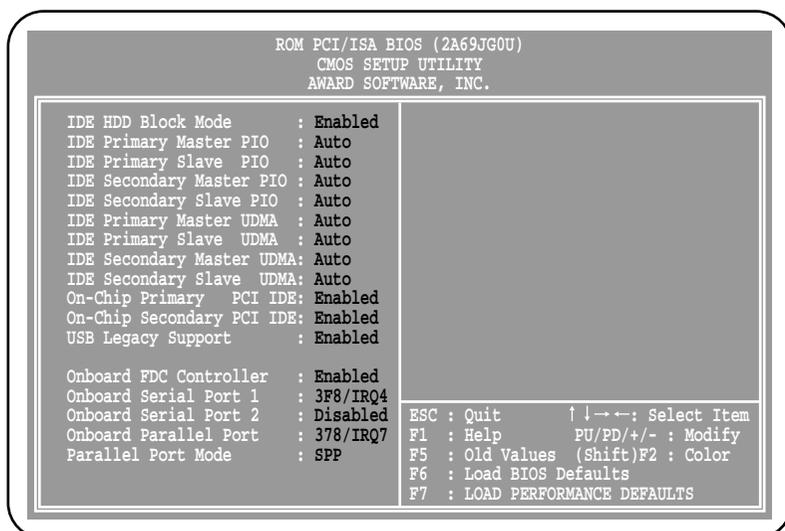
LOAD PERFORMANCE DEFAULTS

システムが高速に動作する状態に設定します。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「LOAD PERFORMANCE DEFAULTS (Y/N)?」というメッセージが表示されます。**[Y]** を押して、**[Enter]** を押すと、システムが高速に動作する状態に設定します。LOAD PERFORMANCE DEFAULTS を実行すると、システムが高速に動作しますが、正常に動作しない場合があります。その場合は LOAD BIOS DEFAULTS (●▶P.117) を行ってください。

INTEGRATED PERIPHERALS

IDEハードディスクのデータ転送に関する設定やマザーボード上にあるデバイスの設定などを行います。



設定項目の詳細

IDE HDD Block Mode (初期値 : Enabled)

ハードディスクのブロック転送について設定します。通常は Enabled のままお使いください。

- Enabled
ブロック転送を行います。
- Disabled
ブロック転送を行いません。

IDE Primary Master PIO (初期値 : Auto)

IDE プライマリマスタに接続されている IDE ドライブの PIO モードを設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
最も高速な PIO モードに自動設定します。
- Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4
データの転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

IDE Primary Slave PIO (初期値 : Auto)

IDEプライマリスレーブに接続されているIDEドライブのPIOモードを設定します。本パソコンはIDEプライマリのスレーブはサポートしていません。通常はAutoのままお使いください。

- Auto
最も高速なPIOモードに自動設定します。
- Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4
データの転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

IDE Secondary Master PIO (初期値 : Auto)

IDEセカンダリマスタに接続されているIDEドライブのPIOモードを設定します。通常はAutoのままお使いください。

- Auto
最も高速なPIOモードに自動設定します。
- Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4
データの転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

IDE Secondary Slave PIO (初期値 : Auto)

IDEセカンダリスレーブに接続されているIDEドライブのPIOモードを設定します。通常はAutoのままお使いください。

- Auto
最も高速なPIOモードに自動設定します。
- Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4
データの転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

IDE Primary Master UDMA (初期値 : Auto)

IDEプライマリマスタに接続されているIDEドライブのUltra DMAモードを設定します。通常はAutoのままお使いください。

- Auto
IDEドライブに対応したDMA転送の種類を自動的に設定します。
- Disabled
Ultra DMA転送を行いません。

IDE Primary Slave UDMA (初期値 : Auto)

IDEプライマリスレーブに接続されているIDEドライブのUltra DMAモードを設定します。本パソコンは、IDE-プライマリのスレーブはサポートしていません。設定はAutoのままお使いください。

- Auto
IDEドライブに対応したDMA転送の種類を自動的に設定します。
- Disabled
Ultra DMA転送を行いません。

IDE Secondary Master UDMA (初期値 : Auto)

IDEセカンダリマスタに接続されているIDEドライブのUltra DMAモードを設定します。通常はAutoのままお使いください。

- Auto
IDEドライブに対応したDMA転送の種類を自動的に設定します。
- Disabled
Ultra DMA転送を行いません。

IDE Secondary Slave UDMA (初期値 : Auto)

IDE セカンダリスレーブに接続されている IDE ドライブの Ultra DMA モードを設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
IDE ドライブに対応した DMA 転送の種類を自動的に設定します。
- Disabled
Ultra DMA 転送を行いません。

On-Chip Primary PCI IDE (初期値 : Enabled)

プライマリ IDE インターフェースの設定を行います。通常は Enabled のままでお使いください。

- Enabled
プライマリ IDE インターフェースを有効にします。
- Disabled
プライマリ IDE インターフェースを無効にします。プライマリ IDE インターフェースに接続されている IDE デバイスは使用できなくなります。

On-Chip Secondary PCI IDE (初期値 : Enabled)

セカンダリ IDE インターフェースの設定を行います。通常は Enabled のままでお使いください。

- Enabled
セカンダリ IDE インターフェースを有効にします。
- Disabled
セカンダリ IDE インターフェースを無効にします。セカンダリ IDE インターフェースに接続されている IDE デバイスは使用できなくなります。

USB Legacy Support (初期値 : Enabled)

USB キーボードを他の OS 上で使えるようにするかを設定します。

- Enabled
USB キーボードを他の OS 上で使えるようにします。
- Disabled
USB キーボードを他の OS 上で使えないようにします。

Onboard FDC Controller (初期値 : Enabled)

フロッピーディスクドライブを使えるようにするかを設定します。通常は Enabled のままお使いください。

- Enabled
フロッピーディスクドライブを使えるようにします。
- Disabled
フロッピーディスクドライブを使えないようにします。

Onboard Serial Port 1 (初期値 : 3F8/IRQ4)

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレス、割り込み要求を設定します。

- Auto
シリアルポート 1 の I/O ポートアドレス、割り込み要求を自動的に設定します。
- 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
シリアルポート 1 の I/O ポートアドレス、割り込み要求を設定します。
- Disabled
シリアルポート 1 を使用しません。

Onboard Serial Port 2 (初期値 : Disabled)

シリアルポート2のI/Oポートアドレス、割り込み要求を設定します。本パソコンはシリアルポート2を持っていません。通常は Disabled のままお使いください。

- Auto
シリアルポート2のI/Oポートアドレス、割り込み要求を自動的に設定します。
- 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
シリアルポート2のI/Oポートアドレス、割り込み要求を設定します。
- Disabled
シリアルポート2を使用しません。

Onboard Parallel Port (初期値 : 378/IRQ7)

パラレルポートのI/Oポートアドレス、割り込み要求を設定します。

- 3BC/IRQ7, 378/IRQ7, 278/IRQ5
パラレルポートのI/Oポートアドレス、割り込み要求を設定します。
- Disabled
パラレルポートを使用しません。

Parallel Port Mode (初期値 : SPP)

パラレルポートに接続する周辺装置の種類を設定します。

- SPP
出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。
- EPP
EPP規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP
ECP規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP+EPP
ECPまたはEPP規格の周辺装置を接続するときに選択します。

アドバイス

Onboard Parallel Port を 3BC/IRQ7 に設定した場合
Parallel Port Mode は SPP 以外に変更できません。

SUPERVISOR PASSWORD

システム管理者用のパスワードの設定と解除を行います。
パスワードの設定について詳しくは、「パスワードを使う」(●▶P.123) をご覧ください。

USER PASSWORD

一般利用者用のパスワードの設定と解除を行います。
パスワードの設定について詳しくは、「パスワードを使う」(●▶P.123) をご覧ください。

IDE HDD AUTO DETECTION

IDEハードディスクのパラメータ(シリンダ数/セクタ数/ヘッド数)などの情報を取得し、各モードのパラメータに変換して表示します。

IDE デバイスを検出したら、Option (N=Skep) と表示されているところに、「OPTIONS」の番号を入力し、**[Enter]**を押します。

STANDARD CMOS SETUP の HARD DISKS の TYPE が、「User」に変更され、パラメータが設定されます。

MODEの説明は、「STANDARD CMOS SETUP」(●▶P.101) をご覧ください。

SAVE & EXIT SETUP

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.98)をご覧ください。

EXIT WITHOUT SAVING

変更した設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.98)をご覧ください。

パスワードを使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- SUPERVISOR PASSWORD
システム管理者用のパスワードです。
- USER PASSWORD
一般利用者用のパスワードです。

パスワードを設定する

SUPERVISOR PASSWORD、USER PASSWORD を設定する方法を説明します。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(●▶P.95) をご覧ください。
- 2 を押して、「BIOS FEATURES SETUP」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
- 3 「Security Option」で、パスワードの動作を設定します。
詳しくは、「Security Option」(●▶P.107) をご覧ください。
- 4 **[Esc]** を押します。
メインメニューに戻ります。
- 5 を押して、「SUPERVISOR PASSWORD」または「USER PASSWORD」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
「Enter Password : 」というメッセージが表示されます。
- 6 パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。最大 8 文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、かわりに「*」が表示されます。

重要

パスワードは忘れないでください
入力したパスワードは忘れないようにしてください。

アドバイス

テンキーで入力するには

テンキーで数字を入力するには **[NumLock]** を押し、数字を入力できる (NumLock インジケータが点灯している) 状態にしてください。

7

[Enter] を押します。

パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。

パスワードの設定を中止するときは、**[Enter]** を押します。

8

手順 6 で入力したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]** を押します。

アドバイス

再入力したパスワードが違っている場合

再入力したパスワードが、手順 6 で入力したものと違っていた場合は、再び手順 6 と同じウィンドウが表示されます。パスワードを入力し直してください。

9

続いて USER PASSWORD を設定する場合は、手順 5 ~ 8 を繰り返します。

10

BIOS セットアップを終了します。

設定内容を保存して終了してください。

終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(▶ P.98) をご覧ください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または BIOS セットアップを始めるときに、パスワードの入力を要求されます。

パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

重要

違うパスワードを入力すると

設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「Invalid Password! Press Any Key to Continue.」というメッセージが表示されます。その場合は、**[Enter]** を押し、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを削除する

1

本パソコンの電源を入れます。

2

画面左下に「Press [TAB] to show POST screen, [DEL] to enter SETUP」と表示されている間に、**[Delete]** を押します。

3

設定したパスワードを入力し、BIOS セットアップを起動します。

Supervisor Password と User Password の両方を設定している場合、User Password で BIOS セットアップを起動すると、Supervisor Password は削除できません。

4

[F4] を押し、Supervisor Password、または User Password のどちらか削除したいほうを選びます。

- 5** 何も入力しないで、**[Enter]**を押します。
「PASSWORD DISABLED! Press any key to continue...」というメッセージが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを変更する

- 1** 本パソコンの電源を入れます。
- 2** **[Delete]**を押します。
- 3** 設定したパスワードを入力し、BIOS セットアップを起動します。
- 4** を押して、Supervisor Password、または User Password のどちらか変更したいほうを選びます。
- 5** 新しいパスワードを入力します。
パスワードが変更されます。

6

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するエラーメッセージ（BIOSメッセージ）について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

次の「メッセージ一覧」をご覧ください。次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する
BIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示されたときは、BIOSセットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいか確認してください。
また、「ご購入時の設定に戻す」（**▶P.99）をご覧ください。BIOS セットアップの設定を初期値に戻してください。
- オプション機器の取り付けを確認する
別売りのオプション機器の拡張カードやメモリ、ハードディスクなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、IRQ（割り込み要求）などの設定が正しくされているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

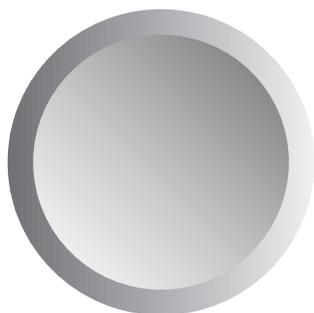
上記の方法で対処してもエラーメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

1. BIOS ROM checksum error - System halted.
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. CMOS BATTERY HAS FAILED
バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
3. CMOS CHECKSUM ERROR
[Delete] を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」（**▶P.99）の操作を行ってください。
4. DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter] を押してください。
5. DISKETTE DRIVES OR TYPES MISMATCH ERROR - RUN SETUP
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
正しく接続されているときは、BIOSセットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
6. DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

7. DISPLAY TYPE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
8. EISA Configuration Checksum Error
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. EISA Configuration Is Not Complete
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
10. ERROR ENCOUNTEED INITIALIZING HARD DRIVE
[Delete] を押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境 (システム構成) と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
11. ERROR INITIALIZING HARD DISK CONTROLLER
[Delete] を押して、BIOS セットアップを起動し、IDE Drive の設定が正しく行われているかを確認してください。
12. FLOPPY DISK CNTRLR ERROR OR NO CNTRLR PRESENT
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. FLOPPY DISK(S) fail (80)
FLOPPY DISK(S) fail (40)
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
14. Hard Disk(s) fail (80)
Hard Disk(s) fail (40)
Hard Disk(s) fail (20)
Hard Disk(s) fail (10)
Hard Disk(s) fail (08)
[Delete] を押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境 (システム構成) と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
15. Invalid EISA Configuration
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
16. KEYBOARD ERROR OR NO KEYBOARD PRESENT
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
17. Keyboard is locked out - Unlock the key.
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
18. Manufacturing POST loop.
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. Memory Address Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
20. Memory parity Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

21. MEMORY SIZE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
22. Memory test fail.
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
23. Memory Verify Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
24. OFFENDING ADDRESS NOT FOUND
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
25. OFFENDING SEGMENT:
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
26. PRESS A KEY TO REBOOT
キーボードのキーをどれか押してください。本パソコンが再起動します。
27. PRESS F1 TO DISABLE NMI,F2 TO REBOOT
[F1]を押して先に進めるか、または[F2]を押して、本パソコンを再起動してください。
28. RAM PARITY ERROR - CHECKING FOR SEGMENT...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
29. Should Be Empty But EISA Board Found
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
30. Should Have EISA Board But Not Found
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
31. Slot Not Empty
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
32. SYSTEM HALTED,(CTRL-ALT-DEL)TO REBOOT...
[Ctrl]と[Alt]を押しながら[Delete]を押して、本パソコンを再起動してください。
33. Wrong Board In Slot
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。

- 1. 仕様一覧 130
- 2. 本パソコンのリソースについて 134
- 3. コネクタのピン配列と信号名 138

1

仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER MIX36L	FMV-DESKPOWER MIX367	FMV-DESKPOWER MIX365	
CPU	Intel® Celeron™-366			
キャッシュメモリ	1次: 32KB、2次: 128KB			
BIOS ROM	256KB (フラッシュROM)			
システムRAM	標準 64MB (SDRAM-DIMM) 最大 256MB			
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3モード対応)			
ハードディスク	全体 6.4GB (Cドライブ 2.5GB、Dドライブ 3.6GB)			
CD-ROM	最大 32 倍速 (平均 22 倍速)			
グラフィック	ATI 社製 RAGE™ PRO TURBO AGP VRAM 4MB			
ディスプレイ	14 インチ LCD	17 インチ	15 インチ	
オーディオ機能	YAMAHA 社製 YMF724 + AC97			
モデム機能	DATA 56Kbps/FAX 14.4Kbps			
I/F	ディスプレイ	アナログ RGB D-SUB 15pin		
	キーボード	USB 接続 (マウスコネクタ付き)	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin	
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin (キーボードに接続)	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin	
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 2 (うち COM2 は、FAX/ボイスモデムカードが使用) D-SUB 9pin		
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin		
	USB ポート	本体: 4pin × 2 (うち1つはディスプレイ接続) ディスプレイ: 4pin × 3 (うち1つはキーボード接続)	4pin × 2	
	サウンド	LINE 入力 × 1、LINE 出力 × 1、マイク入力 × 1、MIDI/JOYSTICK 端子 × 1		
	モデム	モジュラージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)		
	拡張スロット数	3 PCI × 1 (FAX/ボイスモデムカード搭載) PCI または ISA × 1 ISA × 1		
	ストレージベイ数	4 前面 ファイルスロット × 2 (うち1つに CD-ROM ドライブ搭載済) 3.5 インチフロッピーディスクドライブ × 1 搭載済 内部 3.5 インチハードディスク装着エリア × 1 (ハードディスク搭載済)		
電源 / 周波数	AC100V/50 ~ 60Hz			
消費電力	75W (最大) / 36W (動作時)			
重量	約 8.5kg			
外形寸法	179mm × 360mm × 344mm (W × H × D)			
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)			
対応 OS	Windows98	Windows98、WindowsNT4.0 SP4		

このパソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

FAX/ ボイスモデムカード

仕様

品名	FAX / ボイスモデムカード -56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z4
通信方式	2線式 全二重 (FAX モードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2 (FAX モード)
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333,52000,50667,50000,49333, 48000,46667,46000,45333,44000,42667,42000,41333, 40000,38667,38000,37333,36000,34667,34000,33333, 32000,30667,29333,28000, 33600,31200,28800,26400,24000,21600,19200, 16800,14400,12000,9600,7200,4800,2400,1200,300bps FAX モード : 14400,12000,9600,7200,4800,2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
バスインターフェース	PCI
FAX インターフェース	TIA/EIA578 (class 1)
音声蓄積機能	PCM
寸法	長さ 135 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
直流抵抗値	254

■ は受信側のみです。

その他

- 自動速度検出
- 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出

サウンド機能

	YAMAHA 社製 YMF724 + AC97
チップセット	YMF724 + AC97
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 73 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	XG Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 互換音源 FM Synthesizer (OPL3)
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	Audio codec IRQ 1 つ使用 MPU-401 I/O 0388-038F ~ 03A8-03AF 0220-022F,0240-024F,0260-026F,0280-028F 0300-0301,0332-0333,0334-0335 Game 0201-0201,0202-0202,0204-0204,0205-0205

CD-ROM ドライブ

対応するディスクタイプ	CD-Audio
	CD Extra
	CD-ROM (mode 1 and mode 2)
	CD-ROM XA (mode 2, form 1 and form 2)
	CD-I (mode 2, form 1 and form 2)
	Video CD
	Photo CD
CD-R/CD-RW	
8 cm disk 対応	市販の 8cm アダプタの動作は保証しません。

スピーカー

方式	密閉型ボックススピーカー
スピーカーユニット	口径：3 インチ インピーダンス：8
定格（最大）入力	2W + 2W
音圧レベル	82dB/W (m)
再生周波数	200Hz ~ 20KHz
最大外形寸法	90 × 160 × 121 (mm)
重量（2 個）	1175g

表示できる解像度と発色数

本パソコンと添付のディスプレイの組み合わせで設定できる解像度と発色数は、次のとおりです。添付品以外のディスプレイをお使いのときは、解像度や発色数に制限のある場合があります。詳しくは、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度	設定可能な発色数	MIX36L	MIX367	MIX365
640 × 480	256色			
800 × 600				
1024 × 768				
1280 × 1024		×		×
640 × 480	High Color (16ビット)			
800 × 600				
1024 × 768				
1280 × 1024		×		×
640 × 480	True Color (24ビット)			
800 × 600				
1024 × 768				
1280 × 1024		×		×
640 × 480	True Color (32ビット)			
800 × 600				
1024 × 768				
1280 × 1024		×	×	×

- は表示可能、×は表示不可、 はご購入時の設定です。
- High Colorは6万5千色、True Color(24ビット)とTrue Color(32ビット)はMIX36Lは26万色、MIX367/365は1677万色です。

上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。

16色は、VGAモードのときのみお使いになれます。

用語 解像度

縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。解像度が高い(数字が大きい)と、より鮮明な表現が可能になり、画面を広く使えるようになりますが、表示される文字などが小さくなります。

2

本パソコンのリソースについて

本パソコンのIRQ (割り込み要求)、DRQ (DMA 要求)、I/O ポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、拡張カードを取り付けるときに必要なリソース (IRQ、DRQ) の解放のしかたを説明しています。

リソース一覧

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを取り付けるときには、IRQ (割り込み要求) と DRQ (DMA 要求)、I/O ポートアドレスを設定する必要があります。

以降の表を参考にして、設定を行ってください。

ご購入時の本パソコンの IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスは、次のように設定されています。

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを取り付けるときは、本パソコンの装置が使っている値と重複しないように、空いている値を拡張カードに割り当ててください。

IRQ (割り込み要求)

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	PS/2 キーボード
2	割り込みコントローラ
3	サウンド
4	通信ポート (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート (LPT1)
8	リアルタイムクロック
9	空き
10	FAX/ ボイスモデムカード (COM2)
11	USB
12	PS/2 マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ (プライマリ)
15	IDE コントローラ (セカンダリ)

DRQ (DMA 要求)

DRQ (DMA 要求)	使っているハードウェア
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA コントローラ
5	空き
6	空き
7	空き

I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
0201h-0201h	サウンド
0220h-022Fh	サウンド
02F8h-02FFh	FAX/ ボイスモデムカード
0330h-0331h	サウンド
0378h-037Fh	プリンタポート (LPT1)
0388h-038Fh	サウンド
03F2h-03F5h	フロッピーディスクコントローラ
03F8h-03FFh	通信ポート (COM1)

アドバイス

リソースの値は変更されることがあります

ここに記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。
リソースの値の一覧が表示されます。

リソースを解放する

取り付ける拡張カードが必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではその拡張カードを使えません。拡張カードを取り付ける前に、拡張カードが必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。

以下のいずれかの拡張カードを増設するときは、拡張カードが使うリソースで、本パソコンでお客様がお使いになっていないハードウェアのリソース (IRQ4 が IRQ7) を解放して、その番号を増設する拡張カードに割り当てます。

- IRQ5 または IRQ9 に設定できない拡張カード
- IRQ を 3 つ以上使う拡張カード

DRQ (DMA 要求) を 0、1、3、5、6、7 に設定できない拡張カードを増設するときは、拡張カードが使う DRQ が割り当てられているハードウェアのリソースを解放して、その番号を拡張カードに割り当てます。

本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」(●▶ P.134) をご覧ください。

ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートの IRQ を解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

重要

リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

リソースは不用意に解放しないでください

リソースを不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。

「リソース一覧」(●▶P.134)でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。

なお、以下の IRQ (割り込み番号) を解放すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

これら以外の IRQ を解放してください。

- IRQ0、1、2、6、8、11、12、13、14、15

アドバイス

IRQ4 または IRQ7 を解放すると

IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ (COM1) (●▶P.4) が使えなくなります。

IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ (●▶P.5) が使えなくなります。

PCI 拡張カードのリソースを解放するには

お客様が取り付けした PCI 拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、PCI 拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、リソースが自動的に解放されます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。



本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。

- 4 解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4 を解放するにはポート (COM/LPT) 内の「通信ポート (COM1)」を選びます。
IRQ7 を解放するにはポート (COM/LPT) 内の「プリンタポート (LPT1)」を選びます。



アドバイス

リソースを解放すると

それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。
IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ (COM1) (**▶P.4) が使えなくなります。
IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ (**▶P.5) が使えなくなります。
これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

用語 デバイス

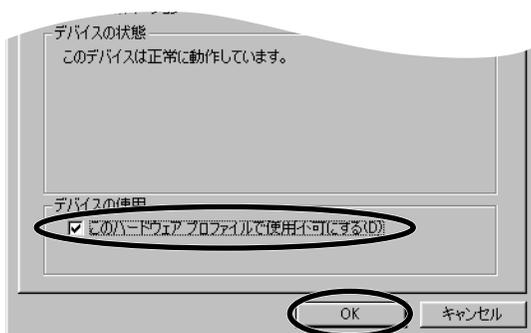
パソコン本体内部の装置 (メモリ、拡張カードなど) や、パソコンに接続する機器 (マウス、キーボードなど) のことをデバイスと呼びます。

5 「プロパティ」をクリックします。



デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。

6 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。



「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
リソースを解放したデバイスに × 印が付きます。

7 「閉じる」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。

8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

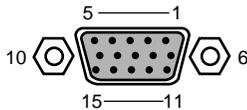
9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。 本パソコンが再起動します。

3

コネクタのピン配列と信号名

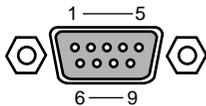
本体のコネクタ仕様

ディスプレイコネクタ



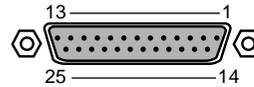
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



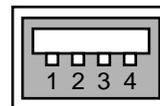
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



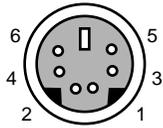
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

USB コネクタ



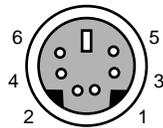
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

マウスコネクタ



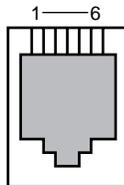
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



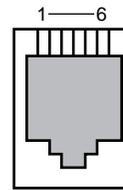
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

LINE 端子 (モデム)



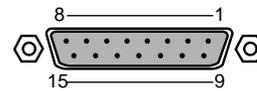
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

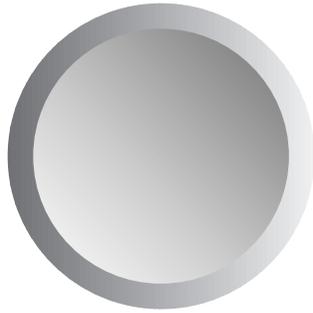
MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+5V	-	電源
9	+5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

本体のコネクタ / ジャックで使用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子 (音楽 CD 用)	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル



付録

その他の注意事項などについて説明しています。

- 1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール 142
- 2. その他の注意事項 149

1

ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気を付けること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

■ アクティブデスクトップの解除 ■

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールできない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

■ アプリケーションやウィンドウの終了 ■

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「AUV」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

■ 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合 ■

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。

手順内で指示のない場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ずⓂ「アプリケーション CD」またはⓂ「デバイスドライバ CD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。



ディスプレイドライバをインストールする場合

次の「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。



サウンドドライバをインストールする場合

「サウンドドライバをインストールする」(●▶P.145)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

重要

注意事項をお読みください

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気を付けること」(●▶P.142)をご覧ください。

ディスプレイドライバのインストールは⑧「デバイスドライバCD」から行います。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 一覧中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 5 「追加と削除」をクリックします。
「ATIアンインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 7 ⑧「デバイスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 8 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されていない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 9 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
「RAGE PRO TURBO AGP (日本語) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 12 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。
- 13 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。

- 14 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 15 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥display¥ati¥98
e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「デバイスの選択」ウィンドウが表示されます。
- 16 「モデル」一覧の中の「RAGE PRO TURBO AGP (日本語)」をクリックします。
「RAGE PRO TURBO AGP (日本語)」が 2 つ表示されている場合は、上に表示されているほうをクリックしてください。
- 17 「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 18 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は「いいえ」をクリックしてください。
- 19 「RAGE PRO TURBO AGP (日本語) ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。
「再起動しますか?」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。本パソコンが再起動します。
- 20 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「RAGE PRO TURBO AGP (日本語) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 21 「アダプタ」タブをクリックし、「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。
なっていない場合は、「リフレッシュレート」の  をクリックし、「最適」をクリックして、「閉じる」をクリックします。メッセージが表示されますので、「OK」または「はい」をクリックしてください。
- 22  「デバイスドライバ CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
- 23 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 24 「閉じる」をクリックします。
「再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
- 25 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

- 26 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X** (閉じるボタン) をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数など画面の設定を変更するには、**4**『困ったときの Q & A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。本パソコンのご購入時には、解像度は「1024 × 768 ドット」(MIX365は「800 × 600 ドット」)に、発色数は「TrueColor (32 ビット)」に設定されています。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックしてください。モニターの設定について詳しくは **4**『困ったときの Q & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

サウンドドライバをインストールする

サウンドドライバのインストールは  「アプリケーション CD」から行います。

重要

注意事項をお読みください

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気を付けること」(**▶ P.142) をご覧ください。

アドバイス

メッセージが表示されたら

インストールの途中で「vscvol88」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 4  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5 「インストール」をクリックします。
「フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「次へ」をクリックします。
「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。

e:¥yamaha¥win9x¥uninst¥dsuninst.exe

e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「YAMAHA DS-XG Driver の削除を開始します。」というメッセージが表示されます。

- 8 「次へ」をクリックします。
「ジョイスティック・デバイスを削除しますか?」というメッセージが表示されます。
- 9 「はい」が選ばれていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「アンインストールは完了しました。コンピューターを再起動します。」というメッセージが表示されま
す。
- 10 「完了」をクリックします。
「コンピューターを再起動しますので、フロッピーディスクを取り出してください。」というメッセージが
表示されます。
- 11 「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索していま
す: PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。
- 12 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 13 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」がになっていることを確認し、
「次へ」をクリックします。
- 14 「検索場所の指定」のをクリックしにして、次のファイル名を入力します。
e:¥yamaha¥win9x¥driver
eには、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
- 15 「検索場所の指定」以外の項目で、になっているものをクリックし、にします。
- 16 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します: YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC」というメッ
セージが表示されます。
- 17 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC 新しいハードウェアデバイスに必要な
ソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 18 「完了」をクリックします。
「YAMAHA DS-XG FM&MPU401」、および「YAMAHA DS-XG GamePort」がインストールされま
す。

アドバイス

「Disk が必要です」というメッセージが表示されたときは
「YAMAHA DS-XG PCI Audio Device Diskが必要です。」というメッセージが表示されたときは、「OK」
をクリックします。
「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。
c:¥windows¥system

- 19 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム) をクリックします。
- 20 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 21 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の **+** をクリックします。
一覧が表示されます。



このように表示されることを確認します。

(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)

アドバイス

「！」や「×」が表示されている場合

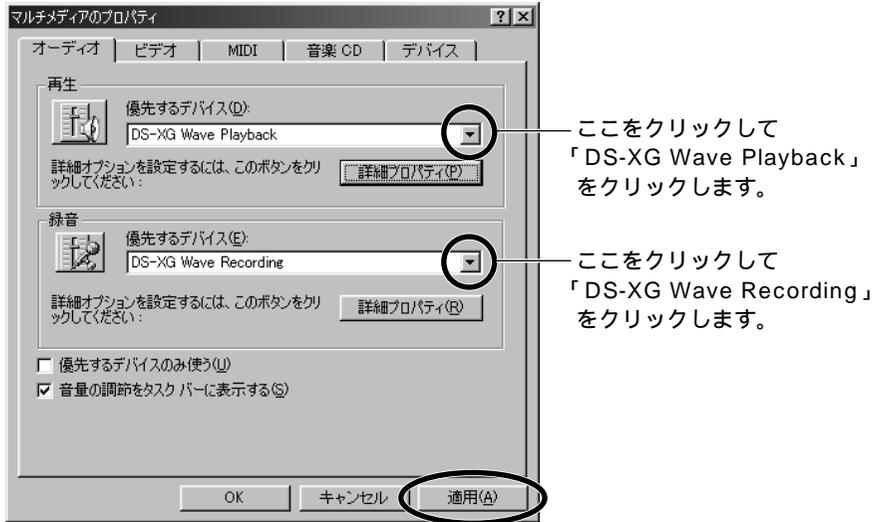
「！」や「×」が表示される場合は、手順 4 からやり直してください。それでも「！」や「×」が表示される場合は、サウンドドライバ以外に問題がある可能性があります。
弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

- 22 「OK」をクリックします。

次に、MIDI の設定を行います。

- 23 「コントロールパネル」ウィンドウの  (マルチメディア) をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

- 24 「再生」の「優先するデバイス」が「DS-XG Wave Playback」に、「録音」の「優先するデバイス」が「DS-XG Wave Recording」になっていることを確認します。
なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「DS-XG Wave Playback」、および「DS-XG Wave Recording」をクリックして、「適用」をクリックします。



- 25 「MIDI」タブをクリックします。
- 26 「単一の機器」の欄に、「DS-XG Synthesizer」が選択されていることを確認します。
「DS-XG Synthesizer」が選択されていないときは、「DS-XG Synthesizer」をクリックしてください。
- 27 「OK」をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 28 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 29 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」→「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

2

その他の注意事項

グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意

PCI規格の拡張スロットにグラフィックスカードを取り付ける場合、取り付ける前に「ATI mach64 ディスプレイドライバ」の削除を行ってください。

削除の手順は以下の通りです。

ただし、マルチモニタ機能を使う場合は、「マルチモニタ機能を使う」(●▶P.91) をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが開きます。
- 3 一覧の中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 4 「追加と削除」をクリックします。
「ATI アンインストール」ウィンドウが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 6 「電源を切る」(●▶P.11) をご覧になり、本パソコンの電源を切り、グラフィックスカードを取り付けてください。
詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.49) をご覧ください。

IDE デバイスを取り付けるときの注意

IDEのセカンダリのマスタに初めから接続されていたCD-ROMドライブを、セカンダリのスレーブに接続し直すと、接続したデバイスが認識されないことがあります。取り付ける前に、必ず以下の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「CD-ROM」の  をクリックし、「MATSHITA CD-ROM CD-588」をクリックします。
- 4 「削除」をクリックします。
- 5 「警告: このデバイスをシステムから削除しようとしています。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 7 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンの電源が切れます。
- 8 増設するデバイスを本パソコンに取り付けます。

市販の MIDI 機器を接続するには

本パソコンには、背面に MIDI 機器を接続するための端子 (MIDI/JOYSTICK 端子▶▶ P.5) があります。この端子と MIDI 機器とをケーブルで接続します。接続には MIDI/JOYSTICK 変換ケーブルが必要です。別途ご購入ください。MIDI 機器との接続について詳しくは、MIDI 機器のマニュアルをご覧ください。

液晶ディスプレイの廃棄について (MIX 36L をお使いの方)

液晶ディスプレイ内のバックライト (蛍光管) の中には、水銀が含まれています。本液晶ディスプレイの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

液晶ディスプレイの特性について (MIX 36L をお使いの方)

- 液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られていますが、画面上に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。また、表示する色により画面が点滅するように見える場合があります。
- 液晶ディスプレイは、特性上、液晶変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

ACPI について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ただし、ACPI 機能に設定した場合には、次のような注意事項があります。ご購入時の設定は APM 機能となっており、そのままお使いいただくことを強くお勧めします。

ACPI 機能をお使いになる場合は、次の注意事項を十分ご確認ください。ACPI 機能へ設定を変更する場合は、設定を正しく行わないと Windows98 が起動しなくなる場合があります。十分ご注意ください。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows98 の ACPI 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

拡張カード、オプション機器は ACPI に対応している必要があります

ACPI 機能は Windows98 がパソコン全体の電力を管理する機能であるため、パソコンに接続されているすべての拡張カードおよびオプション機器は、ACPI 機能に対応している必要があります。ACPI 機能に対応していない拡張カード、またはオプション機器を接続して使用する場合には、APM 機能のままお使いください。ACPI 機能に設定して、ACPI 機能に対応していない拡張カードまたはオプション機器を接続すると、拡張カードまたはオプション機器が使用できない、省電力モードから復帰しない、などの不具合が発生する場合があります。

なお、お使いになる拡張カードまたはオプション機器によっては、デバイスドライバで ACPI 機能に対応できるものもあります。

詳しくは、拡張カードやオプション機器のマニュアルをご覧ください。

APM 機能に戻すためには、再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります

ハードディスク内のWindows98を残したまま、APM 機能へ設定を戻すことはできません。APM 機能へ設定を戻すには、『パソコンをふりだしにもどす本』をご覧になり、ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

ACPI に切り替えた直後は電源スイッチを押すと電源が切れます

電源スイッチでスタンバイへの切り替えを行う場合は、以下の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「電源の管理」をクリックし「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にします。

IRQ9 は ACPI 機能で使われます

システムリソースの「IRQ9」を「ACPI バスで使用されている SCI IRQ」が使用しますので、拡張カードなどをお使いの場合は、リソースの重複にご注意ください。

内蔵モデムカードによる Wake up on Ring 機能は使えません

内蔵モデムカードに接続した回線からの呼び出しでは、スタンバイからの復帰はできません。

最新情報を入手するには

ACPI 機能に関する最新の注意事項については、富士通インターネット情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>)に掲載していますので、あわせてご確認ください。

Windows 98 の ACPI 機能を設定する**■ 必要なものを用意する ■**

ACPI の設定には、以下のものがが必要です。

- 『パソコンをふりだしにもどす本』
- 『取扱説明書』
- 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」
- 「アプリケーション CD」
- 「リカバリ CD-ROM」

■ ACPI 切り替えプログラムを使う ■

いったん ACPI 機能に切り替えると、APM 機能に戻すには、増設したオプション機器 (拡張カードやプリンタ、スキャナなど) を取り外し、作成したデータを保存して、再度ハードディスク (C ドライブ) をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を再度確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。

- 1 『パソコンをふりだしにもどす本』、『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。
ご購入後に増設されたオプション機器 (拡張カード類やプリンタ、スキャナなど) は全て取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けしないでください。また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。
- 2 本パソコンの電源を入れます。
- 3 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥chgacpi¥chgacpi.exe
eには、お使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

6 「次へ」をクリックします。

7 「ACPIモードに設定する」のをクリックし、にします。

8 「次へ」をクリックします。

9 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

10 「次へ」をクリックします。

11 「次へ」をクリックします。

アドバイス

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたときは「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックしてください。

12 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。

13 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

14 「完了」をクリックします。

15 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
Windows98が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

アドバイス

メッセージが表示されたら

- 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- 「Windows98のCD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、c:¥windows¥options¥cabsと入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

16 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

17 本パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブからⓂ「アプリケーションCD」を取り出します。

18 ACPI機能に設定されたことを確認するため、電源スイッチを押します。
自動的に電源切断処理が行われ、Windows98が終了すれば、ACPI機能が正常に働いています。

19 電源が切れたら、10秒ほど待って、もう一度本パソコンの電源を入れます。

■ 画面の設定をする ■

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color(16ビット)」に設定します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。本パソコンが再起動します。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
- 7 「設定」タブの「画面の領域」と「色」を設定します。
ご購入時の設定値は、「画面の領域」が「1024 × 768 ピクセル」(MX365は「800 × 600 ピクセル」)、「色」が「True Color(32ビット)」です。
- 8 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
- 9 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

■ 3 モードフロッピードライブを再インストールする ■

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。
- 3 「Fujitsu3-modeFloppy(FMVSeries)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。

アドバイス

「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示されたときは「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックしてください。

.....

- 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- 11 「ディスク使用」をクリックします。
- 12  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 13 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥3modé`
e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 14 「次へ」をクリックします。
- 15 「完了」をクリックします。
ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
- 16 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 17 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。

これで ACPI 機能の設定は終了です。

このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

索引

記号

109 キーボード	8
2DD フロッピーディスク	18
2HD フロッピーディスク	18
3 モードドライブ	18

A

ACPI	150
Alt キー	8
Application キー	8
ATAPI	7

B

Back space キー	8
BIOS FEATURES SETUP	105
BIOS セットアップ	94
- の設定時に使う各キーの役割	97
- の設定を変更する	96
- の操作のしかた	95
- のメニューの詳細	101
- を起動する	95
- をご購入時の設定に戻す	99
- を終了する	98
BIOS メッセージ	126
BUSY ランプ	2

C

Caps Lock 英数キー	8
CD-ROM	21
- が取り出せないとき	23
- をセットする	22
- を取り出す	23
CD-ROM ドライブ	3, 7
- 仕様	132
- のお手入れ	27
CHIPSET FEATURES SETUP	109
CMOS RAM	94
Ctrl キー	8

D

Delete キー	9
DIMM	44
DRQ (DMA 要求)	54, 134

E

ECC	44
EJECT ボタン	3
End キー	9
Enter キー	9
Esc キー	8
EXIT WITHOUT SAVING	122

F

FAX/ ボイスモデムカード	50
- 仕様	131
F キー	8

H

Home キー	9
---------	---

I

I/O ポートアドレス	54, 135
IDE	7, 61
IDE HDD AUTO DETECTION	121
Insert キー	8
Int13 ユニット	73
INTEGRATED PERIPHERALS	118
IRQ (割り込み要求)	54, 134
ISA	51
ISA 拡張カード	51, 53

L

LAN カード	50
LINE IN 端子	4
LINE OUT 端子	4
LINE 端子	4, 139
LOAD BIOS DEFAULTS	117
LOAD PERFORMANCE DEFAULTS	118

M

MB	18
MIDI/JOYSTICK 端子	5, 139
MIDI 機器	150
MO	87
MO ドライブ	87

N

Num Lock キー 9

P

Page Down キー 9

Page Up キー 9

Pause キー 9

PC/AT 互換機 31

PCI 51

PCI 拡張カード 51, 53

PHONE 端子 4, 139

Plug&Play 52

PnP 52

PNP/PCI CONFIGURATION 116

POST 104

POWER MANAGEMENT SETUP 112

Print Screen キー 8

S

SAVE & EXIT SETUP 122

Scroll Lock キー 8

SCSI 61

SCSI カード 50, 63

SCSI ケーブル 63

SDRAM 44

Shift キー 8

SPD 44

STANDARD CMOS SETUP 101

SUPERVISOR PASSWORD 121, 123

T

TA 89

TWAIN 88

U

USB 5

USB 機器 90

USB コネクタ 4, 138

USER PASSWORD 121, 123

W

Windows キー 8

ア

アウトレット 5

イ

インジケータ 9

インストール 31

インレット 5

エ

液晶ディスプレイの特性 150

液晶ディスプレイの廃棄 150

オ

お手入れ 24

オプション機器 30, 87

音量つまみ 15

音量ボリューム 15

音量を調節する 14

カ

カーソルキー 9

解像度 133

書き込み禁止タブ 20

拡張カード 49

- のドライバをインストールする 58

- を増設する 49

- を取り付ける 55

拡張スロット 7, 51, 55

各部の名称と働き 2

キ

キーボード 8

- のお手入れ 24

キーボードコネクタ 4, 139

強制終了できないとき 13

ク

空白キー 8

グラフィックスカード 149

ケ

ケーブル 31, 140

ケーブルセレクト 69

コ

工具 32

コネクタのピン配列と信号名 138

サ

- サウンド機能仕様 131
- サウンドドライバをインストールする 145

シ

- システムバスクロック 44
- 終端抵抗 63
- 終了 11
- 仕様一覧 130
- シリアルコネクタ 4, 138

ス

- スキャナ 88
- スタンバイ 13
- スピーカー 14
 - から音が聞こえないとき 16
 - 仕様 132
 - の音量を調節する 14
- スペースキー 8
- スリープランプ 3
- スレーブ 69
- スロットカバー 57

セ

- セットする
 - CD-ROM 22
 - フロッピーディスク 20
- 接続する
 - プリンタ 35

ソ

- 増設する
 - 拡張カード 49
 - ハードディスク 60
 - メモリ 43
- 外付けハードディスク 63
 - を取り付ける 70

タ

- ターミナルアダプタ 89
- ターミネータ 63

チ

- チルトフット 9

ツ

- 通風孔 5, 7

テ

- ディスプレイコネクタ 5, 138
- ディスプレイドライバをインストールする 143
- ディスプレイのお手入れ 24
- デバイス 137
- テンキー 9
- 電源 10
 - を入れる 10
 - を切る 11
- 電源スイッチ 3, 13
- 電源ユニット 7
- 電源ランプ 3

ト

- ドライバ 31
- 取り出す
 - CD-ROM 23
 - フロッピーディスク 20
- 取り付ける
 - 拡張カード 55
 - 外付けハードディスク 70
 - 内蔵ハードディスク 64
 - フロントパネル 42
 - 本体カバー 40
 - メモリ 45
- 取り外す
 - フロントパネル 41
 - 本体カバー 38

ナ

- 内蔵オプション機器 83
 - を取り付ける 84
- 内蔵ハードディスク 7, 63
 - を取り付ける 64

ハ

- ハードディスク 60
 - 増設時のドライブ名の割り当て 78
 - の領域を削除する 77
 - の領域を設定する 72
 - を増設する 60
 - をフォーマットする 79
- ハードディスクアクセス表示ランプ 3
- ハーフサイズ 51

パスワード	123
- 設定後のパソコンの起動	124
- の種類	123
- を削除する	124
- を設定する	123
- を変更する	125
パソコン本体	2
- 仕様	130
- のお手入れ	24
発色数	133
パラレルコネクタ	5, 138

ヒ

光磁気ディスクドライブ	87
ビデオキャプチャカード	50

フ

ファイルスロット	3, 7
- にオプション機器を取り付ける	83
フォトタッチソフト	88
プラグアンドプレイ	52
プラスのドライバー	32
プリンタ	33
- を接続する	35
プリンタケーブル	34
フルサイズ	51
フロッピーディスク	18
- のデータを守る	20
- をセットする	20
- を取り出す	20
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	2
フロッピーディスクドライブ	2, 7
- のお手入れ	26
フロッピーディスク取り出しボタン	2
フロントパネル	41
- を取り付ける	42
- を取り外す	41

へ

ヘッドホン	17
- から音が聞こえないとき	17
ヘッドホン端子	2
ヘッドホンボリューム	2

ホ

本体カバー	38
- を取り付ける	40
- を取り外す	38

マ

マイク端子	4
マウスコネクタ	4, 139
マウスのお手入れ	24
マスター	69
マルチモニタ機能	91

ミ

ミュート	15
------------	----

メ

メモリ	43
- の組み合わせ	45
- の取り付け場所	44
- の持ちかた	46
- 容量の数値が増えていないとき	47
- 容量を確認する	47
- を交換する	48
- を取り付ける	45
- を増やす	43
メモリスロット	7, 44

モ

モデムカード	50
--------------	----

リ

リソース	54, 134
- 一覧	134
- を解放する	135
領域	
- を削除する	77
- を設定する	72

Microsoft、Windows、WindowsNT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Celeron は Intel Corporation の商標です。
RAGE は ATI Technologies 社の商標です。
K56flex は、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 1999
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV 本体 & オプションガイド

B3FH-4921-01-00

発行日 1999年1月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

ここでは、マニュアルの主な内容を紹介しています。

初めてのの方は...

『かるがるパソコン入門』

- ・基本の操作を覚える
- ・文字を打つ

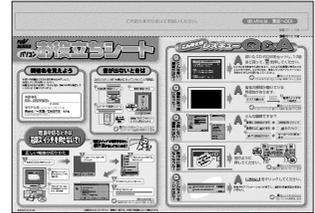


CD-ROMが
付いています



『お役立ちシート』

- ・お手元に置いてお使いください。



FMVを使いこなそう!

『まるごとEnjoy FMV』

- ・FMVでできること
- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る



『はじめよう! インターネット』

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



5時間
無料体験付き

『楽しもう! デジタル写真』

- ・デジタルカメラで写真を撮る
- ・写真でカレンダーを作る
- ・電子アルバムを作る

次の機種には添付されません。
FMV-DESKPOWER MIX36L / MIX367 / MIX365
FMV-BIBLO NEIX26 / NSIX26X / MFX26



パソコンの取り扱い

『FMV 本体&オプションガイド』

- ・各部の名前を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす
- ・ハードディスクを増やす



トラブル解決!

『困ったときのQ & A』

- ・困ったときの画面集
- ・画面の設定を変える
- ・サポート情報
- ・パソコン用語集



『パソコンをふりだしにもどす本』

- ・買って来た状態にもどす



パソコンのしくみを知る

『パソコンがおもしろくなる本』

- ・パソコンのしくみを知る
- ・使いかたのコツをつかむ



T 4988618872058